

REPORTS OF SUMMER EXCHANGE PROGRAM AT 3 VETERINARY SCHOOLS IN THE USA, 2010

米国三大学獣医学部夏季研修レポート 2010



PURDUE UNIVERSITY,
SCHOOL OF VETERINARY MEDICINE



THE UNIVERSITY OF TENNESSEE,
COLLEGE OF VETERINARY MEDICINE



THE UNIVERSITY OF GEORGIA,
COLLEGE OF VETERINARY MEDICINE



Kitasato University, School of Veterinary Medicine

はじめに

今年も獣医学科の5年生21名は北里大学と米国三大学との間で締結されている学術交流協定に基づき、米国三大学の獣医学部附属動物病院で獣医臨床実習を行い、無事帰国しました。出発する前は、体調の問題、治安の問題、細かい実習時の服装の問題など色々心配事がありましたが、これまでの15年間の夏期研修で一度も事故は発生していないことを取りあげ、それらの不安を払拭しました。しかし、終ってしまえば楽しかった思い出ばかりが頭をよぎり、また、来年も参加したいと言い出す学生さんも出て来ます。この状況は今回も同じではないでしょうか。Purdue 大学には吉川助教（平成22年8月7日～8月22日）、Tennessee 大学には柏本講師（平成22年8月21日～9月5日）、Georgia 大学へは柿崎助教（平成22年8月14日～8月29日）の先生方に同行して頂きました。学生さんのお世話、大変有難うございました。米国入国時のチェックはテロ問題で厳しさを増しています。恐らく時間が掛かったと思います。動物病院で実習が始まると、学生さんは実習希望項目の変更を申し出たり、あるいは苦情を言ったり、それなりに手間取ります。米国人教員宅に接待されれば、いろいろと気配りも必要になります。さらに出発前には狂犬病予防注射の実施、旅行保険への加入、英会話講師との交渉、約1年間、この研修のための活動がありました。無事、飛行機が成田空港に着陸した時は、まさにホッとされたことでしょう。この米国三大学での夏期研修、学生さんには計り知れない興奮と希望を与えたものと確信しています。それは毎年、研修終了後に行われる研修報告会で見て取れます。研修終了後は自分が一回り人間的に大きくなったと感じている人もいるでしょう。この研修に参加出来たことを誇りに感じ、さらに大きく成長されることを切に望みます。

今年の7月にはPurdue 大学からDr. Brenda Austinが来学しました。小動物外科の専門獣医師でした。4年生、5年生に講義を行い、学生さんは米国の獣医学科学生が受けている講義を実際に体験出来ました。これも学生さんにとっては新鮮で、彼らが病気の動物にどう接しているか、どう処置しているか、良く理解出来たはずです。さらに、11月にはGeorgia 大学から馬の専門獣医師が来学し、学生さんに講義する予定になっています。米国三大学との学生教育に関する交流は、上述の夏期研修と米国人教員による講義が両輪となっています。日本の獣医学の歴史は浅く、明治時代以降、たかだか100年と少し、多くが仏教徒である日本人は動物の殺生を嫌った瑞穂の民族です。こと獣医学に関しては欧米から学ぶことは山ほどあることを考えなければなりません。日本製の先進の医療器械が米国の動物病院でも多く使用されています。しかし、動物の取り扱い方、また飼育の仕方は、狩猟民族である彼らは生まれた時からすでに身に付けているように私には思えます。米国三大学との交流がこれまでも増して、活発化することを大いに期待しています。

2010年10月31日 国際交流委員会（米国）委員長 大浪洋二

これまでの米国 3 大学からの招聘教員および交換留学生

Purdue University

招聘年・月	氏名 Name	職位 Status	専門 Specialty
1996. 6	Dr. Ralph Richardson	Professor	Veterinary Internal Medicine
1997. 6	Dr. John Van Vleet	Associate Dean and Professor	Veterinary Pathology
1998. 6	Dr. James P. Toombs	Professor	Small Animal Orthopedics and Neurosurgery
1999. 9	Dr. Alan H. Rebar	Dean	Veterinary Clinical Pathology
2000. 6	Dr. Paul Robinson	Professor	Immunopharmacology and Biomedical Engineering
2001. 10	Dr. David J. Waters	Professor	Oncology
(Cancelled due to 9.11 terror)			
2002. 11	Dr. David J. Waters	Professor	Oncology
2003. 11	Dr. Allan Beck	Professor	Animal Ecology
2004. 6	Dr. Harm Hogen Esch	Professor	Head of Department of Veterinary Pathobiology
2005. 11	Dr. Sophie A. Lelièvre	Associate Professor (2010)	Basic Medical Sciences
2007. 10	Dr. Henry W. Green	Associate Professor	Cardiology
2008. 11	Dr. Abdelfattah Nour	Professor	Basic Medical Sciences Director of International Program
2009. 5	Dr. Willie Reed	Dean and Professor	Veterinary Pathology
2009. 10	Dr. Steve Thompson	Associate Professor	Pet Primary Care
2010. 7	Dr. Brenda Austin	Assistant Professor	Small Animal Surgery

The University of Tennessee

招聘年・月	氏名 Name	職位 Status	専門 Specialty
1995. 9	Dr. Michael Shires	Dean and Professor	Veterinary Surgery
1996. 11	Dr. Robert Toal	Associate Professor	Veterinary Radiology
1997. 11	Dr. Robert C. DeNovo	Associate Professor	Veterinary Internal Medicine
1998. 6	Dr. Dan Ward	Associate Professor	Veterinary Ophthalmology
1999. 6	Dr. Michael Shires	Dean and Professor	Veterinary Surgery
2000. 6	Dr. James Brace	Associate Dean and Professor	Internal Medicine
2001. 6	Dr. Karen Tobias	Associate Professor	Veterinary Surgery
2003. 1	Dr. Frank Andrews	Professor	Large Animal Medicine
2003. 4	Dr. Michael J. Blackwell	Dean	Public Health and Epidemiology
(Cancelled due to Iraq war)			
2003. 4	Dr. Michael J. Blackwell	Dean	Public Health and Epidemiology
2009. 7	Dr. Michael M. Fry	Associate Professor	Clinical Pathology

The University of Georgia

招聘年・月	氏名 Name	職位 Status	専門 Specialty
1996. 6	Dr. Charles Martin	Professor	Veterinary Ophthalmology
1997. 5	Dr. Jean Sander	Associate Professor	Poultry Disease
1999. 1	Dr. Corrie Brown	Professor	Head of Department of Pathology
2000. 11	Dr. Margarethe Hoening	Professor	Physiology and Pharmacology
2001. 12	Dr. Raghbir Shama	Professor	Physiology and Pharmacology
2003. 1	Dr. Duncan Ferguson	Professor	Physiology/Pharmacology and Small Animal Medicine
2004. 1	Dr. Thomas F. Murray	Distinguished Professor	Head of Physiology and Pharmacology
2005. 1	Dr. Mary Ann Radlinsky	Assistant Professor	General Surgery
2006. 6	Dr. Patrick Hensel	Assistant Professor	Dermatology
2006. 6	Dr. Ursula Dietrich	Associate Professor	Small Animal Medicine and Surgery
2007. 9	Dr. Suzan White	Professor	Large Animal Medicine
2008. 9	Dr. Amie Koenig	Associate Professor	General Internal Medicine +CE
2008. 11	Dr. Patrick Hensel	Assistant Professor	Dermatology
2009. 10	Dr. Simon Platt	Associate Professor	Neurology +CE
2010. 2	Mrs. Malorie D. Franks	Student	Class of 2011

+CE: Continuing Education (卒後教育セミナー含む)

米国三大学研修参加者および同行教員

年度	Purdue			Tennessee			Georgia		
	Students		Faculty	Students		Faculty	Students		Faculty
	男 M	女 F		男 M	女 F		男 M	女 F	
1995	2	3	I. Hashimoto	5	5	K. Watanabe	3	0	K. Temma
1996	0	6	T. Ogasawara	3	11	Y. Hikasa	0	5	K. Takehara
1997	1	4	To. Oyamada	0	7	Y. Ohnami	3	2	H. Madarame
1998	2	4	S. Ueno	2	6	Nobu. Ito	2	4	S. Okano
1999	2	5	H. Itoh	1	7	S. Kawamura	3	4	S. Kurusu
2000	1	8	Y. Hara	3	5	M. Uechi	3	4	N. Maehara
2001	7	5	F. Hoshi	4	4	N. Susa	2	5	K. Mutoh
2002	2	8	I. Sakonju	2	2	S. Takai	2	5	K. Orino
2003	3	6	N. Hoshi	2	5	S. Higuchi	1	4	M. Kawaminami
2004	3	5	U. Fukushima	3	4	M. Natsuhori	2	5	H. Ikadai
2005	6	3	K. Taniguchi	4	5	T. Sano	2	5	O. Hashimoto
2006	6	3	K. Watanabe	1	6	C. Baku	3	5	T. Andoh
2007	3	4	M. Oikawa	0	8	T. Kakuda	0	8	M. Okamura
2008	3	4	Nao. Itoh	2	4	Y. Hara	3	3	K. Takehara
2009	4	3	T. Yonezawa	5	3	To. Oyamada	3	5	Y. Ohnami
2010	2	4	Y. Yoshikawa	4	3	T. Kashimoto	0	8	T. Kakizaki

**Purdue University
School of Veterinary Medicine
9 – 20 Aug. 2010**



Sakura ISHIDA, Hiroko IIO, Hidemi FUJIWARA, Sayumi KATO, Dr. Willie M. REED
Akitsugu NISHIURA, Ryusuke NAGINO, Dr. Yasunaga YOSHIKAWA

同行教員：吉川泰永 Dr. Yasunaga YOSHIKAWA

氏名	Name	所属研究室
飯尾 寛子	Hiroko IIO	大動物外科
石田 沙倉	Sakura ISHIDA	大動物外科
加藤 紗友美	Sayumi KATO	人獣
坪野 龍介	Ryusuke NAGINO	第二外科
西浦 照二	Akitsugu NISHIURA	病理
藤原 秀美	Hidemi FUJIWARA	大動物内科

Purdue 大学研修の報告書

はじめに

本研修は、北里大学でのポリクリのような研修を2週間にわたって行うものである。Purdue 大学での研修は、朝8時に登校した後、学生ごとに自分が希望した診療科に行き、基本的には夕方17時まで実習を受けるというものである。今年度はPurdue 大学での国際交流委員長である Dr. Scott-Moncrieff の薦めもあり、学生ごとに本当に興味ある少数の診療科の実習を数日間にわたって参加した。

今年度の本報告書も昨年度のものと同様に従来の日記形式ではなく、基本的に①各診療科およびランチセミナーの特徴、②休日の過ごし方、③感想および総括、④英文による謝辞に分けて記載した報告書を学生ごとに掲載した。

飯尾 寛子

週1回の英語レッスンを受け、北里大学についての発表用のパワーポイントを作り、お土産を揃えてPurdue 大学での研修に臨んだ。

各自希望する Clinical Rotation を事前に提出し、予定を組んだ。私は1週目にLAS(Large Animal Surgery)、2週目にはLAM(Large Animal Medicine) で研修した。

①各診療科の特徴

〈大動物 (LAS, LAM)〉

大動物の学生は朝8時と夕方5時に入院患者(一人1~2頭)の所見をとる。その他日中は2時間毎に排泄物の有無など様子を観察する。夜中は2時間毎にVT(テクニシャン)が患者の状態を確認する。

毎朝セミナーやラウンドがあり、患者につ

いての話し合い、臨床病理学的検査の数値の読み取り、勉強会などを1時間程行う。

毎朝、掲示板に診察の予約が張り出される。時間になって患者が来院すると、学生が畜主に問診し、患者の診察を行う。その後、先生と話し合い、処置や検査項目を決めて診療を行う。

診察がないときは Teaching Horse を使って超音波検査や注射、関節液や腹水の採取などを練習する。また、死亡患者へ手紙を書いたり、ゼミの準備をしたり論文を読んだりしていた。

多くの患者は外来であるが、持続点滴や術後管理などが必要な場合は入院する。入院棟(WARD)は4つあり、研修中は馬、牛、羊、アルパカ、ラマが多数入院していた。入院棟は患者の出入りごとに清掃および消毒され、常に清潔な状態が保たれていた。掃除や洗濯はすべて従業員が行う。

処置室も3~5部屋あり、手術、X線撮影などが行いやすいようになっている(エアコン完備)。

大動物専用のX線撮影装置、CTやMRIも整っていた。

手術時の麻酔は麻酔科が行う。

ドクターもテクニシャンも人数がそろっており、ドクターはレジデントや学生に処置の方法などを丁寧に教え、獣医師になる者として学ぶ環境も整っていた。

大学にはVT(テクニシャン)の学校もあり、病院では獣医学生とテクニシャンの学生が共に学んでいた。多くのテクニシャンの学校は獣医病院と併設されていないので、パデュー大学はチーム獣医療を学ぶには良い環境が整っていると伺った。

日本の大動物診療と大きく異なる点は、伴侶動物としての馬が多いことだと思った。産業動物としての牛とも扱いが全く違うことに

驚いた。動物の種類、役割、価値、体の構造などに合わせた医療が行われていた。

ラマやアルパカを見ただけでも珍しかったが、過去にはヘラジカ、ラクダ、バッファロー、ゼブー、ダチョウ、ピューマなどが来院したことがあると伺った。

1日の流れ

ラウンド：①各学生が担当している患畜について話し合う。来院経緯、状態、治療内容、今後などについて話し合う。②臨床病理学検査のラウンドでは、血液検査や尿検査の値を読み取り、考察し、議論する。

セミナー：法律のセミナーやレジデントの発表を聞いたり、ドクターがあるテーマについて講義したり、学生が発表したりしていた。

診察：患畜が来院したら学生が畜主に問診し、患畜の診察を行う。その後、先生と話し合い、処置や検査項目を決めて診療を行う。

処置：入院患畜の治療を行っていた。

何もないとき：Teaching Horse を使って様々な処置の練習をしていた。

〈LAS〉

主に外科的疾患を担当する。

馬ではハ行診断、蹄葉炎、喉頭疾患、骨折治療、疝痛の手術があった。牛では削蹄、帝王切開、骨折治療があった。Hoof Palace という牛を横臥状態で固定して蹄の処置をする治療室があり、外科で多用していた。X線検査室も多用していた。また、トレッドミルでの内視鏡検査も見ることができた。

〈LAM〉

主に内科的疾患を担当する。

馬では疝痛が主であり、その他は下痢、ショックウェーブという機器を用いた治療などがあった。牛では乳房炎の乳房洗浄があっ

た。

その他、リステリア感染疑いの羊、発作を起こしたアルパカ、貧血のアルパカ、肺炎のラマなどを見た。病院にはアルパカの輸血用の血小板も保存されていた。また、血液ドナーとして同じ牧場からラマやアルパカを2～3頭ずつ入院させていた。

・第1週目 (LAS)

8月9日 (月)

8:30 から病院 (PVTH; Purdue Veterinary Teaching Hospital) でオリエンテーション後、午後のプレゼンテーションの練習を行った。

午後は病院内で集まって下さった方々に対し、北里大学についてのプレゼンテーションを行った。13時以降は各自のクリニカルローテーションに入った。

LAS では馬のハ行診断を見学した。並足および速足での歩様観察、屈曲テスト、屋外の円形パドックでの歩様観察、神経ブロックを行っていた。最終的に飛節に問題があると疑い、X線検査で関節炎と確定していた。ステロイド剤を関節内に注射し、経過を観察していくことになった。

8月10日 (火)

朝はLASのSeminar (ゼミのようなもの) があり、雌馬の生殖器外科手術 (顆粒細胞腫、卵巣摘出、会陰部損傷) についての講義を受けた。

その後、アンガス種雄牛の蹄底潰瘍の洗浄および削蹄、CowSlips を履かせる処置、別件の蹄底潰瘍の治療を見学した。また、後肢指間に膿瘍をもつ乳牛の足指を切断していた。リドカインで中足骨下部より先端に局所麻酔を施し、線鋸で切断した。

昼はランチセミナーで Emergency につい

での講義を受けた。

午後は特に何もなかったので **Teaching Horse**(提供馬)を使って注射、尾椎麻酔、直腸検査、腹水採取、関節液採取などの練習をしていた。

夜は **Walmart** で買い物をした。

8月11日(水)

朝の **Round** で各自担当している症例の状態や今後の処置について話し合っていた。

前日に足指を切断した乳牛のバンテージを巻き替えていた。

昼は吉川先生による犬の乳腺腫瘍についてのセミナーに出席した。

Arcanobakterium Pyogenes による乳房炎に罹患したジャージー牛の乳房洗浄を見学した。

8月12日(木)

明け方に馬のセン痛の急患が入り、そのまま緊急手術を行ったと伺った。8時過ぎには終了していた。

8時半から **Clinical Pathology** の **Round** があり、羊の血液検査、尿検査所見などについての数値を読み取り、そこから何が言えるか、どのような処置が必要かなどを話し合った。

午前中に来院した患畜はハ行を呈した馬、馬の蹄葉炎、牛の指間過形成、羊の神経異常 (**Listeria** 疑い)、アルパカの発作であった。この日のランチセミナーは **Dr. Shremp** によるリンパ腫についての講義だった。

午後は **Dr. Hilton** に往診へ連れて行ってもらった。土曜日の **State Fair** で売りに出す豚の健康診断、子牛のギプス巻き替え、ハ行を示した牛の様子観察を行った。

夜は **Dr. Thompson** 一家が買い物へ連れて行って下さり、楽しい時間を過ごした。

8月13日(金)

8時過ぎから獣医関連法規のセミナーに出席した。地元の弁護士を招いての特別講義だったが、何も聞き取れなかった。その後は学生の **Round** があり、患畜のX線画像を見て議論していた。

午前の症例は子馬の上腕骨骨折の再診があり、X線を撮影していた。午後は状態が回復したラマが起立できるか試みるため、フックで吊り上げたりしていた。

その後は特に何もなかったので図書館へ行ってみた。

夜は久々の日本食を食べに連れて行ってもらった。

・第2週目 (LAM)

8月16日(月)

8時半からセミナーに参加した。各学生が自分の担当している患畜の状態、処置、今後について話し合った。

11～12時半までは **Discovery Park** を見学した。

午後は馬のセン痛手術後の超音波検査を見学した。その後、隔離病棟を見学した。

8月17日(火)

8時過ぎに牛の難産の緊急手術があった。外陰部から胎子の両前肢蹄が露出しており、怒責と共に胎子の鼻先や舌も確認できた。尾椎硬膜外麻酔を施し、胎子を押し戻して整復すると同時に、左ケン部の剃毛および消毒を行っていた。胎子を産科チェーンで牽引しても出なかったため、滅菌および局所麻酔が終わり次第切開し、胎子を引き出した。すぐにエピネフリンとドキサプラムを注射し、鼻孔および口腔内の液体をサクションしたが、胎子はすでに死亡していた(約50kg)。子宮にはユトレヒト大学縫合が施されていた。

昼のランチセミナーは神経学で椎間板ヘルニアについての講義だった。

午後は Teaching Horse を用いて超音波検査の練習をしていた。肝臓、腎臓、胃を描出していた。

8月18日(水)

8～9時は LAM のセミナーであり、学生が Equine Metabolic Syndrome および Equine Protozoal Myeloencephalitis について発表した。その後、各症例についての話し合いが行われた。

この日の症例は腹部に腫瘤のある馬の超音波検査および口腔洗浄、トレッドミルでの検査、馬の歯科治療などであった。

8月19日(木)

8時から VT(veterinary technician) の留置練習を手伝った(馬を保定した)。その後、Clinical Pathology の Round に参加した。

午前アルパカの CSF 採取、牛の蹄底潰瘍の削蹄を見学した。アルパカは激怒し、隣にいた友人に唾液を飛ばしていた。

この日のランチセミナーは Dr. Goncarvos による Equine Nutrition についての講義だった。

8月20日(金)

8時から Dr. Pader によるセミナーを受けた(Update on Surgical Treatment of Equine Recurrent Laryngeal Neuropathy)。

9時、馬のセン痛の緊急手術を見学した。まず、呼吸数と心拍数をはかり、両側の頸静脈に留置し、大量の輸液を行っていた。鼻に入れたチューブから吸引し、口腔内を洗浄していた。その後、倒馬し、麻酔をかけ、腹部を切開した。小腸がガスで膨れており、ガスを盲腸へ押し、サクションしていた。その後、

壊死した腸管を切除していた。

11時、Dr. Scott-Moncrief が Fair Oaks Dairy Farm へ連れて行って下さった。乳牛が3,000頭おり、搾乳やお産を見学し、美味しいチーズやアイスを食べた。

夕方には Farewell Party があった。各自修了書を受け取り、お世話になった方々と別れの挨拶をした。

②休日の過ごし方

8月8日(日)

朝9時に Dr. Inoue とミーティングをし、研修や見学などの日程について話し合った。

夕方はレストランで学科長や昨年来里された Dr. Thompson などと食事した。

8月14日(土)

8～9時は下ノ原先生と大学内を汽車のようなバス(?)に乗せてもらい、ツアーした。

その後、Dr. Austin と Sarah が Indiana State Fair へ連れて行って下さった。ものすごい数の家畜を見て回れた。

8月15日(日)

Dr. Inoue と Dr. Scott-Moncrief が Indianapolis Zoo へ連れて行って下さった。キリンに餌を与え、サイ、ゾウのシャワー、動物病院を見学した。園内も一通り見学することができた。

③感想および総括

まず、アメリカは全てがビッグサイズで驚きっぱなしでした。ホテルの周りにはお店もたくさんあり、不自由なく生活でき、とても快適でした。

向こうの方々はずたない英語でも聞き取ろうと努力してくださるし、自分から積極的に話しかけるべきだと思います。話しかけない

とついていけません。獣医学うんぬんよりも英語を話すことを頑張りました。

ランチセミナーの内容も非常に興味深く、少人数で受けたので質問もしやすく、アットホームな雰囲気でした。

ドクター、テクニシャン、従業員の方々も多数おり、設備も整っていたので一つ一つの作業がスムーズに行われていたことに感動しました。緊急患者が来院したときも内科のドクターや学生が診察している間、テクニシャンの方々は手術の準備全般を行い、麻酔科が麻酔を管理し、外科のドクターや学生は滅菌に入り、準備が終わり次第手術を行っていました。この一連の流れに感銘を受けました。

毎日大動物を見せていただきましたが、日本との施設や診療の違いを実感できました。学生が主体で診療し、その患者には何が必要かなどを考えさせられる機会が多いと感じました。ラウンドやセミナーでも活発なディスカッションが行われていました。

2週間あっという間に過ぎてしまいましたが、まだまだ研修したいと思いました。獣医学をはじめ、本当に色々なことを学びました。アメリカでも日本でもたくさんの方々にお世話になりました。ありがとうございました。是非また行きたいです。

④謝辞

I thank everyone who took care of us, especially Dr. Scott-Moncrief and Dr. Tomo. And I also thank doctors in Kitasato University for preparing this course.

Our stay in Purdue University was very fruitful for us. Lunch seminars were really interesting. We had a lot of fun in weekends.

I stayed LAS and LAM for 2 weeks. We rarely vet horses in Japan but in Purdue,

most of the patients were horses. So, we were able to learn how to treat horses and other animals. Also, we could see a lot of facilities at the university. When I asked questions in my poor English, they tried hard to get what I wanted to say. And they answered sincerely although I couldn't catch up with them.

Anyway, it's good to be in a different environment to find differences between us or something new.

Thank you again!

Hiroko Iio

石田 沙倉

①各診療科の特徴

〈Large Animal Surgery: LAS 大動物外科〉

馬が一番多い。特に Colic。

内視鏡を使った繊細な作業から馬の歯を削ったり、多種多様な処置があつてとても面白かった。オペのときには普段小動物にいる麻酔科のメンバーがかけつけて麻酔の管理をしてくれる。外回りはテクニシャンが担当してくれるので外科のメンバーはオペに集中できた。すべての流れがスムーズで最低限の労力でひとつずつこなしているのを見るのは気持ちのいいものだった。

大動物に興味がある人も無い人も退屈せず、とても面白い科だと思う。特に馬に興味がある人にはお勧め。

〈Large Animal Medecine: 大動物内科〉

馬が一番多い。次に牛、ラマ、アルパカ。意外にもラマ、アルパカの方が牛より多かったかもしれない。

基本的に入院は少なく、通院が多い。

北里ではみたことが無い SHOCK WAVE など面白い機材を使って治療していた。手が空いているときには Teaching Horse を使ってエコーや注射、関節液採取などの練習をしていてとても熱心。大動物外科と協力して行う作業もあり、牛の帝王切開で取り出した子牛をみていた。牛用の大きな保定台もあり、設備と人材が整っていた。

〈Behavior: 行動学〉

* 1日4件前後で木曜日と金曜日しか開かれていなかった。

* 予約制

〈木曜日〉

朝8時～10時前までラウンド

10時～患者が来て行動学的な問診、カウンセリングをする。

〈金曜日〉

朝8時から研究室に関係なく全体のセミナーがあり、学生もドクターもそちらに参加していた。

10時～患者が来て行動学的な問診、カウンセリングをする。

* 1件の流れ

- ・学生が部屋へ患者とオーナーを連れてくる。
- ・ドクターの問診とテクニシャンが患者の状態を把握する。
- ・ビデオなどを持参している場合はそれを見ながら患者の問題点をしぼる
- ・患者、オーナーを部屋に残して他のメンバーは別の部屋へ行き、問題点、解決方法を議論
- ・元の部屋に戻り治療方法を説明、テクニシャンが実際患者に対して治療法を実演する。

木曜日と金曜日にしか開かれていないこ

とから学生は必ずしも固定ではなく、small animal community practice: 小動物診療実践科にいる学生がローテーションで行っている感じだった。実際木曜日のラウンドには獣医学生2人がいて診療にも2人とも来ていたが金曜は1人で行っていた。

ラウンドはかなり早口だった。口を挟む隙もないほど。というのもこの2時間で木曜と金曜の患者全てについて話し合っていた。出席者はドクターとテクニシャンと獣医学生2人。(※どんな患者が来るかはブルペンにあるパソコンでチェックできる。ただIDが必要なので Dr.Tomo が空いてる時間にチェックをお願いすると予習がしやすいと思う。) 基本的に学生が事前に電話などで問診し、オーナーと連絡を取っている。そこへドクター、テクニシャンが質問したりする形。よって学生は緊張しているし、余裕もない。オーナーへの追加の質問事項などをメモしてラウンドが終わった9:45にはどこかに急いで消えてしまった。多分患者へのメール、電話、加えて1件目の患者、オーナーへ案内をしていたのだと思う。(もし聞きたいことなどがあればラウンド直後にすると良い。)

患者が来ると動物は放されて部屋の中を自由に動き回る。テクニシャンがお菓子、おもちゃなどを使って行動を見ている間にドクターがオーナーに患者の様子を聞きだす。テクニシャンはクリッカーを使って動物と接していた。学生もこの時は黙って聞いていたので、なかなか質問できるような雰囲気ではないし写真に納めることも出来なかった。しかし、それぞれの患者に対するアプローチの仕方が面白かった。私が見ることが出来たのは Fear と Aggressive。どちらも北里の行動学の授業で知っていたのである程度予習できた。行動学はプリントを持参することをお勧めします。

1件につき2時間前後かけて診察、治療をするし、患者によってはそれ以上の時間をかけるのでどんどん時間が延びて次の患者が待っていることもあった。金曜日は昼ごはん食べてないのでは？と思うほどあわただしかったのでチャンスがあれば迷わず質問する方が良いと思います。また、ドクターでなくともテクニシャンにも質問すれば快く答えてくれます。多分テクニシャンの方がドクターや学生よりも余裕がある気がします。

感想

クリッカーを使ったトレーニングを多用していてとても面白かった。盲目の犬に対する処置も見ることが出来た。オーナーと動物の関係が日本と同じで、あまりに動物のことを気にしすぎた結果の行動異常もあった。とにかく新鮮で面白い！顔を触ると嫌がる犬に対しては外科と協力して外科のドクターと一緒に口腔周囲の異常がないか調べたり、それぞれの科の連携体制に改めて感心した。日本も専門性が高まって人と同じような診療科がもっと増えれば良いのにと強く思った。

〈Private Practice: 一般開業〉

基本的に日本の開業と同じだが、今回お邪魔した病院は規模が違った。一番驚いたのはリハビリやウエイトコントロールに使う2m×5mほどの動物用のプールがあることだ。そのよこには犬猫用の水中トレッドミル(自動歩行機)があった。1件トレッドミルの患者を見ましたが病院の入り口とは別の入り口になっている為か患者がとてもしラックスしていてオーナーも安心しているようだった。また、ペットホテルでは動物のサイズで部屋が異なっていて犬、猫両方最低でも半畳のスペースがあって、壁も子供部屋のようにプリントされていたり、おもちゃが与えられたり、

日本と比べるととても豪華だった。猫も部屋の中に遊び道具があるし、猫用の遊び部屋まで用意されていた。患者の疾患は日本と同様だったがテクニシャンが様々なことをできるのでドクターに余裕があるように感じた。

私が訪問した日には1件去勢のオペが入っていて見学させてもらったがドクター1人とテクニシャン1人だけがオペ室に入っていて、麻酔の管理などは全てテクニシャンが行っていた。音楽をかけながらオペをしていてとても和やかな雰囲気だった。また、驚いたことに部屋の1面が窓になっていて受付横にあるペット用品売り場からオペを見学できるようになっていた。

ドクターはその日2人来ていましたが他は7人ほどテクニシャンで、受付の人、掃除などをしてくれる人もいて役割分担がしっかりできていた。毎日6時くらいには帰宅できるとドクターが話してくれたので日本の病院よりも余裕を感じた。小動物獣医師を目指している人にはぜひ見てもらいたい。

〈大動物往診〉

往診に連れて行ってもらえるのは私たちが初めてだったようだ。往診に行くのは“Beef Production Medicine”のDr. Hiltonと彼についているテクニシャン、学生のみでLAS、LAMのメンバーは関与していない。毎日行っているわけではなく、たまたま往診があることをPurdue大学に着いてからDr. Tomoに教えられ、同行させてもらった。Purdue大学には往診用の大きなバンが数台あり、その荷物を積む場所には薬や往診道具が入っており、冷蔵庫も内蔵されていた。Dr. Hiltonはとてもし丁寧で気が利く先生で、質問すれば喜んで答えてくれた。

内容は去勢、除角、ワクチンなどで5年生の大動物実習の内容がよく生かされた。大動

物に興味がある人にはもちろん勧められるが、大学の外に出てアメリカの農家を体感できる貴重な機会なのでもし来年以降も日程的に行く機会がありそうならば行ってみたいと思う。

〈ランチセミナー〉

火曜日と木曜日のお昼にランチセミナーがあった。しかし、最初の火曜日は往診、2週目の木曜日は開業に行っていたので私は2つしか受けることはできなかった。

8. 12のランチセミナーはリンパ腫についてだった。レジデントの方の発表だったが写真を多用してくれたことでわかり易く、とても面白かった。ご飯食べながら聞いていいセミナーは新鮮。

8. 17のランチセミナーは椎間板ヘルニアについて。いままでの知識があるので英語の分からない部分があってもスライドを見て大体理解できた。

②休日の過ごし方

8.7sat 到着初日は夜に着いたのでホテルに直行して Dr. Tomo 達が用意してくれたサンドイッチを食べる程度だった。

8.8sun ホテルの地下スペースで朝9時から Dr. Tomo とスケジュールの確認をした。このとき初めて2週間全体の流れがわかった。その後はぶらぶら外に出て、ご飯を食べたりショッピングをしたりと自由時間があつた。その後、5時半にホテルで待ち合わせて夕食会へ行った。場所は近くのイタリアンレストラン。学科長や Dr. Thompson の家族、事務のオードリーが集まる夕食会だった。2時間ほど楽しんで解散した。その後はプレゼンの内容を考えたり、個々の時間をすごした。

8.14sat State Fair

インディアナ州のお祭り。畜産がさかんなのでいろんな種類の家畜や食べ物が売りのお祭りだった。どれもこれも大規模で、動物の品評会のようなものではとても綺麗に手入れされた動物たちが会場にいっぱい並んでいた。動物好きにはたまらない祭典。食べ物は揚げ物が中心だったが、めったに食べられないものがたくさんあってとても面白かった。Purdue 大の出し物もあって、一般大衆の前でガラス張りの部屋の中で本物のオペをしていた。

8.15sun Zoo

この日は車で2時間ほどかかる場所にある動物園に連れて行ってもらった。普段は入れないような動物園の動物病院を見せていただいたり、キリンやサイ、ゾウの飼育風景を見せていただいた。ここで意外にもセイウチにみんな感動していた。その理由は来年行けばわかることと思う。晴れていてとても暑かったがみんなで動物園を回って、いろんな動物を見て回るのはとても楽しく良い思い出になった。

③感想および総括

今回私が Purdue 大学に行った理由は、アメリカの進んだ獣医療を見たいと思ったからです。英語はたいして話せないし、日本にいる間も研究室の忙しさに完全に流されて勉強不足が明らかな中の渡航でした。それでも着いたからには英語を話さないとうちにもならず、常に私の白衣のポケットには電子辞書が入り、大動物病院に行くときには谷口先生の英語本までも白衣に突っ込まれてました。でもその甲斐あり、分からない単語があったときには向こうの人も北里の大学生には慣れているので辞書に直接打ち込んでくれたり、スペルを教えてくれてその場で調べることができました。来年行く人は電子辞書は必須だと

思います！高いですが、医療単語が入ってるタイプのものだとさらに良いとおもいます（事前学習が十分なら必要ないとは思いますが...。）

そして、2週間の研修を終えて私が一番日本と違うと思った点は“テクニシャン”と“設備”です。アメリカでは（州によっては違うかもしれませんが）テクニシャンができないことは3つだけです。①オペ②診断③処方 これだけです。ということは麻酔もテクニシャンができますし、注射、内視鏡もテクニシャンができることになります。実際Purdue大ではテクニシャンがたくさんいましたし、テクニシャンの学生もいました。何か処置をするときには彼らが準備してくれ、ドクターのサポートをし、終わった後も彼らが片付けたりしていたのでとてもスムーズに作業が進んでいました。日本ではこうした採血、投薬、麻酔、レントゲン撮影は禁止されています。それだけ獣医師の負担が大きく、また、テクニシャンの仕事の幅がアメリカに比べると抑えられています。アメリカのように獣医師、テクニシャン、事務、清掃など、それぞれ分担制で仕事ができる環境のほうが仕事に集中できる環境が整っているのも良いと思いました。

次に、設備についてですが、今回行ったPurdue大も一般開業の小動物病院も日本とは比べ物にならないほどに設備が充実していました。他のアメリカの大学を見たわけではないので一概には言えませんが、設備が充実している分だけ作業はスムーズになっていました。日本では人力で牛をひっくり返しているところをアメリカでは保定台ごと倒れていましたし、CTやレントゲン室には大動物用に入り口があって搬入に手間取ったりはしていませんでした。設備が充実することで人の体力消費が抑えられ、時間も削減され、さら

には優秀なテクニシャンの支えもあって最小限の作業で最大限の結果を得られる環境が元から整っていました。

また、インターン、レジデントがドクターの下についているので実質“先生”と呼べる人が各科に5人前後いることになります。学生はそんな環境下で勉強できるので色々なアドバイスをもらえ、さらに一般大学を卒業してから入学しているのでゼミでの発表はとても日本の学生ではできないとおもえるほど質の高い発表をしていました。

アメリカに行ってみてよかった。心からそう思います。大学を見たり、勉強できたのはもちろんでしたが、なによりもたくさんの人との出会いに感謝します。Purdue大学では学生も、ドクターも、テクニシャンも、患者さんまでもが親切にしてくれ、Purdue大学の人の暖かさを感じました。特にDr. Inoueや、Dr. Scott-moncrieffには私たちの身の回りの世話をしていただき、大変感謝しています。たくさんの方の支えがあって楽しく充実した2週間を送れました。

④謝辞

Thank you so much for your kindness with all members who I met in Purdue University. I really had great time with you, and I still remember every experience in the US. I'll never forget these 2 weeks. This memory will live with me forever.

Before I went to your university, I worried about my poor English vocabulary. I thought I couldn't tell you what I want to say. But, you tried to understand my questions and what I was talking about. I was so encouraged from your kind attitude. So I could ask you without any fear, and got many wonderful times. I hope I can do

the same things in the same situation as you were.

I got many precious experiences with you. These will be keys to pass problems in my near future.

Sakura Ishida

加藤 紗友美

①各診療科の特徴

〈大動物病院 Large Animal Hospital〉

8/9, 8/11, 8/13, 8/19-8/20

研修前に事前に決めたローテーションでは、大動物内科と大動物外科は別々の科として扱って決めたが、実際に大動物病院に行ってみると同じ病院内なので患者が多い日でない限りは外科も内科も両方みることができた。動物が来院してから、どちらの科が担当するかを決めているようだった。

朝8時に大動物病院へ行くと、入院棟で学生が各々担当している患者の世話や観察、処置をしていた。学生は患者が来院する際の飼い主への対応から始まって問診、カルテの作成、入院する場合は世話と処置、手術があれば助手など幅広く担当する。診療はDr.やレジデントが中心であるが、担当となった学生はもちろん同じ場所で助手を行うなど、常に働いていた。また時々、処置の方法は先生からきちんと教わっており、学生共通のノートにチェックをもらっていた。私がまず思ったのは、一頭の患者に対してかける時間が長いことだった。また、患者についてアメリカでは学生も一緒に考える場が当たり前のようにあった。このアメリカのシステムならば必然に考えて勉強して悩んでいなければ患者を担当なんてできないから、全く学生の姿勢が違ってくるだろうなと思った。

曜日によっては朝8時30分からセミナーが開かれていた。内科と外科に分かれてそれぞれラウンジ、合同で患者の血液検査・尿検査・血液ガスの検査値を考察する会などがあつた。これらセミナーでは、学生がよく意見を言い質問をしているのが印象的だった。

病院に来る患者は外科には馬の跛行が、内科には馬の疝痛が多かった。牛は2日に1頭くらいの割合しか来院することはなく、繁殖の分野の先生が担当して往診すると聞いた。馬についてアルパカやリヤマ、ヒツジが多く、患者のほとんどはペットとして飼育されている動物たちだったので、処置や検査が丁寧で小動物診療に近い感じを受けた。そして病院内がきれいで臭いが気にならないことに気がついた。日本はなぜあんなにも汚くて臭いがきついのが不思議に思うくらいだった。もう一つ、日本と違うと感じたことは、Vet Techの人が多く、その仕事が獣医師の仕事に近いことだ。獣医の学生も、テクニシヤンの学生も同じ場所で各先生から指導を受けていた。

一番面白いと思った症例は、アルパカが起立できなくなっていて頭も地面に伏せてしまい、病状がかなり悪そう入院している時に、検査の一つとして犬と同じような神経学的検査をしていたことだった。疼痛反射、膝蓋腱反射、皮筋反射があるかなどをみていた。まさか大動物病院でこのような検査が見られるとは思っていなかったのもとても驚いた。アメリカでは、大動物でもペットとして来院する患者ならば小動物とさほど変わらないように思えた。

実習に行くとそれほど忙しくない日もあり、時間を持て余すときもあつたけれど、そういう日は図書館に行くときもあれば、大変お世話になったMr. Patrickとおしゃべりしていることもあつた。

〈農場へ往診 Theriogenology〉

8/10, 12

今回 Purdue 大学に研修に行った私を含めた女子 4 人は大動物の特に牛に興味があるということで、Dr. Tomo が繁殖の先生にお願いして私たちも一緒に往診へ連れて行ってくれた。

農場へは往診用の大きな車とその後ろに牛を保定するための柵場もつなげて出発し、約 1 時間かけて肥育牛の農場に到着した。やはりアメリカは有り余る土地がたくさんあるので、牛たちは放牧され生えている草を思いっきり食べていた。牛たちはみんな伸び伸びと育って、おいしい肉になってきているのだろうなあと思った。私たちが行った処置はだいたい 12 ヶ月齢までくらいの牛に、ワクチン接種と耳にインプラント挿入、断角、採血、雄の場合は去勢をやった。一日に何件も農場を回るものと勝手に思っていたのだが、次から次へと牛が入ってきて、気づけば昼を回りだいたい 50 頭ほど処置して終了となった。とても暑くて疲れたけれど、私もワクチン接種や去勢をやらせてもらうことができて、農家も見ることができて予想外のすごく良い経験になったと思う。少し気になったのは、採血や去勢の際に全く消毒をしなかったことだ。もう一つ、牛がかなり汚いなあと思った。後で聞いたところ、この農場がたまたま汚かっただけで、アメリカ全ての農場がそういう訳ではないらしい。少し安心した。

8 月 12 日には、再び往診へ行くことができた。今回は 2 件だけ回り、骨折の包帯替えと健康診断だった。この日の農場はとてもきれいな牛を手なずけている主さんで、口で合図をすると牛がちゃんと寄ってきたことに感動した。

〈麻酔科 Anesthesia〉

8/16-18

麻酔科は日本にはない科であり、大動物も小動物においても携わるということで 3 日間だけ自分のローテーションに入れた。麻酔科の一日の流れとしては、前日に手術の予定がボードに書き込まれるので各手術を学生が一人担当する。担当した学生は手術の予定開始時刻の 2 時間前くらいから、麻酔プロトコルを考えて Dr. に見せ修正を加えられる。このとき学生は常になぜこの薬を与えるのか、副作用について質問されていた。添削されたプロトコルに従って薬を準備し、患者が来たら手術がすぐできるまでの準備も行う。そして麻酔科の学生は気管挿管から手術が終わるまで 5 分毎に身体検査を行っていた。

この麻酔科でも、見るもの全てが真新しく、自分ももう一度勉強しなおさないといけないなあをつくづく思い知らされた。私もそうだけれど、日本の学生は外科の研究生でない限りアメリカの麻酔科の学生のように動けないのではないかと思う。責任が大きくなるけれど、その分得られるものは比べ物にならないくらい多いだろうと思った。麻酔科は全ての手術で出勤するため、この 3 日間で眼科や整形外科、腫瘍科、大動物などの色々な手術を見ることができたのがすごくよかった。

〈ランチセミナー〉

毎週火曜日と木曜日に、私たちのためにレジデントがセミナーを開いてくれた。セミナーの内容はそれぞれ、救急、リンパ腫、神経学、そして私たちがリクエストした大動物の栄養学だった。このランチセミナーではパワーポイントを使いながら説明してくれたので、かなり理解しやすく感じた。特に大動物のセミナーは、リクエストしたのは牛だったが実際は馬だったけれど、今までに聞いて

たことのないような内容でとても面白かった。

〈プレゼンテーション〉

5月くらいから、私たち学生にプレゼンテーションをして欲しいということをおっしゃられ、一人ずつ発表する内容を分担して決め、パワーポイントを作って準備していた。ただ実際私たちがどういう場でどれくらい発表するのかということをおさらずにいたので、いざこの日にだいたい30分くらいやって欲しいといわれたときはかなり焦ってしまいました。緊張しすぎて自分でも発表している時は何を言っているのかわからなくなって、果たしてきちんと英語が話せているのか心配になった。後から自分の発表を思い出すととても恥ずかしいけれど、たくさんの方が聞いてくれてよかった。プレゼンが終わった後のベーグルがとてもおいしかった。

②休日の過ごし方

8/14 (土)

Boiler maker tour : 観光用のバスのような大きなオープンカーに乗って、大学内をひととおり見て回ることができた。ゴルフ場やアメフト競技場、飛行場が完備しており、呆れるほど広かった。

State Fair : インディアナ州のお祭りということで、たくさんの屋台と動物が州内から集まってきていた。屋台はどれもカラフルで、油と砂糖だらけの食べ物ばかりに見ているだけで胃がもたれてきそうだった。この **State Fair** では動物たちの品評会も日ごとに行われていて、たくさんのきれいな家畜たちをみることができた。見たことのない品種の牛や、洋服を着たヒツジ、ウサギ、鳥も見きれないほどいた。見世物としてゴキブリレースをしていたのが衝撃的だった。

8/15 (日)

Indianapolis Zoo : 動物園をただ見学するだけでなく、裏方までみることでとても貴重な経験ができた。動物園内の病院も見学でき、動物に合わせた麻酔器具や気管チューブ、レントゲン写真も用意してくれて、見せていただいた。あまりに極端な大きさの動物に対しては、手作りのものもあった。ペンギン、キリンには間近でみることもできたし、セイウチには手にキスしてもらえた。

〈休日以外のフリータイム〉

Dr. トンプソン一家とは2度お会いする機会があり、家にまで招いて貰い、家族ぐるみで私たちをもてなしてくれた。自宅はとても素敵で、家中に家族の写真が飾られていた。アイスをご馳走になったり、みんなでWiiで遊んだり、あつという間に時間が過ぎてしまった。話してくれる英語もとってもゆっくりで、私はとても助かった。

③感想および総括

私は今回のこの海外研修に、アメリカの獣医療を間近で見たいという思いと、そのアメリカと日本では授業や実習から病院内のシステムまで含めてどう違いがあるのかを知りたいという思いがあって参加した。行ってみて、アメリカとの違いは想像以上にたくさんあって驚いたこともあった。ただ自分の英語力の拙さのために、得られたことはおそらく半減してしまったと思う。専門英語の単語だけでなく、日常会話の単語も知っていないと分からないことが多かった。自分の言いたいことをすぐに英語で言える能力がすごく欲しくなった。それでも、やさしい先生は何かと私たちにゆっくりの英語で何度も話しかけてくれて、自分の英語を理解しようとしてくれた。でも、基本的には自分から積極的に質

問をしないと何も分からなかったの、初めての質問には勇気が必要だったけれど、話しかければみな優しく丁寧に教えてくれた。

アメリカで一番質問されたのはおそらく、「何に興味があるの？」で、Purdueに行った女子4人みんなが「牛だよ。」と答えるとたいていの人が驚いていたことに、だんだん慣れていった。

私たちの面倒を最後まで見てくれた Dr. Tomo がいてくれたことでこの研修が何倍も楽しくなったし、本当にたくさんのことでお世話になった。でも、少し頼りすぎてしまったなという反省点もある。この研修のために、本当にたくさんの方にお世話になったことに感謝して、この経験を自分の将来を考えるにも参考にしていきたい。

④謝辞

I had many special experiences in this externship. I was stimulated as a veterinary student. My apprenticeship couldn't work out without many many helps.

Especially, I like cow the best, so I was very excited to go cattle farms and Fair Oaks. Thank you very much for your arrangements for us!

I will make good use these experiments for my attitude and future.

Sayumi Kato

坪野 龍介

①各診療科の特徴

〈Small Animal Surgery〉

初日から Surgery に参加する予定であったが、初日の病院の案内が終わって昼ごはん

を食べていると誰よりも早くに Dr. Austin に呼ばれ、この科に参加することになった。Dr. Austin とは研修の2ヶ月ほど前、北里大学に来ていただいた際にあいさつをしていたのでとても話しやすかった。

この科では Surgery といっても Soft tissue、Orthopedics、Neurology に分かれている。それぞれの科に Dr、レジデント、学生がついている。Soft tissue では名前のおり、軟部外科が中心である。Ortho と Neuro は同じ部屋で仕事をしていた。最初に渡された Clinical Rotation では Small Animal Surgery と Neurology という2つに分かれており、Orthopedics はなかったの注意したほうが良いと思う。Surgery ではまず予定表をみてその日の日程を確認することから1日が始まる。それを確認して何時からどこでなにをするのかを確認し、もし時間帯がかぶっているオペがあるときにはどちらをみるのか自分の日程をたてたほうが良い。最初に学生を探したほうが良いのだが、学生の方たちは自分の担当している子のお世話をするために、一般の Ward (入院室) や ICU にいる子などをみまわっているの、つかまえに行くといい。そして一緒にお世話をするといいと思う。

手術の準備自体は麻酔科の方たちやテクニシャンの方たちがおこなっているので、手術の準備をみる時には麻酔科の予定をみて麻酔の準備の時間を確認してからオペ室に行くといい。準備に関しては麻酔科の方で記述したいと思う。

手術自体は北里での手術とさほど変わりはない。オペ室は北里のものより小さく、6個ほど部屋があった。器具は通路脇の棚に並べられ、オペ室の中には棚はなかった。手術は3人で行い、2人のドクターに1人の学生がついて手術をおこなっていた。ただ

Spay や Cast など比較的容易な手術は学生が行っていた。手術中に学生が質問を多くしていたことに驚いた。自分もまじって手術中に質問を試みたが、Dr は丁寧に質問に答えてくれた。オペ自体は Ortho では膝関節の疾患が多かった。TTA、TPLO、Lateral Suture などとてもおもしろかった。また Total Hip Replacement の見学もできたのでとても貴重な経験ができたと思う。Soft ではこれといって特定はできないが、さまざまな疾患が毎日数件入っていて、ほとんどを Dr. Austin がおこなっていた。

手術が終わり予定をすべてこなすとミーティングがおこなわれ、今担当している入院している子の様子を学生が Dr に説明を行って、これからどのような予定を立てて治療するのか、その疾病の病態についての質問をおこなっていた。学生はこの時間が一番大切なのではと感じた。

〈Neurology〉

この科には一番お世話になった。学生、レジデント、特に Dr. fauber にとても親切にしてくださいました。本来であれば1日だけの Rotation であったが、時間があるたびに一緒にいた科であった。

この科では診察から退院までの一連の流れすべてをみることができた。診察ではまず学生1人のみで診察室で問診を行い、いま現在どのような状態であるのかを確認しカルテに記して一時的に動物を預かる。その後、Dr がその学生に問診の結果を聞いてどのような状況下を把握していた。それが終わると身体検査や神経学的な検査をほかの学生も混じって検査を行い、その結果を Dr やレジデントの方がオーナーさんにお知らせするという形をとっていた。

神経学的な検査は5年前期の小動物の授業

でやっていたのでとても役に立った。

この科はほかの科と一緒に行動することが多かった。Behavior から神経に問題があるかもしれないので検査をお願いされて一緒に検査を行ったり、Radio で CT や MRI をとってもらふことなどが多かった。また Cardio におじゃますることもあった。自分は Neuro にくっついていたので多くの科での診療に立ちあうことができとても充実していた。もちろんあまり患者さんが来ない日もあったが、緊急でオペが入ることもあった。一番印象に残っている検査は歩行の異常を検査するのに、犬の体に小さなボールをつけて歩かせてどこの足にどれだけ負重がかかっているのかを検査しているものであった。よく健康番組などで人にボールをくっつけて検査しているのはみたことがあったが、犬では初めてだったのでとてもおもしろかった。

〈Anesthesia〉

ここの科ではたくさんお世話になった。Dr. Tomo はここの科にいるのだが、病院にいるときには日本語を話してくれない！自分的には練習になるのでいいのだが・・・。

さて、この科には3日間いる予定だったが、自分は Neuro や Ortho ばかりみていたのでおいしいところだけ見学していた。まず麻酔科の一日はその日の予定表を見ることから始まる。この予定表には何時にどこで麻酔をかけるのかというのがすべて一覧になって掲載されている。学生はその内容によって麻酔プロトコルをたて、それを Dr. Tomo にみせてチェックを受けた後に麻酔薬などを準備していた。Dr. Tomo のチェックは厳しく、なぜこの薬剤を使用したいのか、この薬剤を使用した際にはどのようなことが考えられるのかということ細かく質問したうえで用量なども確認された後によりやくサインをもら

える。自分も大学でよく行う麻酔を提出してみてもチェックをうけてみたが、チェックが厳しく宿題をだされてしまった。そのほかにもたくさんの質問を用意してたちむかったのだが、なかなか質問に答えてくれず自分で多々調べて少しづつ疑問を解消していった。この時間はとても有意義なもので、いまの大学の病院の生活に活かされているように思う。

話は **Anesthesia** から少しそれてしまうかもしれないが、手術の準備に関してここで少し記しておこうと思う。**Purdue** ではテクニシャンの方たちがとても活躍していた。手術の準備はほぼテクニシャンの方たちだけで行っていた。導入は麻酔医の方がおこなっていたが、オペ室の準備までもテクニシャンの方が器具などもすべて準備していた。そこでは学生（テクニシャンの）も一緒にいて、仕事を覚えていた。

話を戻すが、手術中は麻酔の学生が自分でたてたプロトコールで麻酔をかけていた。麻酔深度は浅めで維持され、5分おきに麻酔記録をつけていた。手術中に **Dr** が様子を確認し、学生にいまの状況を聞いたり、学生から質問をうけたりしていた。それでも覚醒するまでほとんど学生が行っていて、**Dr. Tomo** はなにやってんだと思うくらい放任であった。笑

1日の麻酔がすべて終わると、麻酔科のミーティングがはじまり今日の麻酔の疑問を **Dr. Tomo** が答えていたのだが、**Dr** 1人に対して学生が10人近くいてその質問攻めに答えている姿は威厳に満ち溢れていた。その後、学生に麻酔の講義をおこなって **Discussion** をして麻酔科の一日が終わる。

〈Private Practice〉

Private Practice とはアメリカの一般開業さんのところで実習を行うもので、今回は

Dr. Tomo の奥さんが以前働いていた場所におじゃました。ここの病院はリハビリ施設と病院が併設しており、なかなか大きいところであった病院は一般的な診療や簡単な手術などができるくらいの施設であった。隔離部屋も用意されており、今回いったときにはケネルコフの犬が隔離入院していた。自分が行ったときにはノミの駆除やワクチン接種、健康診断などひっきりなしに患者さんがこられていた。この病院では獣医が2人だけであったが、テクニシャンの方がよく働いていたのが印象に残っている。リハビリ施設は小さなプールとトレッドミルが用意しており、朝・昼・夕の3回リハビリをおこなっていた。

特に興味深かったのはトレッドミルで雑誌では読んだことがあったが、実際にみるのは初めてでとてもおもしろかった。

②休日の過ごし方

土曜日は **Purdue** のシンボルであるボイラーメーカーに乗って大学内をまわった。オープンカーみたいなものだったが、涼しくて風もとても気持ちよかった。道端に居る人たちも手を振ってくれたり、乗員の人がおもしろかったりと1時間ほどであったが昨日の疲れが癒えた。その後、**Dr. Austin** がホテルに迎えに来てくれ、**Indiana State Fair** に向かった。**Stat Fair** はその州の特産物を生かした展示や出し物が並ぶ、ねぶた祭りと似たようなものであった。**Purdue** コーナーもあり、ガラス張りのなかでラパロスコープで **spay** を行っていた。ここでの食事に驚いた。ここでは基本なんでも揚げ物にされていた。スニッカーズをあげたものや、バターを揚げたものなどさらにペプシを揚げたもの？などもあり、ここの地域の人たちが大きく育つ理由もわかった気がした。インディアナの特産品がコーンだと教えてくれたので、コーンを

頼んだのだが、なぜかバター漬け。でも甘くておいしかった。ホテルへ帰ると、モールへ行こうと taxi を呼んでモールへと向かった。無事 taxi に乗ったのはいいのだが、モールが見えてきてあと少しと思ったとき、急に車がガタガタガタと揺れだし、タイヤがパンクしてしまった。しかしガタガタになりながらもモールの入り口まで taxi が送ってくれ、とても親切な運転手さんだった。レストランでのカードでの払い方がわからず苦労したこともあったが、とてもいい経験だった。帰りはまた同じ人の taxi (パンク修理済み☆) でホテルへと向かった。

日曜日は Dr. Tomo と Dr. Scott に Indiana Zoo に連れて行っていただいた。朝の車の中では爆睡してしまった。Zoo に到着して、動物園の裏側や病院を見せていただいたのだが、自分のスイッチが完全に省エネモードに入っていて話の途中でもぼーっとしてしまっていた。本当に動物園の案内をしていただいた方や Dr. Tomo、Dr. Scott に申し訳ないことをした。午前中は動物園の病院の案内をしていただき、動物園の病院なのにとってもきれいで管理されていて驚いた。キリンに食餌をあげたり、サイやペンギン、ゾウなどさまざまな動物を近くでみることができ、動物園でいつも寝ている姿ではなく、とても新鮮だった。昼ごはんを食べると自分の頭が少しずつ起きだしてきて、ようやく口から言葉がでてきた。いるかのショーを鑑賞した後、セイウチの裏側をみせていただいた。セイウチは食餌をスポッと吸い込んでたべるようでとてもかわいらしかった。ご飯をあげてみたり、自分たちのためだけに近くでセイウチの芸をみせてくれ、とても貴重な体験をした。午後後半になると皆、暑さと今までの疲れがでたらしく、ぐったりしていた。帰りの車の中で

は女子陣は皆爆睡。男子陣はほとんどおきていたが、自分はもうすぐホテルに着くというところでウトウトしてしまっていた。

③感想および総括

まず問題であったのは自分の英語力であった。つい3日前までテストをこなし、とても準備万端とまでは言えずに出発の日を迎えてしまったことは少し後悔した。日常英会話くらいは話せるとは思っていたが、中学生から培った英語は全く通じなかった。しかし1週間ほどしたところから耳がなれてきたのかある程度まで聞き取れるようにはなっていた。その逆に1週間ほどした頃から日本語が不自由になってしまい、日本語も英語も微妙な変な人になってしまった。これはおそらく最初は聞き取れなくても、人が集まっているところに顔をだして会話を聞いていたことや、しつこく学生に質問をしていたことが良かったのだと思う。2週間あれば自分から言いたいことをアウトプットできると思っていたが、そこまでは無理であった。しかし、それでも楽しく英会話をすることができたのは、自分の声に耳を傾けていただいた Purdue の Dr や学生さんのおかげであった。

生活の面では今年から動物病院の近くのホテルになったこともあり、とても便利だったように感じる。Wall Mart は遠くなってしまったが、あちこちに食事処があり、学生や Dr にお勧めのお店を聞いてそこに行ったりと、とてもよかった。しかし一番良かったのは一人で Caf? で Coffee を飲んでいる時間がとてもよかった。そのかわりメンバーに迷惑をかけてしまったこともあったが……。笑 研修を終えてから遊んでやろうとたくらんではいたものの、研修を終えると毎日へとへとでホテルに帰ってその日の軽い復習をしていたらいつのまにか 24 時をまわっていること

が多々あった。ここまで真剣に研修するとは思わなかったが、それが楽しかったので特に遊ばなくてもよかった。日本ではここまで充実した生活はしていないと思う。大学全体がそういう雰囲気を作っていて自分もそれにつられてしまったのだと思う。土曜日と日曜には病院にいかずに State Fair や Indiana Zoo に行ったのだが、Indiana Zoo では疲れがピークに達して遊ぶどころではなかった。せっかく Dr. Tomo に連れて行っていただいたのに本当に申し訳なかった。

自分がこの研修に参加した第一の目的はアメリカがどのような獣医療を行っているのかを実際に確かめることであった。日本の獣医療はアメリカに比べて遅れているといわれるが、果たしてそうなのか。もうひとつの目的は自分がどのような獣医師になろうかという方向性を決めるための渡米であった。

アメリカの獣医臨床を見た際、学生の意識レベルの高さと Dr の強力なサポートを感じた。学生は自分の患者が来るとその患者について診察 → 退院までの過程をみることができる。自分で診察し、術前・術後管理を行う。その予定を Dr が修正してその修正点について討論する。この流れはとても大切だと感じる。

自分はこの研修を終えてからいつかアメリカで研修をしたいと思うようになった。それはアメリカだからということではなく、お世話になった Dr. Fauber や Dr. Ausin の下で学びたいと思うようになったからだ。今回の研修を通して自分の行きたい方向がうっすらではあるがみえてきたように思う。

また、今までの自分の学生生活を見直すきっかけができた。これからの学生生活1年半、Purdue の学生の姿や Dr の姿を思い浮かべながら生活していきたい。

自分の面倒をみてくださった Dr. Tomo、

Dr. Scott、研修中にお世話になった Dr. Austin と Dr. Fauber には心から感謝しています。自分の相手をしてくれた Dr. Aisha もありがとう！この貴重な研修の機会を設けてくださった先生方、特に同行教員の吉川先生にはとても感謝しています。本当にありがとうございました。

④謝辞

Dear Purdue Vet Students and Doctors

I had wonderful time in Purdue. I appreciate your kindness during stay in.

Purdue's doctors and students gave me helpful advice. In addition, I could study some veterinary knowledge. So, I could decide to future direction.

I look forward to a day to see again. I hope to see you again in the near future in Purdue!!

This trip is the best experience in summer. Thank you very much for Students and Doctors in Purdue. Especially I appreciate sincerely for Dr. Tomo, Dr. Scott, Dr. Fauber, Dr. Austin and Dr. Aisha.

「Thank you!!」

Nagi

Rusuke Nagino

西浦 照二

①各診療科の特徴

〈Cardiology〉

この科が興味のある分野だったので、長い間お世話になった。

やっている内容としては、日本と変わらな

いと思う。特徴的なところは、学生が問診を取り、その後それを、先生に伝えて、インターンの人を介するときもあったが、レジデントの人が、飼い主さんに説明するという流れがあった。

この科には、先生である Dr. Green とレジデントの人が 3 人 (Dr. Fiakpui、Dr. Shipley、Dr. Magee) おられて、みんないい人だった。ただ 1 週目は、Dr. Fiakpui、2 週目は、Dr. Shipley が休暇だったので、僕のお世話になっているときは、2 人のレジデントのひとだった。また、アシスタントの Kimさんはめちゃくちゃ面白い人だった。

診察数としては、大体 3 件～6 件。

朝 9 時半ぐらいに患者さんがきて、問診や ECG など検査をおこなって、大体、昼前後にエコー検査をする。その後、飼い主さんに説明というながれだった。また、診察数が多い時は、お昼過ぎに飼い主さんがくる時もあった。

自分はエコーの画像に見慣れていなかったために、初めて行った時、ポンポンと画像を切り替えていく先生をみて、???と、何やってるんか全く分からなかった。

でも、色々、質問するとめっちゃ教えてくれたから分かるようになっていった。

また、先生が話すスピードが意味不明なぐらい速いので、専門用語ぐらいしか聞きとれず、ポカーンとなっていたら、オッケーとか言って黒板を使って説明してくれた。こうしてもらうことで、めっちゃ分かりやすかった。

特に、Dr. Fiakpai に初めて 2 週目に会った時、Endocardial Cushion Defect という病気にであって、エコー見ながらここおかしいと教えてもらった。その時は、なるほど!!って感じやったけど、詳しくは理解できなかった。でも、つぎの日にラウンドが終わったあと、時間があったので、昨日の病気詳しく教

えてあげると言っているいろいろ、教えてもらった。

さらには、エコーで分からなかった疑問点もついでに説明してもらい、この日は、午前中だけでなく午後も、いっぱい教えてもらった。

自分が行った時の、手術は、PDA の一件だけだった。でも、そのオペは自分にとってめちゃくちゃ興味深いもので、衝撃的だった。だから、吉川先生のセミナー&用意されてたらしいでかいピザも無視しちゃってオペを見させてもらった。この時、手術中自分の背が低いこともあって全く手術室に入った時見えなかったから、Kimさんに見えないよって言ったら、Green 先生が後ろにおいでって言ってくれて、わざわざ説明してくれながらオペをしてくれた。

学生さんは、みんな賢いなおもった。その理由は、聴診して雑音があったらそのグレードとかまで分けていた。最初自分が聴診させてもらった時、収縮期雑音があるってことは分かったが、そのグレードについてなんて考えてもいなかった。

終わった後グレードは?って Tracy に聞かれたので、そんなんわかんねーって感じやった。でも、これはグレード 3 やって教えてもらい、次のやつはグレード 2 って正解できた。他にも、問診し、ECG を見た後、学生がやっぱり、拡張型心筋症やとこれは、思うって自信をもって先生に言ったりすることがスゲーって思った。

最終日は、Cardio が休みだったので、違うのを見に行っていたが、堀先生のプリントにのっている疾患の中で唯一 VSD だけ、まだこっちにきてから見てないなと思い、誰か部屋におらんかなあーと思って、Cardio の部屋に行った。

案の定、Matt が部屋の廊下に座っていた。

誰か先生おらへん?? って聞いたら、前から、Magee 先生が歩いてきて、VSD まだエコーで見てないから教えて～と言って、教えてもらった。このせいで、みんなの集合時間に遅れてしまった。ほんと、申し訳ない。

また、自分が診察時間に余裕が出来た時は、他の診療が見たり、気になる病気について Cardio の部屋にある本や図書館で調べたり自由に出来たので勉強になった。

診察も何もなくなってしまった時に、Cardio の先生達と学生さん、アシスタントの人たちと、ご飯に行く機会もあった。この時の、チーズケーキは、めっちゃ甘くて歯が痛なりそうやった。しかも、この時よりによってコーラーを頼んでたのが甘さの倍増を生む結果になった。また、隣がグリーン先生だった。先生は皆の話してる内容を自分が理解していないことを気づいてくれたのか、わざわざゆっくり話して今こんな話してんやでって教えてくれたりもした。また、循環器の話やアメリカの野球やアメフトなどいろんな話が出来た。

〈Anesthesia & Surgery〉

この科では、麻酔を見た。

この科の特徴は、学生さんが、使う麻酔薬を決めていた。

ここでは、外科手術も自由に見れたので、オペを見させてもらった。

また、放射線治療も見させてもらった。放射線治療では、部屋に行って見てもいいですかと聞いて、入らせてもらおうと、奥の部屋から AISHA が出てきて、ちょ一流暢な日本語で教えてもらった。いやー、アイーシャに感謝!!

また、白内障の手術を見たときも、横にいた学生さんに色々教えてもらった。ただ、目とか絶対アメリカで見ないやろうとおもって

単語をあんまり勉強してなかったから、ムズかしかった。

他には、オースティン先生のオペや腹腔鏡手術を何件か見させてもらった。

腹腔鏡手術では、胃固定を行っていた。腹腔鏡のオペを見たことが無かったので、実際に見て面白かった。

ある日、仲良くなった麻酔の学生さんが、一人で長い間勉強をしていたのでちょっと何やってんやろ? と思い、邪魔しに行ったら、めっちゃ分厚い教科書で薬を調べてて、こんなん使ってるの? って聞いたら、これ私の使ってる薬理の本の中やったら薄いほうだよって言われた。ひょえーと思いながら、読ましてもらおうと一つの薬に対してものすごく細かくのっていた。

そういえば、トモ先生が言っていたが、日本の学生はどうも麻酔のことは確かに知ってるけど、これをなんで使ってるんか詳しいことまで分かってないんやないかなあって言っていた。アメリカの学生は、全部自分らで麻酔のプロトコールを自分で作っているから一つ一つ詳しいところまで分かると言っていた。

また、Cardio の先生も普段は冗談みたいな感じで病院内で面白いことをしていたが、いざ大事な場面になると、ものすごい集中していたのが印象に残っている。

〈プレゼン〉

みんなの前で発表とかをするのは初めてだった。しかも、それが英語って～ということで練習中は緊張がやばかった。しかも、考えた文章を一回も見直してなかったし、練習の時スライドのアニメーションを動かすタイミングとか完璧に忘れていた。だから、練習の時はグダグダだった。

いざ本番といっても、練習は一回しかやっていない。以外に人が来ていて、ありゃりゃ

ま〜って感じに。自分の前になるまでは緊張はピークに。でも始まってみると、緊張はあまり感じなかったし、練習と違ってうまいこといけた。

後で、学生さんに聞いた話だと、違う国の学校生活について知ることが出来て面白かったよとのことだったので、うれしかった。

〈セミナー〉

今回は、救急、腫瘍、神経、馬の栄養についてのセミナーがあった。

ご飯を食べながら聞いていいとのことだったが、やりなれてないため、食べた瞬間に英語に集中することが出来なくなってしまい、分からなくなってしまうことがあった。

基本的に話すスピードが速いので、聞き取ることが精一杯だった。

また、救急のセミナーのときの、秀美ちゃんのスプライト事件は爆笑だった。

Cardioにいた時も、学生さんとオペの始まる前まで犬糸状虫についてのセミナーを受けた。この時は、ベーグルや、マフィン、クッキーなど好きにとっていいとのことだったので、顔よりちょい小さいぐらいのかなり甘いクッキーを食べた。笑

でも、この日は朝にいっぱいご飯を食べてたせいで、全部食べ切れなかった。

②休日の過ごし方

〈土曜日〉

朝から汽車の形をした車で大学内を案内してもらった。人を見るなり運転手さんが汽笛を何回も鳴らすので、そのたびに周りの人が手を振ってくれる。だから、なんかの優勝パレードみたいで超テンションがあがった。笑

その後、オースティン先生、アイーシャ達と、インディアナ州のお祭りへ。

その車中は、確実に前日の疲れで爆睡だっ

た。お祭りでは、脂っこいもんばかり売っていた。(ペプシやスニッカーズのフライなど) 笑

先生が確実に失敗したものを、一発目に買っていたのが面白かった。でも、イタリアンソーセージはおいしかった。

この祭りでは、牛や羊など動物がいっぱいいた。秀美ちゃんが、指をヤギにチュパチュパして貰ったので、なんかおもしろそうやなと思ひ、俺もやってみて、なかなかヤギもカワイイの〜と思った瞬間、ガブッと指をかまれてしまった。その時の痛みはなかなかのものやった。

ここでは、腹腔鏡手術のデモンストレーションが行われていた。一番面白かったのが、前日というか、今日の朝4時過ぎまで一緒にいた、アシスタントの人が、オペ室でこっちに向かって手を振っていたことだった。後で聞いた話だと、オペとオペの間は倒れてたらしい笑

ホテルに戻ってからは、みんなでタクシーに乗ってモールにお買い物に行った。

その後、先生と二人で、ピザ屋に行って、普通サイズのピザを最初頼んだのだが、先生がここで一番でかいのを食べないのは負けた気がすると言ったので、エクストララージのピザに変えてもらった。周りの太った外人たちが、自分たちのんより小さいピザを4人で食ってる中、店員さんに君たち挑戦するんだねといわれた。笑

最後の一切れのチーズが1cm ぐらいの厚さがあって、発狂しそうだった。ホテルに帰ってから、食べ過ぎたことを一人後悔していた。

〈日曜日〉

朝から、体がだるい。間違いなく前日のピザのせいだ。トモ先生から、胃薬をもらった。先生も胃もたれしてたが、昼にコーヒーを飲

んだだけで、胃もたれが治ったらしい。どんなカラダしとんねんって、自分のなかで突っ込んでく。

動物園では、裏まで見せてもらえた。先生が子供に自慢しよーって言って一番元気があった。自分は、前日に食ったピザのハラペーニョのせいで腹痛がヤバかった。

この日は、夜タイ料理のバイキングの店に行った。今まで食べたことないようなものを食べれた。ここは安くていっぱい食べれておいしかった。

でも、こっちに来てから脂っこいもんばかり食べてることに、リアルに自分の胃が心配になってきた。

今度、アメリカに行く人は必ず胃薬を持って行った方がいいと思った。また食べすぎにも要注意だと思った。

(休日以外のイベント)

1. 日本食レストラン。
2. トンプソン先生がモールに連れていってくれて、その後先生の自宅に招待してくれた。先生の家には、超かわいい犬がいた。また、大浪先生との写真や北里の写真をかざってあったり、先生の子供と遊んだりしてみんな盛り上がった。
3. おしゃべり好きの日本人の奥さんがいる家に招待された
4. アイシャとなぎで Bar に行った。ここでは、さまざまな外国人と出会えた。そして、アメリカ人の体力の凄さを感じることができた。また、パデューの外科のテクニシャンの人とも一緒に遊ぶことが出来た。ここで、色んな洋楽を聴いたせいか洋楽が好きになった。

③感想および総括

実際に日本とアメリカでやってることの大きな違いはないと思った。

ただ、向こうの教育の仕方が日本と違っているなども感じた。また、学生のモチベーションが違うということを行く前から聞いていたが、実際に行ってみて感じたことは、確かに勉強している人は、何を聞いても詳しく教えてくれた。でも、分からない人は何を聞いてもまだ知らないとのことだった。

ただアメリカに行つて気づいたことは、違う国には自分らとあんま年齢がかわらへん人たちが同じことを勉強しているのにもかかわらず、向こうの学生の方がよく理解している部分があるということだった。但し、自分の方が知っている部分もあった。

しかし、将来自分が目指している分野のことで知識が少なかったことがかなり悔しかった。

だから、日本に帰ってきて、勉強することに対するモチベーションがこの2週間でかなり上がった。

最後に、今回の研修にかかわってくれた先生たちに心から感謝したい。本当にありがとうございました。

④謝辞

Thank you for two weeks. I had a grate time in this externship at Purdue University.

I could meet a lot of people in Purdue. They were very kindness for us. So I could spend a lovely days.

In hospital, I could understand echocardiogram considerably because I was able to watch examination by echocardiogram for two weeks. Before I went to Purdue, I didn't understand c

I also could watch PDA occlusion. This procedure was very exciting to me, because I have never seen thoracic radiographs,

transesophageal echocardiography and Amplatz canine ductal occluder. I could have Dr. Green teach meaning of device and how to use its. So I thought that I want to be able to do interventional procedure like Dr. Green.

I also decide to become cardiologist like him because I was well impressed by his work.

I could feel the difference between American veterinary University and Japanese University. That I felt the most difference case is a lot of teachers with students in American school. In America, I thought Drs. are very kind and friendly because Drs. give Students to teach their questions if it was under procedure.

Finally I do appreciate Dr. Tomo, Dr. Green, Dr. Fiakpai, Dr. Shipley, Dr. Magee, Aisha, Dr. Scott, Peter, a lot of teachers and students.

I hope to see you again!! Bye!!

Aki

Akitsugu Nishiura

藤原 秀美

①各診療科の特徴

〈大動物外科〉

8月9、10、11日

(診察、ゼミ)

・馬の跛行診断で右後ろ足のどこが原因かを局所麻酔を部分部分で打ち、位置の特定を行っていた。常にではないが、足を引きずっているのが見受けられた。

・牛が3頭来院した。朝一番で大動物外科のゼミがあり、雌の繁殖障害(卵巣腫瘍など)についてを聞いた。ドクターがスライドを使いながら、説明し、生徒に質問を投げかけながらのゼミだった。

・牛はいずれも蹄に潰瘍があるもので、蹄の治療を行い、2頭はその日のうちに帰宅した。1頭は蹄の間に大きな膿ができていたため、片方の蹄ごと膿を切除していた。局所麻酔のみでの切断で、輸液もしていなかった。この大胆さは日本ではないだろうと思った。枠場ではなく、牛を台に縛りつけ、牛自体を横に倒して、治療を行っていた。そのため、蹄の治療を行うのも、幹部がとても見やすく、やりやすいと思った。

・患畜の来院予定はなく、前日の蹄を切除したホルスタイン、入院している馬の経過、今後の治療法を担当の生徒を中心に意見を出し、ドクターがそれに助言をするような形でラウンドを行った後、ホルスタインの足の包帯の交換を見学した。まだ、かなりの出血があった。電気メスを使つての止血などもこちらではあまり目にはなかった。

・乳房に膿がたまつたホルスタインの排膿を行い、消毒をしていた。提供の馬が来院し、レジデント学生に関節液の取り方、注射の仕方を説明しながら、一人一人、筋注や採血をさせてもらった。2週間を通してみても、このような学生が実際に動物を使って自分たちでいろいろなことができる機会がPurdue大学は多いことが感じられた。

(全体)

患畜の多い日や少ない日のムラがあり、午前中で診療が終わってしまう日もあった。学生は各々、担当の患畜をもっていたり、仕事があるため、ラウンドや処置、手術が終わると散らばって各々が仕事をしていた。(そのため、気を抜くと見失ってしまう)

受付のところにその日の予約患畜の来院時間や、病名などが書いてあるボードがあるので、それをチェックして一日の流れを朝のうちに把握しておくのがよい。

肉牛よりも showcow やホルスタインの来院が多い。牛よりも馬の患畜が多い。

牛は処置をしても、そのまま様子を見るために入院するものは少なく、殆どが処置後すぐに飼い主がトラックにのっけて帰った。予後の確認は数日後に再び連れてくるという感じだった。

一つ一つの患畜に対してかける時間が長い。(跛行診断などもかなり細かくチェックしていた。)

〈心臓科〉

8月12、13日

(診察、ゼミ)

・朝いちでレジデントによるゼミがあった。強心薬に関する話で、ドブタミンやジゴキシンなどの作用やアンジオテンシンIIに関する循環、血圧の調節などについての内容だった。やはり、学生に質問をしながら意見を聞いて進めていた。

・3件の患畜があり、ボクサーの心電図を見せてもらった。R波が広く、不整脈が見られた。診断の結果、不整脈起因性の右室心筋症だった。飼い主に担当の学生が黒板を使いながら病気についての説明をしていた。そこまで学生に任されていることに驚いた。また、収縮期雑音の聞こえる猫の心エコーを行っていた。三尖弁の狭窄が確認された。

・9時半からシャントがあると疑われた犬の手術があったが、Cアームを使いながら確認した結果、シャントはないことが確認されたため、術創を閉じて終わった。常に、画像を確認しながらの手術だったため、皆、放射線の防護服を着て手術を行った。だが、股動脈

からチューブを入れるための小さい穴しかあけていないため、出血もほぼなく、少し縫っただけで、終わった。Dr. Green にシャントがあった場合の造影剤の流れ方を見せてもらった。シャントがなかったのは良かったが、手術を見たかった気持ちもあったため、少し残念だった。手術後は、16歳の猫で、心雑音はないがギャロップが聞こえるという症例の診断を行っていた。MR という診断だった。(全体)

一日の患畜数は3~4件。大体はエコーで診断していた。Dr. Green はとてもフレンドリーで、とても親切に丁寧に説明を行ってくれた。前期に勉強する小動物の心電図や各々の病気だったときのエコーなどを頭に入れていけばわかりやすいと思う。

〈大動物内科〉

8月16,17,18日

(診察、ゼミ)

・馬の腹部エコーをとっていた。胆石が確認された。また、DMSOの独特なおいを発していた。

・伝染病(下痢などの症状が見られる患畜)を疑う患畜を隔離するアイソレーションをアニテクのパトリックに案内してもらった。個室が6部屋くらいあり、それぞれの部屋に監視カメラがついていて、受付などでモニターして随時様子の中に入らなくても見れるようになっていた。このような施設があれば、病院内で感染症が広がるなどということがなく、よく徹底されていると思った。

・listeriaにかかっている羊も入院していて、内科は入院畜がメイン。仙痛などで数日前に来た馬などもいた。

・難産の牛が急遽来院し、皆で産科チェーンで引っ張ったが出ず、帝王切開に切り替え、取り出していた。尾椎麻酔で行っていた。取

り出された子供はすぐにマットの上に運ばれ、吸引器で気管に詰まったものなどを取り除きながら、心臓がすでに動いていなかったため、強心剤、エピネフリンやドキサプラムを打ち、反応を見ていたが、結果、死産だった。子供を取り出した後の処置がとてもすばやく、機材もそろっていることが良いと思った。

- ・EMS についてのゼミがあった。
- ・ノックナックルやワイヤーの絡まってしまった症例のレントゲンなどをみながら、学生と先生が検証していた。
- ・トレッドミルを使用して馬の咽頭検査を行っていた。

(全体)

内科は入院畜を一人ずつもっているのも、もし長い期間いるなら、一人の学生にずっとついて経過を見ていくのも良いかもしれない。入院している動物の所見を取ることを3～4時間おきに行っていて、夜中もアニテクの人達が学生の代わりに数時間おきに所見をとっていることに驚いた。

〈麻酔科〉

(診察、ゼミ)

・大学病院の小動物、大動物、すべての麻酔をこの科で行うため、一番忙しく、同じ時間帯に数件のオペが入っている。私は、ウサギの歯の治療、猫の歯の検査、治療と、dentalのほうの麻酔を一日目は主に見せてもらった。Dentalは自分のスケジュールに組んでいなかったため、麻酔とともに、見にいけてとても参考になった。麻酔科はいろいろな科の患畜に麻酔をかけに行くため、そのとき自分の興味のある症例(大動物、整形、軟部など)を自分でいろいろ見に行けることが良かった。

〈ランチセミナー〉

今回は、救急、腫瘍、神経、大動物のランチセミナーを聞かせてもらった。どの先生も、テーマについて丁寧に講義してくださった。私は大動物に興味があったため、Dr. Geeの馬の栄養についてのセミナーが興味深かった。実際に、馬に与える飼料を持ってきて、見せてくれたり、スライドをプリントしてもらった。

②休日の過ごし方

ステートフェアでは、豚、牛、羊、ヤギ、ウサギ、鶏などさまざまな動物が見られ、品評会が行われていた。どの動物も農家さんによってとてもよく管理されていた。農家さんの子供が育てた家畜でも順位がつけられたりしていて、子供のころから動物に触れる機会が多いのだなと思った。羊の毛刈りも見られた。この地域の酪農が盛んなことがとてもよく感じられるお祭りだった。また、さまざまな食べ物も売っていて、私はDr. トモおすすめの、とうもろこしと、ドーナツのハンバーガーをお昼に食べた。ハンバーガーはとても不思議な味をしていた。

動物園は飼育員さんの仕事を裏側に回って見せてもらった。動物園の診療室には蛇から大きな動物までさまざまな種類の動物が来るため、用意されている道具も小指大の大きさのものからと、多用だった。ペットや産業動物とはまた違う、普段は近くで見られないような動物をどのように飼育しているかを説明してもらえてとても貴重な体験ができた。しかし、とても暑い日だったので、途中でばてた。

〈フェアオックス〉

何千頭という牛が管理されているところを、バスのツアーで見たり、乳牛からミルク

ができるまでの工程を子供にわかりやすく展示などがされている。搾乳は全て機械で流れ作業的に行えるシステムができており、その規模に驚いた。また、一日に何頭も分娩があるため、牛の分娩もガラス越しにみれるようになっていた。通常の牛の分娩を見たことがなかったので、貴重な経験でした。また、搾乳した牛乳をチーズやアイスにして販売していた。いろいろな味があり、すごく美味しかった。私は、チーズのサンドイッチ(?)と、ソフトクリームのシンプルなバニラを食べた。このように酪農に触れることのできる施設が近くにあることは、産業動物や、農業に小さい子にも興味を持ってもらったり、知らない人の理解を得られるため、良いと思う。

〈買い物〉

8月10日に wall mart、8月12日に tippecanoe mall に行った。wall mart はアメリカのスーパーのようなところで、食料品が半分くらいを占めていたが、大体の日用品はここでそろそろ。ポテトチップスや飲み物も日本では見られないような大きさでとてもビックだった。お店も広く、全てを回るのに時間は足りなかった。アメリカの人の生活が見れておもしろかった。

tippecanoe mall は衣料品のお店が主に集まったところで、wall mart よりもさらに大きく、半分回って見るのがやっとだった。日本では高いブランドの洋服がやはり、アメリカでは安く、たくさん買い物をしてしまった。

③感想および総括

Clinical Lotation のほかにも、wall mart や tippecanoe mall、Dr. トンプソンの家、ジェイムス夫妻のお宅やキャンパス内のツアー、party などさまざまな企画を用意していただき、また、大動物に興味がある学生が

今回の研修で多いということで、急遽、最後の金曜日に、予定を変えて、フェアオックスに連れて行って下さったりと、本当にありがとうございました。私は海外に行くことが今回初めてだったのに加え、英語も得意ではなかったため、アメリカに行くまでは、楽しみよりも不安がとても大きく、行くことも少し迷ったのですが、Purdue 大学の先生方も学生も本当に親切で、アメリカについてすぐに、不安は無くなりました。また、Dr. トモや、アイーシャなど、今回の研修で日本語を話せる先生方が近くにいたことが大変心強かったです。今は、本当に研修に参加できて、Purdue 大学でまなぶことができて良かったと思います。ただ、もっと英語も含めて勉強をしていけば、もっと得られることも多かったのではと思うと、その部分は反省する点です。ホテルが今回、変わったという点も少し不安がありましたが、むしろ大学内にいろいろな種類の飲食店があり、また、book store や Purdue goods を売っているお店も近くにあったため、夕方の空き時間を使って好きなときに個人のペースで行動できるのが良かったと思います。一番は、PM5:00 を過ぎても、病院に残っていたければ残っているいろいろと見学できることが良かったと思います。私は大動物に興味があり、日本の大学病院の診療などどのように違うところがあるのかを見ることができれば良いと思い、研修に行かせてもらいました。牛の扱い方なども含め、比較しながら考えることができ、また、こういう方法もあるのかと思うところもありました。同行して下さった吉川先生をはじめ、手配などをして下さった先生方、Purdue 大学の方、関わって下さったすべての方のおかげで、とても貴重で充実した2週間が送れました。本当にありがとうございました。

④謝辞

I left Japan for first time in my life. So, I felt anxiety before I visit Purdue University. But, Every people in Purdue University were very kind. I spend precious time in Purdue University. I had very valuable experience. I could see many case what I can't see in Japan. Many cases were very interesting. I have never seen C section, dental treatment etc in Japan. I found close difference between USA veterinary medicine and Japanese veterinary medicine. We went to state fair and I was surprised that dairy farm scale in USA. Thank you for your kindness. Thanks to Dr Tomo, Dr. Tompson, Dr.Scott-Moncrieff, Dr. Austin, Dr. Aisha, Mr. Patorick, all Purdue university people. I'll never forget these two weeks. I want to visit Purdue University again.

Hidemi Fujiwara

Purdue 大学研修報告

獣医生化学研究室

吉川 泰永

1. はじめに

赴任、2年目でまだ北里大学の右も左も分からないうちに、米国三大学の同行教員を試してみないかとお声がかかった。英語が全く話せない自分にとって英語の勉強にもなるかなあとも思い、軽い気持ちで引き受けた。今振り返ってみると家族には多大なる迷惑をかけたが、私にとっては想像以上に有意義な時間を過ごせ、引き受けて良かったと思っている。しかし、英語が全くしゃべれない私のように

な者が同行教員になってしまったがために、きっと学生達には例年以上の緊張感と自立心が必要になったと思う（ある意味良い効果ではあるが）。また私を知る人はご存じだと思うが、私など全く頼りなく、私よりしっかりした学生が居たりする始末なので、どっちが教員でどっちが学生なのか分からなかったと思う。

頼りがいは無かったが、一応、同行教員として私がどのような事をしたのか、私の感想を交えつつ、この報告書に記載したい。

2. 事前準備

・英会話レッスン

例年恒例で行われていると思うが、英会話レッスンはみんな受けるべきだと思う。今回参加した学生達はみんな研究室の仕事が忙しく、休まざるを得ない状況である人もいたが、みんな忙しい時間を縫って英会話の練習をしていた。もちろん英会話が出来ない私も参加した。

最初のうちは、英会話の先生が準備してくださったプリントをもとに練習していたが、後半にはより実践に近い練習をするべきだと学生達が考え、英会話の先生にお願いして、谷口和美先生著の“動物のお医者さんのための英会話”をみんなで読んだ。この本は実際にオーナーさんとのやりとりを想定した口語的な表現で書かれており、良書のように思った。私は実際に臨床の実習を受けていないので、よく分からないが、勉強になるように思った。

・英単語

昨年度米澤先生はかなり力説しておられたボキャブラリーだが、やはり重要だと思った。専門用語が分からなければ、会話についていけないと思うので、せめて自分が参加する予定である診療科で頻出な単語は覚えてい

くべきである。逆に言うと専門用語およびその臨床的な背景を知っていれば、英語のリスニングが苦手でも会話についていけるように思う。

昨年、米澤先生は選抜テストで用いた英単語集から小テストを行っていたそうだが、今年は谷口和美先生著の“パーフェクト獣医学英語”から小テストを作り、学生に配布した。この本は接頭語や接尾語といった英単語の構成成分に分けた解説があったりして、ただの英単語帳よりも覚えやすいように思った。学生の勉強に小テストも役に立ったと信じている。

・研修内容の調節

Purdue 大学から事前にどの診療科の実習を受けたいのか日程表が送られてくる。これに学生ごとにいつどの診療科の実習に参加するのか決めていく。この時、診療科目ごとに受入可能な人数が決まっているので、もし興味のある診療科が重なってしまったら、当事者同士で話し合う必要がでてくる。今年から国際交流委員長を務められる Dr. Scott-Moncrieff は同じ診療科の実習に長い期間参加する方が学生の学習効率が向上するとお考えで、毎日異なる診療科の実習に参加するよりも何日も同じ診療科の実習に参加することを薦められた。それもあって、今年は各学生が何日も同じ診療科の実習に参加することが多かった。各診療科の実習以外にも Purdue 大学の施設の見学を予定に入れてくれているが、もし他にも見学や研修を行いたい場合、事前に伝えておくことで、かなり対応してくれる。

同行教員についても何がしたいか事前に聞かれた（オフィスが欲しいか？実験したいのか？会いたい先生はいるか？等々）。少し前までは、Purdue 大学の偉い先生との面会等で、同行教員もかなりタイトなスケジュール

を組まれていたらしいが、今年からは結構自由になる時間が多くなったらしい。私は研修期間中ずっと基礎系の研究室を主催しておられる Dr. Lelievre のラボでお世話になることにした。

3. 研修中

・飛行機

成田空港にはみんな飛行機出発 2 時間 30 分前に集合した。チェックイン、出国審査等は順調にできた。搭乗までにも少し時間に余裕があり、ちょうど良い集合時間だった。例年何かしらトラブルはあるらしいが、今年もあった。シカゴ空港での入国審査の時に今年は 7 人中 2 人がバックヤードに連れて行かれた。連れて行かれた学生の話の聞くとビザを持っておらず、観光とっているのに宿泊先が PURDUE MEMORIAL UNION になっており、留学に来たのか怪しまれたのだと思った。この審査に約 30 分間やきもきしながら待たされた。乗り継ぎの飛行機に時間的余裕を持たせていたので、本当に良かった。飛行機のチケットの手配時にご迷惑をかけた久留主先生に感謝したい。

去年、預ける荷物の重量オーバーする人が続出したらしいが、今年は少なかった。私も含めみんな折りたためるセカンドバッグを持ってきていたので、問題なく詰め替えていたし、私も詰め替えた。

・研修中

学生の研修中は同行教員にとって基本的に自由になる時間になる。私は、Dr. Lelievre のラボに行って、実験を習った。詳細は割愛するが、今までやったことがないテクニックを習うことが出来て良かった。今後自分の研究に活かすことが出来ると確信している。他に動物病院長の Dr. Arighi と腫瘍科の Dr. Childress とお話しする機会をもうけていた

だいた。

・セミナー

学生には北里大学および日本についての、私には自分の研究内容についてのプレゼンを事前をお願いされていた。

学生達は一生懸命スライドを作ってきていた。英語がそれほど上手でない子も頑張って発表していた。学生にとってはプレゼンを行うこと自体が初めてのことであり、また、それが英語だったので大変だったと思う。しかし教育効果は高いと思うので、これが毎年恒例になればいいなと思った。Purdue 大学の学生や先生には日本の大学の話を聞くことが出来て、興味深かったと好評であった。

自分のプレゼンの方は、Purdue 大学に行く直前に渡辺先生と折野先生に見ていただき、さらに Purdue 大学で Dr. Tomo と去年北里に来られた Dr. Thompson にもチェックしていただいた。そのおかげで、英語のプレゼンが初めてな上に英語が出来ない私でも何とかプレゼンを行えたと信じている。私のプレゼンの練習につきあってくださった4人の先生方に感謝している。

・研修内容の再調節

終始この研修を調整してくださった Dr. Scott-Moncrieff と Dr. Tomo は各学生の要望を取り入れつつ、臨機応変に変更してくださった。

特に小動物に興味があった沱野君は研修終盤には自由に診療科を行き来していたし、今年から Purdue 大学に開設され、研修内容には存在しなかった Emergency にも参加できた。Emergency はその名の通り夕方から診療科が開き、夜中に診療している。本来ならこの研修は夕方 17 時に終了するはずであるが、Dr. Scott-Moncrieff と Dr. Tomo の計らいにより、彼は日がまだ沈まない夜 21 時ぐらいまで Emergency に参加することが出来

た。

今年の女の子 4 人はみんな大動物に興味があり、特にウシに興味があった。Purdue 大学では動物病院までウシを連れてくるケースは少なく、主に往診を行っているようで、本来なら予定になかった往診にも一緒に連れて行って貰った。また、インディアナ州の牧場を見学できるツアーの情報を研修中に知り、それにも連れて行って貰った。これは予定にはない上に、スケジュール的に追加することが厳しかったとお聞きしている。かなり Dr. Scott-Moncrieff と Dr. Tomo に無理をさせたと思う。学生の希望を叶えてくれた両先生に本当に感謝している。

・ホテル

今年からホテルが変わり、大学の近くになった。学生は 2 人 1 部屋で、私は 1 部屋だった。去年まであった朝食と夕食のサービスがなくなったため、各自でご飯を食べる必要性があった。大学に歩いて通える点は良かったし、ホテルの地下や周りに飲食店はいっぱいあるので不自由はしなかった。ただ、その分多めにお金を持っていく必要があるのが難点だと思われた。また、今年の研修一週目は、Purdue 大学は夏休み中で、学生がほとんどいないため、お店も朝早くからは開いていないが多かった。朝早くから空いている店を見つけるまでが不自由したが、見つけてしまえば全く問題なかった。

・健康管理

みんな朝ホテルのロビーに集まってから、大学まで歩いて通ったので、学生達の健康チェックをするのに苦労はしなかった。お腹を壊した学生もいたが、おおむね良好であり、健康に過ごせた。

・パーティーおよび余暇

8 月 8 日に Welcome party、8 月 12 日に Dr. Thompson のご自宅に 8 月 18 日に親日

家で地元の名士である Mr. James Keating と Mrs. Noriko Keating ご夫妻のご自宅に、8月20日に Farewell party に招かれた。他にも買い物をしに Wal Mart やモールにも連れて行って貰った。また、休日は、北里大学の卒業生で動物病診断研究所の院生である下の原先生に Purdue 大学のツアーに、Dr. Austin と Dr. Aisha に Indiana State Fair に、Dr. Scott-Moncrieff と Dr. Tomo に Indianapolis Zoo に連れて行って貰った。他の大学に比べると Party が少なく、予習や復習をしやすい環境にあったと思う。

4. おわりに

全体を通してこの研修は、とても良く考え抜かれた素晴らしい実習だと感じた。これも Dr. Scott-Moncrieff と Dr. Tomo を始めとした Purdue 大学すべての先生のおかげだと思う。この研修を通して私も教員として、考えさせられることが数多くあった。中でも教育に対する教員側の姿勢は勉強させられた。印象的だったのは、Dr. Lelievre が研究セミナー中に学部学生に対して質問攻めにし、学部学生もそれに対して自分の考えを答えていることだった（また、素晴らしい答えを言うんだよね）。当然と言われれば当然な風景なのだが、恥ずかしながら今私が受け持っている学生についてそれが出来るかと言われると出来ないと思った。Dr. Lelievre や Dr. Tomo の学生に対する接し方や学生達の話を経験すると、北里大学でも Purdue 大学でも研究、診療についてやっていることは、ほぼ同じであり何も特段変わったことはしていないようだった。教育システムや教員数等は全く異なり、これはどちらが良いのかは判断できないが（もちろん教員数は多い方がよいが）、どの教員も各学生自らが調査、計画、立案できるように教育している姿勢には非常

に感心した。私もこういう風に学生を育てたいは思っていたが、なかなか実践できていない面もあったので、非常に参考になった。

今回、私はまったく学生とは別行動を取り、臨床の研修にも参加しなかった。このことが良いのかは分からないが、やはり臨床の先生がこの研修に同行した方が有意義であるように思った（逆に同行教員である私の存在意義はあまりなかったのかもしれない）。また、私のように教育歴が短い先生には、アメリカの教育システムにはカルチャーショックを受けると思うので、一回行ってみることをお勧めしたい。

最後にこの研修を成功させるために終始ご尽力いただいた Dr. Scott-Moncrieff と Dr. Tomo を始めとした Purdue 大学すべての先生と国際交流委員長の大浪先生、パデュー大学との連絡係である折野先生、飛行機の予約をしていただいた久留主先生、および、会計の上野先生を始めとする国際交流委員の皆さまに深く感謝いたします。

5. Farewell party でのスピーチ

I cannot speak English well, as you know. So, please let me read my manuscript.

First, I would like to thank all of you for holding a wonderful ceremony and farewell party like this for us, and also giving me this opportunity to talk to you. We arrived at the Purdue University on August 7th. The time is fast!! We now feel these two weeks are very short. We would like to stay more in Purdue University.

We really appreciate all of your hospitality. All of the faculties, doctors, hospital staffs and students spent much of time for us. This program is not successful without your support.

Actually, I was afraid of going to Purdue University, because I cannot speak English well. However, this was needless worry. You were always patiently listening to our, especially my broken English and understanding what we would like to say. We also appreciate that Dr. Scott-Moncrieff and Dr. Inoue rearranged the Fair Oaks Farms today. I think it might be hard to rearrange the schedule. Thanks to this, the students experienced the local farms in Indiana. Thank you so much!! I also appreciate Dr. Lelievre hosting me in her Laboratory. It was an exciting time to learn new techniques and talk with her and her laboratory members. They always cared for me. Thank you so much!! I was given the opportunity to present my research on last week Wednesday. It was a first time to have a presentation in English. I was very nervous. So, I practiced my presentation with Dr. Thompson and Dr. Inoue and they encouraged me. Thank you so much. And I also appreciate your listening to my presentation and giving me suggestive advice.

These Kitasato students and I had a great time staying in Purdue University. I did not attend the clinical rotation, but I talked with them about what to study. They learned not only many clinical knowledge, but also the differences of clinical and educational systems between Purdue and Kitasato. We think the clinical techniques are similar, but the educational system is very different. I think the Purdue students have more many chances to learn veterinary medicine than Kitasato

students. The Purdue University faculties let their students think everything by themselves. We need to try this educational policy in Kitasato University. This international exchange program is an unforgettable experience for the students and me. I think this experience became an opportunity to expand our view. I hope some of us will come back Purdue University to study the veterinary medicine.

Finally, I would like to say again, we appreciate your hospitality. Thank you so much.

Yasunaga Yoshikawa, D.V.M., Ph.D.

Laboratory of Veterinary Biochemistry

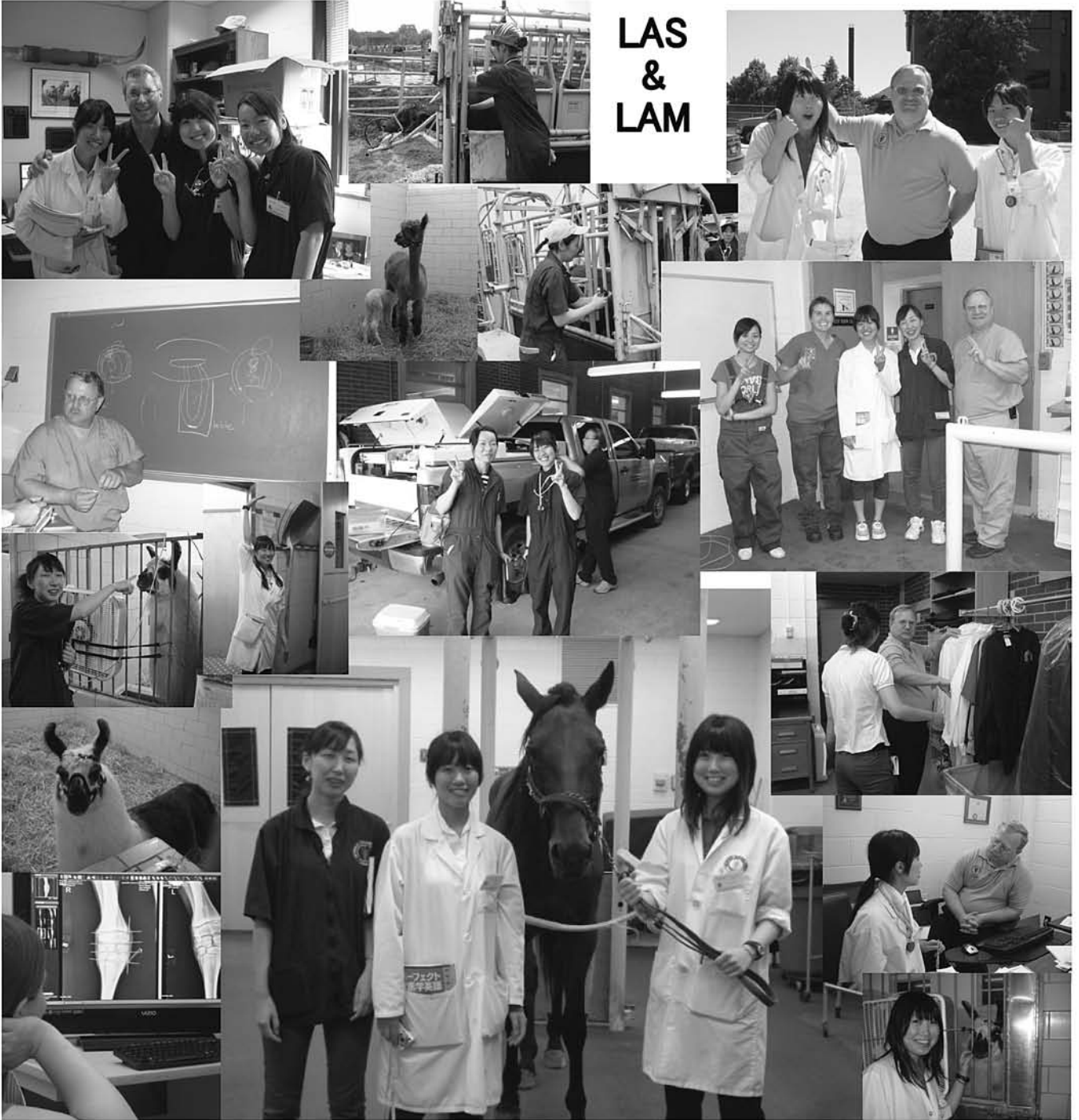






SMALL ANIMALS...





**LAS
&
LAM**

WE LOVE ★ LARGE ANIMALS



HAVING FUN !!





WE'LL BE BACK

**FAREWELL
PARTY**



Tennessee University
School of Veterinary Medicine
23 Aug. – 03 Sep. 2010



(Back Row); Dr. James J. BRACE, Yusuke, SHOYA, Hirofumi KAWATA, Syunsuke GOTO, Kota HIRAISHI, Dr. James P. THOMPSON,

(Front Row); Yurika NISHIMURA, Eri HIRAIDE, Kaori SUGAWARA, Dr. Takashige KASHIMOTO

同行教員：柏本孝茂 Dr. Takashige KASHIMOTO

氏名	Name	所属研究室
川田 大史	Hirofumi KAWATA	公衆衛生
後藤 俊介	Shunsuke GOTO	解剖
勝屋 雄亮	Yusuke SHOYA	第一内科
菅原 香織	Kaori SUGAWARA	生化学
西村 百合香	Yurika NISHIMURA	生化学
平石 恒太	Kota HIRAISHI	公衆衛生
平出 恵理	Eri HIRAIDE	第一内科

勝屋 雄亮

日本 AM09:00

空港着。そしてまさかの最初から重量オーバー。何とか友達のトランクに荷物を入れて事なきを得たが、これが枷となり今後の活動でお土産が買いづらくなった。

シカゴ AM09:30

乗り継ぎ。かなりの時間ここで待つことになったので空港内を散策。

8月22日

9:00に目覚ましをセットするも一度起きただけで爆睡。結局10:00に友達に起こされて起床。10:30にグレイス先生と待ち合わせをしていたので慌てて支度をした。全員が集合したところでグレイス先生に見学を希望する場所の変更を伝えていた。エキゾは2日1人までらしく断念。残念。一通り終わった後カシモト先生が来ないので様子を見に行ったら寝坊していた。全員そろったのでやっとこさ買い物に出発。そして到着。暑い。ショッピングモール内はさすがアメリカ広い。適当に分かれていざ買い物。女性陣のカートが料理する気満々だったので、既製品から一応調理するものを買うものを変更。しかしどの商品がおいしいのか見分けがつかない。とりあえず欲しい物のところに行き、これがおいしそうと勘でチョイスしていった。レジに通す前に全員で集まってかぶっているものがないかチェックしてレジに。ベルトコンベアーで商品が流れて行くのは個人的に懐かしかった。先生にキャッシュで一括払いをしてもらい、寮に帰ってから全員で割り勘して清算した。帰ってから昼ごはんを食べにお出かけ。すぐにパーティーに行くことになっていた。なので今は日本に無きウェンディーズで軽く食事をとり(チリソースのチキンうまかった

なあ)、テネシーグッズを買いに。男性陣が自分達の服をあさっているのを横目にペット用のユニフォームを買うか小一時間悩んだ挙句、実用性を優先しマグカップ購入。この時硬貨を使おうと財布の中を見るも、硬貨の値段が分からずあきらめた。寮に帰ってから硬貨の種類と値段を確認した。この後は自由時間で各自好きなように過ごしていた。先生と一部の生徒はこの時すでに飲み始めていた…。夕方からはグレイス先生宅でパーティーと言うよりもお食事会。日本語を習っているセラと日本の大学に勤めたことのあるシュウ先生夫婦がゲストとして参加し、グレイス夫人の作った料理をごちそうになった。前菜ですでお腹いっぱいになってしまい、メインディッシュのグリルされたおいしい肉を頂くころにはギブアップ寸前になっていた。カシモト先生が用意してくれたプレゼントの説明をしたり色々談笑しながら(英語が分からなくて笑っていないこともあったけど)過ごし、パーティーも終了。寮に帰り、また先生と一部の生徒はお酒を飲んで、疲れた人はとっとと寝て今日も終了した。

8月23日

時差ぼけかソファーで寝ていたせいなのか4時間しか寝ていないのに目が覚めた。予定より一時間早かったがもう一度寝られる気配もなく、仕方なく起床。朝ご飯にバナナを食べ、準備をしてグレイス先生に学校まで車で送ってもらう。事務所を案内してもらい、それぞれを各研究室まで案内してもらった。今日から2日間は神経学の研究室だ。ここからは完全に個人プレイ。軽く「よろしく」と言ったらすぐに診察開始。せっかく用意した自己紹介文は日の目を見ることはなかった。神経テストをやりはじめていたが、説明される英語はもちろんちんぷんかんぷん。体の部位の

名称をしっかり覚えておけばよかった・・・と後悔してももう遅い。とりあえず雰囲気だけで理解してみた。やさしい人たちだったので、だんまりになった後半でもたまに話しかけてくれた。黙っていたらだめ、こっちから話さないと、と言われても話すネタが思い浮かばない。まあそんなもんと割り切ってた。

途中で手術を見ることになった。頸部の脊椎板ヘルニアへの吻側からのアプローチだった。ただ患畜がヨークシャーテリアだったせいで何も見えなかった。踏み台もらったけどだめだった。4時間しか寝ていなかったのと、日本ではもう寝る時間だったので、おかげで眠気スイッチオンに。ここから立ちながらの眠気との戦いが始まった。・・・何回か負けた。

アメリカ人意外と慎重に手術をやるんだな一と思って見ていた。器具出しの先生がいなかったのには驚いた。他の先生がいなさ過ぎてたまに大きな声で呼び出されていた。手術終わる前に他の先生に呼び出せれ、研究室に戻った。昼飯は好きなタイミングで食べていいよと言われたので、たまたま通りかかった友達を捕まえて、持って来ていたパンでお昼ご飯に。

一時間ほどゆっくりして研究室に戻った。患者もいなかったので神経検査のルーティン表の単語を電子辞書にかけていたら Dr. が声をかけてくれて MRI を見ることに。17:00 にみんなと合流して帰宅。そしてみんなが晩御飯を作っている間に力尽きて睡眠。

8月24日

ブレイス先生に今日も送ってもらい1日がスタート。が、神経学研究室なんと今日は急患が来ない限り患畜がいらないらしい。研究室の生徒と軽くしゃべり、可愛い子から土曜日遊びに来ない？とアドレスをゲットした後

は、病院の散策と神経学の使える資料をよんで1日が終わった。患畜がいないと何もすることがないとは・・・。研究生が論文を読んでいる時は散策していたが、リハビリテーション用に水槽と OO を組み合わせた物や、エキゾの入院患者を見せてもらえたのが印象に残っていた。ワシをあんな間近で見られるとは思っていなかった。寮に帰ってからは校内の散策をした。アメフト会場の広いこと高いこと。久しぶりに高所恐怖症を発症して縮みこんでいた。友達の目的地であったバスケット会場はなぜかバレーボールとバドミントンのコートに変わっていた。さみしそうだった。しかしテネシー大学無駄に広い。施設がでかい。ほんと1つの町みたい。うちの大学も土地はあるんだしこれぐらい・・・とは思いますが、アメフトの収入があるからできるのだろうか。

8月25日

今日から2日間は外科に参加。軟部組織と骨の2種類あったが軟部組織の方に参加した。今日は前肢にできたサルコーマと胸部リンパマス、陰部のマスの摘出を診た。なんかマスの摘出術しか見てない気が...気のせいかな。午後は肛門形成術もしていた。手術につきっきりだったので、生徒が診療しているところは見えず、手術がない間はぶらぶらしていた。

8月26日

軟部外科2日目。消化器マスの摘出、ドレナージ、CT スキャン、腕切りしたこの経過などを診た。外科のボスである Dr. トバイアスさんにつくことが多かったが、この人がおばあちゃんなのに中々陽気な人で面倒見がいい人だったので楽しく教わる事ができた。もっと早く気付くべきだった。というか基本みんな歌ってダンスしているんだが

のだろうか。生徒一人一人で患畜を診るせいか件数の割にはすぐに終わってしまう。手術の件数も2件ほどでマスを取る物が多いので意外と早く終わってしまった。午後は他の研究室を覗くことが多かった。北里の外科はいつも忙しそうなのにこの違いは何なんだろうか。(ちなみに病院で一番忙しいのは眼科らしい。)

8月27日

今日の朝の目覚ましは火災報知機のベル。4時間しか寝てないよ…。外を見たらそこそこの数の人が出ているので念のため友達と2人で外に出てみた。寮を見渡してみても特に異常はなかったので部屋に戻るも二度寝はできなかった。しかも一人は起きる気配すらなかった。今日は内科に配属する日だった。内科の中でも1と2があると聞いていたが、さらにもう一つ「Communication practice」と言うところがあったらしく、そこにつくことになった。ICUで、甲状腺機能低下の犬にチロシンを打つために先生にサインをもらい、しばらく宿題をやっているからとここで別の内科の人について先生との会話を聴いていた。連続で喋られると頭での翻訳が追いつかなかった。その後研究室に戻り、犬がやってきたなーとおもったがどうもこいつも元気そう。いいことだけど。過去のカルテなどを見せてもらうも、なんの問題があるのか分からなかったの、何するの？って聞いたら予防接種をするらしい。犬インフルエンザと狂犬病とボルデテラの3種類だった。もう1匹も予防接種で、別の一匹は耳に酵母がいるので洗浄していた。犬の滞在時間が長かったので、持っておくよと言いつつ好きなだけモフリ、午前は終了。午後の予定は急患がない限り特に何もなければ、他の内科が内視鏡を使うよと教えてくれ

たので、お昼御飯に。で、帰ってくるとだれ一人としていない。内視鏡の手術まで時間がかかりそうなのでまた少し散策。内視鏡の手術を見届け、研究室に戻るとやはりいない。入院患者の様子が気になったので少し奥の方まで入って行ったら左斜め後ろに部屋があってそこにみなさんいるじゃないですか。しかもなにやらビデオを見ている感じ。よく見たら患者さんとドクターのやり取りが映し出されていて、ここで初めて「Communication practice」の意味を知る。患者さんとのコミュニケーションを練習するところなのねここ。似たニュアンスのことを言っていたし、研究室の名前そのままなので気づいてもおかしくはなかったのに、内科という概念にとらわれて全然気づかなかった。英語分かんない上にみんな真剣そうに見てて質問しづらい雰囲気だったのでそっとしといた。夕方は友達がローストビーフを作ってくれたのでそれを食べた。1人料理ができる人がいるのは重要。明日は久しぶりに遅く起きれるので深い眠りについた。

8月28日

久しぶりの休日。各自思い思いに遊んできた。夜からは誘われていたパーティーに行った。

英語ができない組だけでいったので最初の空気が重かった…。DJをやっている人がいて音楽の趣味が合い話が進み、お酒の力を借りて何とか楽しみながら終えた。共通の趣味って大事。

8月29日

今日は川までラフティングをしに行くことに。前日のパーティーで寝不足なので後部座席で寝ればいーやと思っていたらまさかの隣にDr. フライの息子が。さすがに寝るのは

忍びないのでしゃべっていたが中々楽しい子だった。

ラフティングは楽しかった。流れが緩やかなところではわざと落ちて漂うことができたが、あれをもう一度経験したい。

8月30日

今週からは大動物の研究室を回ることになる。今日から2日間は馬の往診に参加。どうやらUTの学生は研究室をローテーションで回っているらしく、今日が研究室の変わる日らしい。そこで学生向けに施設の説明会が始まった。一通り施設内を回り説明が終わるとそれぞれの研究室に分かれて作業が開始した。といってもすぐに始まったわけではなく先生が来るまでそこそこの時間休憩室でまっていた。先生が来たら生徒に向けての研究室の説明が始まった。次に往診用の車の説明を受けた後、準備をしていざ農場に出発。ついた先は

農場ではなく乗馬クラブだった。杉の香りがほのかにする小奇麗なところだった。1件目の馬は後肢の怪我の経過を見ていた。先生が生徒に時たま質問をしていきながら馬を走らせたり触診をして、診察の仕方や診察する部位など様々なことを教えていた。2件目は足を不自由にしていた馬を診た。生徒にネコが1匹加わって(横に並んでいただけ)診察をしていった。左前足と右後足のかかと側が痛いらしく、歩き方にも異常が出て来ていた。足の靭帯に麻酔をうって処置していた。しつけができていやすく検査の間も実にいい子だった。次は馬伝染性貧血の検査をするために血液の採取を行った。馬4匹とポニー一匹、そしてロバ1匹に行った。ロバもやるのね。ここで一通りの作業が終わり、お昼ご飯をとり学校に戻った。戻ってからは内科の授業に参加することになった。消化器系の疾病が羅

列されていったが辞書を使わない限りわからない物が多かった。

授業が終わって大動物1日目は終了。

8月31日

大動物2日目。今日は馬のフィールドワークは人数ギリギリなので、家畜の方のフィールドワークの先生につくことに。そして連れて行かされた先が、1年生の大動物実習...。授業を受けることになりました。牛の触診の仕方や、軽い問診、ロープの結び方と牛の倒し方など比較的初歩的な授業だった。午後はアルパカの腸閉塞の手術を見た。

9月1日

今日からは馬の外科に配属。とはいっても今日は手術を見ることはなかった。基本的に跛行で来る子が多く、足に神経遮断薬を注射して跛行がなくなることでどこの部位に痛みがあるのか診ていた。今回は歩行テストをする際に頭、背中、足の3か所に機械をつけて、ブレを計測することでどこに異常があるのか予測する方法も試されていた。

ポータブルX線放射器でレントゲンを撮っていた。

9月2日

今日の午前は動物園に行くことに。エキゾの先生につれてってもらい、診療所の中の軽い説明をしてもらい動物園内を回った。午後からは普通に研究室に戻った。眼にできた腫瘍を取る手術が終わるまでこっちの手術ができないので、それまでの間にメキシコから来た留学生に入院患者のことを一緒に見て回り教えてもらった。後趾をけられて骨折し、その骨片を取り除く手術待ち、肩関節脱臼、交通事故でレントゲンを撮る、食道内の異物を生理食塩水の口腔内に入れてフラッシュするなどなど。

夕方はナンシー達と一緒に買い物に。

9月3日

とうとう最終日、だが患畜がこない。何もやることがない。どうやらこの不況で馬を見せにくる人が激減したらしい。そこで他の研究室を巡回することが多かった。結局今日来たのは蹄を直すものだけだった。アルパカの子供がもうすぐ生まれそうだったのに見れなかったのが心残り。夕方はDr. フライ宅で食事会。先生の息子とその友達とバスケやアメフトをしたり、ゲームをしたり、談笑をしたりして楽しんだ。寮に帰ってからは帰路に就く準備。2時間ほど寝て空港に向かった。

9月4日

日本着。ゲートの前で現地解散となった。

平出 恵理

出発日

成田に9時30に集合しチェックインをしたら席がバラバラになってしまい私は11時間のフライトを真ん中の席で一人ですごすことになりとても辛かった... しかも11時間で機内食が2食+おやつ?のパンがでて早くも食べ過ぎでやばい。

シカゴの空港に着き5時間ほど待ち時間があつたのでみんなでまたご飯を食べた。時差ボケがひどく眠気覚ましに食事をしているような感じだった。

5時間後飛行機に乗りノックスビル空港へ。ブレイス先生が空港まで迎えに来てくれた。車でテネシー大学まで送ってもらい2週間滞在することになるアパートにやっと到着。アパートは寝室2つにリビング、キッチ

ンが付いていて学生寮とは思えない広さだった。夜ご飯をアパートから少し離れた飲食店がたくさんある通りに食べに行ったが突然雨が降り近くにあったサブウェイにみんなで駆け込んだ。アメリカに上陸して初の食事はサブウェイ... とりあえず長旅で疲れていたの、この日はすぐ寝てしまった。

1日目

ブレイス先生にウォールマートという大きなスーパーに連れていってもらいここで1週間分の食料を買い込んだ。大量の肉、パン、飲み物を買った。買った後の食料を見てこれを1週間食べ続けるのかと思ったら本当にヤバイ...

少し遅めのお昼をウェンディーズで食べ、夜はブレイス先生の家で招待されパーティー。ご飯がとってもおいしくウェンディーズでご飯を食べてから3時間しかたっていないがお代わりまでして食べてしまった...

食べ過ぎた後悔はあつたが今度日本に留学するサラと話したりパーティーはとても楽しかった。

2日目(小動物1日目)

今日からそれぞれの研究室に配属され実習が始まり私は2日間小動物外科を見学することになった。

この日は午前中は入院患者の世話をし午後から手術の見学をさせてもらった。手術は避妊手術と去勢と頸部マスの除去手術で、日本で行われているものと違いはなかったが実際に学生が手術の助手や縫合をやらせてもらっているのに驚いた。

また外科とは別に麻酔科があり麻酔の導入・維持・覚醒は麻酔科にまかされていた。北里の小動物の研究室にも麻酔科があればい

いなあと感じた ...

17時にアパートに帰宅し、みんなで夜ご飯を作った。昨日スーパーで買った食材を使い、ピザ、ステーキ、パスタ、サラダを作りみんなで食べた。

3日目(小動物2日目)

この日は手術はなかったので、診察を見学した。

診察では舌の潰瘍、シャント、腰の形成不全の動物を見ることができた。午後は外科の研究室から離れ、豚のアクアセラピーを見学した。アクアセラピーは脊髄を損傷した豚を水槽にいれある程度水を満たしウォーキングマシンのように床が動くという仕組みだ。

17時に帰宅し、夕飯は近くのレストランでステーキを食べた。

アメリカらしいボリュームのあるステーキだったが日本より値段は安く美味しかった。

4日目(小動物3日目)

外科の研究室を後にしこの日から皮膚科を見学した。スコーンとお茶をいただきながらゼミ発表を聞いた。ゼミはポックスウィルス感染症とミクロフィラリアについての論文の発表だったが悲しいことに会話が早く、ついていけなかった...ゼミの後はお昼を食べ、午後からMRSAの豚の手術を見た。全身の皮膚が固くなりひび割れている豚を北京ダックのようにナイフで剥がしていくという手術だったが、見ているだけでとても痛そう...。アクアセラピーで治療していた豚やMRSAの豚も普通殺処分してしまうのではないかと思ひ先生に聞いてみると、これらの豚は食用ではなくペットらしく、アメリカではペットとして豚を飼っている人が多いと思った。

帰宅後はTレックスという大きなジムに

行きプールとテニスをした。

アパートに帰ったら煙がすごい...と思ったら突然火災報知器が鳴り煙の発信源に行ってみるとうちの部屋からの煙だった。夜ご飯のチキンからすごい煙が出ていたので調理を一時中断し火災報知器を止めてもらった。アパートの人たちには本当にうるさい日本人だなと思われたらどうな...

5日目(小動物4日目)

オーストラリアに出張するためブレイス先生とこの日でお別れした。

短い間だったけどすごく親切にしてくれてありがとうございました。

6日目(小動物5日目)

今日から麻酔科。しかし今まで私は外科は西村さんと、皮膚科は平石君と一緒にだったのでこの日初めて一人で行動しなければならなかった。アメリカに来て一番困ったことは話すことではなく聞き取れないということだった。この日はQuiet girlになるな...と思ったが麻酔科と外科はやはり繋がっているので外科の平石君とまたも一緒になり結局あまり一人でいることはなかった。しかし一人の方が絶対英語が上達すると思った。麻酔は日本で使っている薬と同じようなものだったが外科ではなく麻酔科が別に麻酔を行ってくれるので外科は大分負担が減ることになる。日本の獣医学では麻酔科がないが北里にも麻酔科が欲しいとすごく思った。

学生が麻酔の導入や挿管など実際にできるのがやはり羨ましかった。

この日は肘の腫瘍と整形のオペを見て帰宅。

夜ご飯はローストビーフとステーキというまたしても肉祭りだったがローストビーフがすごくおいしかった。

6日目

10時にブライ先生にウエストモールに連れていってもらった。ウエストモールはすごく大きいショッピングモールで十和田でいう下ジャミたいなところだ。

ここでは待ちに待った買い物ができるので、みんな(特に女子)は決められた時間内で必死に走り回った。私も友達や家族に色々なお土産を選んでいたら柏本先生がお土産を **VICTORIA'S SECRET** という店で選んでくれると言うので行ってみたら、可愛いけどちょっと派手なお店で男の人は一人では居づらいお店だった。結局先生はお土産を選んでくれなかったのでハンドクリームを買って帰った。

モールの後は初日に行ったスーパーでまた1週間分の食料の買い物をし、夜はみんなでバーに行った。バーではファッションショー行われていてセクシー?なお姉さんたちを見ながらお酒やチキンを食べた。

7日目

私達とフライ先生、フライ先生の息子のジョン、ナンシー、大動物の先生と車で2時間以上かけラフティングに行った。

ラフティングは少しでも気を抜いたら普通に川に落ちてしまう激しいスポーツなので必死にボートにしがみついていた。

みんなは楽しかったと言っていたが絶叫マシーンは大丈夫な私でもかなり怖かった。

8日目(大動物1日目)

今日から大動物の実習で馬の外科を見学した。

馬の外科では小動物でも行われていたアクアセラピーが行われ、水中を走らせ脚の治療をしていた。

午後は削蹄などを見学した。

実習が終わった後新しく作られたスタジアムを見に行った。大学内とは思えないほど立派でここで毎週アメフトの試合がされるらしいので来年テネシー大学に来る人は試合が見られるかもしれない。

夜ご飯は鮭のバター醤油、エビ、ジャーマンポテト、サラダなど久しぶりに肉以外のご飯を食べた。

9日目(大動物2日目)

この日も西村さんと一緒に馬の外科を見学した。午前中は指圧療法を見て、午後は腱の短縮術のオペを見た。オペは倒馬も見られ、普段では見ることができない貴重な体験ができた。

実習が終わった後はユニバーシティセンターに行った。ユニバーシティセンターはフードコートやテネシーショップが入っていて私はテネシーショップでTシャツなどを買った。フードコートに寿司屋がはいていたので試しに買って見たが、思っていたより美味しかったのとお米と日本食がすごく恋しかった。

この日の夜ご飯はスペアリブとハンバーグとまたも肉祭りだったが、私はアメリカでの自炊した夜ご飯でスペアリブが一番美味しかった。夜ご飯を毎回作ってくれた平石君本当にありがとうー!

10日目(大動物3日目)

菅原さんと私と西村さんとで **EQUI FIELD SERVICE** を見学した。午後から3年生の実習にまぜてもらい直腸検査や解剖をおこなった。実習は大学ではなく車で別の場所に移動して行ったが、アメリカの大動物の農場や施設は広々としていて、どこもキレイだと感じた。

夕方から **HABIT(Human Animal Bond In**

Tennessee) というボランティアの活動発表会を聞きに行った。HABIT では自分のペットを病院や老人ホームに連れて行くというアニマルセラピーの活動をしているらしく、その活動内容を発表し新しいボランティアを募っていた。

私も以前日本でアニマルセラピーに参加したことがあるのでアメリカでのこのような活動を知ることが出来てよかった。

11 日目 (大動物 4 日目)

この日はみんなで Noxville 動物園を見学した。Noxville 動物園は動物を檻の中に入れておくものではなく動物の野生に近い姿で飼育されていた。特に霊長類が多かったきがした。

この日の夜はナンシーとサラとダウンタウンに行った。ダウンタウンは町並みがきれいでいろんな飲食店や雑貨屋さんが立ち並んでいた。私はここでアメリカのアイス屋さんに入れたことが大満足だった。やっぱりアメリカのアイスはおいしい！

夜ご飯は多数決により Hooters というレストランに行った。出てくるものは普通のレストランと同じなのだが店員が全員巨乳のお姉さんだった。巨乳のレベルもアメリカと日本ではレベルが違うなと思った。

12 日目 (大動物 5 日目)

長いようで短いアメリカでの実習もこの日で最後だ。この日は FARM ANIMAL にお世話になった。ウシの削蹄やサルモネラ感染疑いのウシ、子ヤギの断角などを見た。お昼はブライ先生たちと一緒にランチを食べ、実習の修了書が一人一人に手渡された。英語もあまり分らず苦勞した 2 週間をやりきったと思うと修了書が重く感じられた。

夜はブライ先生がお別れのパーティを開い

てくれた。ジョンとも 1 週間ぶりに再会しみんなで夜ご飯を食べた。フライ先生の家の台所を借りてお好み焼きを作ったら想像以上に好評で、みんな食べてくれたので良かった。パーティの後は 2 週間お世話になった部屋をキレイにし、3 時間ほど仮眠をとり早朝の飛行機でアメリカを発った。

2 週間アメリカに滞在し、とても貴重な体験ができてよかった。

平石 恒太

初日

今日からドキドキのアメリカ留学！

とくに出発時にトラブルもなく (S 屋くんが荷物の重量 OVER で詰め直しになった程度だった) 日本を発つことができた。

・・・が、シカゴオヘア空港での入国審査時にスキンヘッドがとても似合う厳ついおじ様に、入国時の質問の受け答えをしているうちにパスポートを投げ捨てられそうになってしまった。

この時おじ様は留学ビザがどうのこうのと言っていたのだが、ここは今まで練習した英会話の成果を見せてやろうと冷静に質問に答えた・・・つもりだったが返答が気に入らなかったのかパスポートを取り上げられ、再度、最後尾に並びなおさせられて、少しヒヤっとした (結局最後は呆れた感じの表情で通してくれました)。

空港に着いてからテネシー大学のブレイス先生と合流し、車で宿舎まで送ってもらった。およそ半日間のフライトを一錠の酔い止めで乗り切ったのだが、この時のブレイス先生の 30 分ほどの運転で酔ってしまったのがとても悔しかった・・・。

そんなこんなで1日目は終了した。

2日目

今日は朝の10時半からブレイス先生が近くのショッピングセンターに連れて行ってくれた。

大学から10分くらいのWALMARTで1週間分の食料、日用品の買い出しを行った。そこで驚いたことはなんと言っても肉の安さだった、1キロほどの牛肉で7\$くらいだったり、チキンレッグ10本が5\$もしなかったりした。

買い物の後にウェンディーズでハンバーガーを食べた、自分はせっかくアメリカにきたのだからと、ハンバーガーがとても大きくなるようにオーダーしてみたりポテトやドリンクも向こうのLサイズ（日本のLサイズの3倍ほどあった）で注文したところ、出来上がったハンバーガーを見て店員のお姉さんもびっくりするほどの大きさになっていた。

夜はブレイス先生がパーティーを開いてくれ、そこで日本の獣医学に興味がある現地の学生のサラさんや、日本の大学で研究をしていたというシュウさん夫妻と出会い、とても楽しい話しができた。

日本のビールが出てきたのだが、その味は日本のものとはだいぶ違ったものであった。

小動物研修初日

今日から実際に大学病院に行き、その様子を見学させていただくことになっている。

ここで皆ばらばらに研究室に分かれていったが、自分は最初の2日間は内科学に割り当てられた。最初にICUにいるメスのポメラニアンの子の体調検査をし、SQを1250meq皮下注射して経過観察としていた。

次に見たオスの大型犬はかなり衰弱しており、貧血を起こしていた。土曜日からの入院

らしく、いろいろな検査を今日からしていくとのことであった。まず最初に頸静脈から血液採取を行い、血液検査にまわし、膀胱穿刺による採尿、尿検査を行っていた。

その後、鎮痛薬（ブトルファノール）を注射し、エコー検査を行ったが、そこでは何の異常も見られなかった。結局今日の検査での確定診断までには至らなかった。

最後に午後の3時から5時まで、糖尿病の授業(?)を受け、今日の実習は終了した。

小動物研修2日目

今日も引き続き内科の研究室にお世話になった、今日は朝8時から入院患者の回診、9時から朝のミーティングを行い、先生、生徒がそれぞれの仕事に着いていた。

今日自分は（おそらく）四年生であるセスさんについてまわって、病院に来る患者の診断に必要な診察、検査の一連の流れを実際に見ながら教えてもらった。

今日セスさんに来た患者は16歳のオスのネコで、鼻汁が気になるということで来院してきた。

カルテを受け取りチェックした後、診察室に入りクライアントさんと呼び、クライアントさんと会話をする。この時の内容はとりあえず飼い主さんが気がついた異変をいつから、どのようにを詳しく聞いていた。

この後、患者を保定し（手伝わせていただきました）、患者の検査（視診、触診、検温など）を行い、クライアントさんに待ってもらってから、研究室にいる先生たちと、確定診断までにどのような検査を行うかどうかを相談し、その結論を先生とともにクライアントさんに伝えに行き、患者を一日預かって検査を行っていくとのことであった。

血液検査を行いCT（話を聞いていると、アメリカでもやはり高額であるらしい）を

としてみるとのことであった。今日は午前中のうちにすべての患畜を診てしまったので午後は動物のリハビリの様子（イヌやネコの他にミニブタまで）を見学して、2日目の研修は終了した。

小動物研修3日目

今日から皮膚科で研修させていただくこととなった。

今日は10時半から学生二人のゼミ発表を聞いた。内容はミクロフィラリアの診断、治療方法についてとポックスウィルス感染症の動物と人との感染様式および、症状、診断法、治療法についてだった。

その後、皮膚の先生の授業を受けた。内容は痒みを主訴とするネコの疾病についてだった。

午後は1時から症例会議を行ってから大動物棟に行き、MRSA感染ブタの外科手術を見せてもらった。とても珍しい症例のようで、たくさんの見学者に囲まれていた。全身麻酔をかけて痂皮を鋏で切って剥がしていくという作業を週に一回、6週間ほどにわけて行うということであった。

この手術で今日の実習は終了した。

今日は学校が終わった後に、柏本先生とテニスをした。アメリカに来てから暴飲暴食がみだったので、少しでも体を動かさなければマズイと本気で思ったし、何より放課後に全力でスポーツに打ち込める学生のお手本のような一日がうれしかった。

調子にのって3時間ほどやっていて、終わり際にはもう足がガクガクだった。

そんなこんなで今日も1日が終了した……と思ったのだが僕らがテニスを終えて、9時頃に宿舎に戻ってくると、僕らの部屋の廊下がいやに煙たかった……と思った瞬間、突

然報知器のサイレンがなりだした。急いで部屋に戻るとS原さんとS屋くんが換気扇を使用せずにチキンレッグを焼いていた。

なりやまない警報機を止めに柏本先生がフロントに走っていき、残った人はあたふたしていた。

5分間ほどしてようやく報知器が止まり一段落、その日の夕飯のチキンはとてもおいしかった。

小動物研修4日目

今日最初の症例は、リンパ腫（だと思われる）で、後肢、下腹部に多数の転移が認められ、大きなもので9mm～10mm程の大きさであり、テープ試験で診てみると、多数の酵母菌（yeast）が見られた。

2つ目は大型犬で腫瘍らしきものができたという患畜であった。軽く飼い主と話をしてから、犬を預かりFNB(fine needle biopsy)を行い。これを顕微鏡で調べるとFibroblasticが多数見られたとのことであった。

3つ目はclastを主訴とする大型犬であった。この犬の耳介は粘液質のものでとても汚れていて押捺印法で耳介の粘液を検査すると多数のバクテリア、及びイーストが検出された。

この後子猫が来て10分以上先生、生徒が猫の様子を見ていたので患畜と思ったのだが何の患者か聞いたのだが皮膚科の患畜でないのでわからないと言われた。ただ預かっていただけのようなのだ。

病院実習に来てアメリカの学生は動物が本当に好きで、獣医学を学んでいるという人が日本の学生より多いような印象が強が残った。

この後今日の症例の確認会議を行い、この

日の実習は終了した。

小動物研修 5 日目

外科

今日は1日、小動物外科の研究室の見学をさせてもらった。

この日は、ひたすら手術の見学で、自分がこの日見たのは、PDA(動脈管開存症)、脾腫、去勢、骨肉腫、皮下織腫瘍の除去であった。

ひたすら立ち続ける1日はとてもつらかったのだが、普段の臨床現場を見られない自分なので、実際に病気になった犬の臓器を見ることなどは初めてであった。特に脾腫の手術では通常の脾臓の半分が5倍ほどに腫れ巨大なホヤのようになっていたことに非常に驚いた。

また、次から次へと患者が運ばれてくるこの研究室の忙しさにも驚いた。

5時まで見学していたが一向に手術まわりの患者が減ることがなかった。

宿舎に戻り夕食の支度をする。先日のショッピングで買って来た食材を、この日までに使いきってしまうとしたのだが(消費期限ぎりぎりだったので)、いかんせん余っている肉の量が多すぎて(おそらく5kg超)食べきれぬかどうか心配だったが、8人何とか食べきってしまった。(他のサイドメニューも豊富だった)だんだんアメリカの食生活に順応していったのではないかと感じた。

土曜日

今日はどうしても久しぶりに感じてしまう休日。思えば実習が始まってからの5日間は、1日の睡眠時間が大体5~6時間、4時間くらいしか寝ていない日もあったくらいで、さらに昼に寝ることなどなくなっていたので普段からちょくちょく寝ている(要は居眠りが多い)自分にとっては1日が長く感じるこ

は当然である。アメリカンに来てから初めは時差ボケを心配したが日本で夜型生活な自分は、むしろアメリカに来てから健康的な生活リズムに矯正されたように感じる。1日目は朝からすっきり起きることができるし、夜もぐっすり眠ることができ、体調も良かった。また日本に戻るとどうなってしまうのかと心配しているまでの事態である。

今日の予定としては、木曜日からオーストラリアに旅出ってしまったブレイス先生の代わりに、以前北里に授業をしに来てくれたフライ先生が僕らをショッピングに連れて行ってくれた。イーストモールという大きなショッピングモールでそこで日本人たちにお土産を買った。

その後、先週の土曜日に行ったマーケットで残る1週間の食材を買い込んだ。この日の夜何人かで夜の街(と言い手も結構田舎なのだが)に繰り出し、という大げさだが、宿舎近くのBARでお酒を飲んだ。日本の居酒屋のような雰囲気は皆無で、店内にはひたすら爆音と叫び声のようなものが鳴り響いていたが、いかにもアメリカらしくとても楽しかった。

日曜日

今日はフライ先生とその息子のジョン、馬の外科の先生のメラニーさん、大学の生徒のナンシーさんの4人と僕たち8人でラフティングに出かけた。

日本にある川とは、やはり違って、流れが急であるのだが、やけに川幅が広く(規模が)壮大に感じた。

ラフティングの時間は、想像よりずっと長く(おそらく1時間以上)、その間興奮しっぱなしだったせいか、終わってみると意外とラフティング中の記憶がないと感じるほどであった。

ラフティングから帰ると、ぐったりとベッドに倒れ込み、そのまま眠りに就き、次に気がついた時は深夜の2時近くだった。

次の日からまた実習なので、とりあえず、宿舎の周辺を歩き回り、疲れを感じだしたくらいで宿舎に戻り、買ってきたピザを食べて、再びベッドに入った。

大動物研修 1 日目

この日はまず臍ヘルニア仔牛の外科手術から始まった。手術自体は1時間半くらいだったのだが、覚醒に2時間ほどを要し、その間牛の体を支えるため、腹部にタオルを下からまわし二人掛かりで持ち上げるという作業のお手伝いをした。仔牛といっても体重は80kgほどで2時間もの間支えているのはかなりしんどかった。このとき大動物診察にはまず体が重要だと向こうの先生に笑いながら言われてしまった。おそらくしんどさが顔に出ってしまったのだろう...

この後、豚の避妊手術、アルパカのエコー診断、蹄底潰瘍の牛の治療が行われ、その日の症例報告を行い1日が終了した。

大動物診察に来て、すべての診療治療、入院施設にエアコンが効いていて、さらにものごく大規模で、衛生管理がきちんとなされていることに驚いたがさすが酪農の盛んな国と納得もした。

大動物研修 2 日目

今日も FARM ANIMAR でお世話になった。この日は、昨日とは別の蹄底潰瘍の牛の診察から入った(最初の段階では蹄底潰瘍とは診断されていなかった)一通りの身体検査と、蹄の検査を行った後に X 線検査を行い、その進行度を見ていた。その牛は午前中はそこまでであった。

午後から、イレウスのアルパカの手術を見

学した。さすがに日本ではアルパカの手術などは見られないだろうと期待しながら見ていた。今日は腸管の手術だったためアルパカが単胃なのか複胃なのかわからなかったが聞いてみたところ複胃らしいことがわかった(ラクダの仲間)。このアルパカの手術はもとのイレウスの原因があまり分かっていなかったことから、時間がかかり、終わるころには4時間が経過していた。術中に腸管膜に腫瘍のようなものが発見されたが、この段階ではそれが何であるかはわからなかった。アメリカに来てから僕はウイスキーの味に魅了され特に好んで飲むようになった。この日もウイスキーが飲みたくなり友人を誘ってみたのだが一緒に行ってくれる人がいなかった(泣)残りの少ないアメリカ生活を満喫するんだという気持ちで、なんとその日は一人で BAR に行くことになった。最初はびくびくしながらお店に入ったのだが、2杯3杯飲んでいるうちに緊張感は解け僕の隣に座っていたおじさん(おそらく40歳くらい)が話しかけてくれて、会話を楽しんだ。と言っても30分くらいしゃべっていた間に僕が聞き取れたのは「テネシーはいいところだ」くらいなもので、なんでそんなに長い間会話が続いたのか不思議に思われるくらいだった。アメリカで気づいたことだが、とりあえず、なんとなくの英語でも(しっかりとした文章でなくても)アメリカ人は理解してくれるものだと強く感じた。

大動物研修 3 日目

今日から馬の内科での実習で、この日最初に行ったところは、先日までの入院患者の経過、これからの治療方針のミーティングであった。

そのあと、僕が向こうの先生について見に行ったのはデルトフィルス症候群の2頭の

親仔馬であった。

この日は検査から入り、このウマの症候群の皮膚テストを見ると、多数の *Dermatofils* 菌体が確認できた。他にもイーストが少量見られたが、問題ないレベルだったと言っていた。この後、メープルシロップに抗生物質を混ぜ、母と子の両方の馬に投与した。

その後、アスペルギルス感染馬が来院し鼻鏡エコーでの診断が行われたが、予後不良ということが診断された。(鼻腔の奥に感染巣が確認されるほどであった)

午後になって先ほどのデルマトフィルス馬の消毒作業を手伝った。今回2頭の感染馬に使用されたのは2%クロルヘキシジンであった。

2頭を洗い終わり、日向で乾かしに外に出ると、やはり夏の日中病院棟の涼しさにびっくりした(むしろ寒いくらいだった)。この語、入院している馬舎の掃除を行い、ミーティングをしてこの日は終了した。

大動物研修 4 日目

今日は朝から近くの動物園での実習で会った。担当してくれたのは、エキゾチックアニマル専門のシューマックさんという人であった。最初に動物園で病気になった動物の診察および治療法、その施設の説明をしてくれた後、動物園の見学、その都度解説をしてくれた。その後、大学に戻り、普段の実習を受けた。このころにはもう、お昼過ぎだった。今日の実習は、胃潰瘍の馬の内視鏡検査の見学からであった。胃洗浄を行い、胃チューブを鼻から通していた。そのため、鼻から大量の出血がみられ、大丈夫かと心配になるほどだったのだが、アメリカの先生は大丈夫だとおっしゃっていたので、そういうものなのだと理解した。この日は始まりが遅かったのでこれで終了した。

この日の夜、3年生のサラさんとナンシーさんにショッピングに連れて行ってもらった。翌日にフライ先生が実家でパーティーを開いてくれるので、お礼にお好み焼きを作ろうと思い、材料を買いに行った。ナンシーさんが知っていたアジアンショップでは日本でよく見る、キューピーマヨネーズや、なんとおたふくソースまでもが売られていた。果たして外国人におたふくソースが受けるのかどうか、楽しみになった。

大動物研修 5 日目

今日は麻酔科での実習だったのだが、実はこの日手術が一軒もなく、とりあえず大動物等をうろうろする1日であった。この日は結局、馬の削蹄を2件見学しただけとなってしまう。

お昼に学長さんと食事をし、実習の修了書をいただいた。

この日の夜、つまりアメリカ研修の最後の夜、僕たちはフライ先生のお宅にお邪魔した。昨日より準備していた、お好み焼きの材料を持って、フライ先生の家キッチンを拝借して作ってみると、思ったより上手にできた感じがした。

そして気になる皆さんの反応はというと、とても美味しかったと高評価をいただいた(お世辞かもしれないけど)。

ビールやワインをたくさん飲み、フライ先生の奥さんが作ってくれた料理(どれも絶品)をたらふく食べ、息子さんのジョンと卓球をしたり、みんなでお話をしたりして、とても楽しいアメリカ最後の夜がすぎていった。

最終日

飛行機の出発が朝の6時くらいであったので、この日は4時起きで空港に向かうこととなっていた。

自分は、昨晚フライ先生の家から帰ってきたのが深夜0時に近かったので、もう寝ることはあきらめ、大学周りをブラブラしていた。フライ先生と奥さんがノックスビル空港まで送ってくれ、そこでお別れとなった。今更だが、フライ先生は北里で授業をなさって下さった時のとても堅そうな印象と違い（やはり授業だとそう思う。）とってもアメリカ人らしいひょうきんな人でスポーツ好きなため、話もよく会い、親切すぎるくらい親切なとっても素敵な先生だった。そんな先生との別れが、僕はとても名残惜しかった。シカゴでの乗り継ぎを経て、日本についたが、昨晚は一睡もしていなかったの、その飛行機内ではほとんど寝ていた。

まとめ

今回、アメリカでの実習を経験して、実際の臨床現場を、国は違えども間近に見ることができ、今まで自分が知らない知識をたくさん得ることができた。自分が質問をすれば、どんな些細なことでも向こうの人は嫌な顔一つせずに教えてくれるが、何も聞かなければ向こうも忙しいわけで当然何も教えてくれない。とりあえず疑問に思ったことは、気にせず質問していく姿勢が大切で、思ったことが英語にできなくても、必死に何か伝えようとすれば、向こうも待ってくれるし、必死に理解してくれる人たちがばかりであった。

アメリカでの生活面で一番気になったことは、やはり食生活が肉食主体となったことであったが、自分は全く問題なく感じた。

今回アメリカに行ったことは自分のこれからの進路を考える上で大変役立っだろうと強く感じた。

菅原 香織

8月22日

朝9:30に成田空港第2ターミナルに集合。ギリギリに行ったため席はばらばらになってしまった。チェックインしてすぐに出国し、飛行機に乗った。11:40成田出発。滑走路の順番待ちで少し遅れた。10時間以上のフライトで、寝たり映画を見たりしながら過ごした。やっている映画の種類が多かったため退屈せずに済んだ。機内食でおなかいっぱい。シカゴに到着。すぐに国内線のターミナルへ移動。ノックスビル行きの飛行機へ乗り換え。待ち時間は約5時間。フードコートを中心にそれぞれぶらぶらして過ごした。わりと暇だった。成田を出発したのが11:40なのにシカゴに着いたのは時差の関係で9:30。時間戻り。シカゴからちっちゃい飛行機でノックスビルへ。ドリンクにも気付かないほど爆睡。結構揺れていた気がする。ノックスビルに16:50に到着。ブレース先生に会う。これから2週間泊まる学生寮“アンディ・ホルト・アベニュー”へ送ってもらった。部屋はキッチン、リビング、洗面台がなんと2つにベッドルームも2部屋。めっちゃめっちゃ広くてびっくりした。ホテルのスイートルームかってくらい。少し荷物を片づけた後みんなで大通りのほうへ夕飯を食べに行った。が、店を決めようかってとこで大雨が降ってきて結局近くのサブウェイへ。帰ってきて就寝。長い一日終了。

8月22日

午前中に食材を買いにWAL MARTへ。ブレース先生に連れて行ってもらった。食材から服まで何でもそろってる店。どれくらい自炊するかななどをテキトーに考え、各自欲しいものをテキトーにかごに入れていき、でか

いかご3つ分を一気にレジへ。1週間8人が食べる量なんて分かんないからほんとテキトーだった。帰ってきて大量の食材を冷蔵庫へ収納。先生の部屋を料理部屋と決定。お昼は昨日の夜と同じ大通りへ。ここはファーストフード、レストラン、バーなどが並んでいる通り。徒歩圏内なので自分たちでどこかにご飯を食べに行くときはだいたいここで食べた。もうお昼すぎで夜はパーティだから軽く食べようってことでウェンディーズへ。ハンバーガーでかいし飲み物でかいし全然軽くなかった。テネシー大学のグッズショップなどを眺めたりしながら帰った。夜はブレース先生の家でパーティー。なんと餃子があった。うちののために皮から作ってくれたらしい。具は日本のとは違ったけどおいしかった。グリルで焼いた肉とか、さらだとか手作りのケーキとかおいしかった。来年日本に来たいと言っている3年生のサラに会った。

8月23日

実習1日目。朝ご飯は食わず、昨日買ったサンドウィッチ的なものをお弁当に持って寮を出た。8時から始まるからそれより前に集合。ブレース先生が寮からクリニックまで送ってくれて、それぞれの研修場所に案内してくれた。お昼は3階に食べる場所があるって説明も。最初だから道があんま覚えられなくてお昼行くとき迷ったりした。私の今日の研修場所は腫瘍学だった。その日予約されている患者の名前、種類、診断などが一覧になって印刷された紙があり、それを患者の名前、診断をホワイトボードに写し、身体検査や心電図など今日やること、担当の学生とドクターの名前などが書き込まれていた。ここでは基本的に学生が飼い主に会って症状を聞き、犬を預かって診察した後、ドクターがそれをチェックし、犬を返す時にドクターが飼

い主に話をするという流れだった。学生は4年生で、小動物は2週間、大動物は3週間ごとにローテーションが組まれていていろいろな研究室を回るというシステムだと後で聞いた。実習は4時くらいに終わり予定の5時より早かったためブレース先生に言って歩いて帰った。1日立ちっぱなしだったため結構疲れて、ちょっと休憩してからみんなで酒を飲みながらクッキング。ステーキ、サラダ、ピザ、マカロニなど大量のご飯が完成。かなりおなかいっぱいになった。

8月24日

実習2日目。朝時間がなかったのでお弁当にはベーグルにジャムをぬったものとバナナをお弁当として持って行った。今日も昨日と同じ腫瘍学。流れはだいたいわかったので写真を撮っていいか聞いていっぱい撮った。ここでは学生が普通に患者の採血とかをしていて日本とはだいぶ違うなと思った。お昼に3階のカフェテリアに行くと意外と狭くて、そこに日本人ほぼ全員集合していた。みんなとご飯を食べた後、腫瘍学とへ関係ないが、後ろ足が動かない豚の水中でのリハビリを見学した。水中では後ろ足をちゃんと使って歩いていた。今日はミーティングの時間が昨日より遅くて終わったのは5時少し前くらいだった。ミーティングではその日来た患者について学生が説明し、それに対して先生が質問したりするというものだった。放課後、カードにお金をチャージすればプールやジムが使えるという話を聞いてチャージしに行ったが、場所が分からずうろろしたがたらいまわしにされておわり、疲れて夜はレストランに行った。

8月25日

実習3日目。朝作ったホットドックを持っ

てクリニックへ。今日は神経学だった。流れは腫瘍学と同じ感じだったが、腫瘍学より患者数が少なかった。来た犬に対して、腫瘍学で腫瘍の大きさをはかっていたが、ここでは神経学的検査を行ったり X 線画像を見たりしていた。午前中に 3 匹の犬を見た。1 匹診断が難しい犬がいて、さらに X 線を撮ったりして検討していた。午後には椎間板ヘルニアの手術を見た。結構長かった。縫合は学生がしていた。研修が終わった後、やっとお金をチャージする場所がわかったのでチャージしてジムへ。テニスラケットやボールも借りられたのでみんなでテニスもした。帰ってチキンを焼いたら煙が大量発生して火災報知機を鳴らしてしまった。反省。でもご飯はおいしく完成。今日も満腹。

8月26日

実習 4 日目。昨日あんなに食べたのに朝すでおなかが減っていた。今日の朝でブレース先生とはお別れ。出張に行くらしい。これからはフライ先生にお世話になる。今日も昨日と同じように神経学。患者さんがあまりなくて暇だった。午前も午後も昨日と同じヘルニアの手術を見た。助手も学生がやっていた。アメリカの室内はどこもものすごくクーラーがきいていて、手術室内は特に寒かったので午後は外から手術を見た。実習が終わったあとはまたテニスしてジムに行った。アメリカに来て食べ過ぎているので夕飯は食べなかった。

8月27日

実習 5 日目。今日で小動物は終了。今日はエキゾチックアニマルだった。昨日までは犬ばかりだったのに対して、ここにはトリ、フェレット、カメ、オポッサムなどいろいろな種類の動物がいた。トラの処置用の部屋も

あって来ることを期待したけど結局今日は来なかった。患者がいなくて暇な時に図書館を発見した。オウムにバリウムを飲ませて経時的に X 線撮影をして造影検査などをしていた。手術などはなかったため見られなかったが、あまり見る機会のないカメや鳥の解剖の図が壁に張ってあってめずらしかった。夜はローストビーフを作って食べた。ほとんど作ってもらった。おいしかった。

8月28日

たった 2 日の休みの 1 日目。ウェスタンモールに連れて行ってもらった。3 時間の自由時間、お昼も食べずに買い物したけど思ったほど店がなくてちょっと時間あまった。円高だからか売っているもの達がちょっと安く感じた。ここしか買うところがないから一気にお土産購入。その後先週も行った WAL MART へ。また 1 週間分の食材購入。お土産用のおかしなどもここで購入。夜はお酒を飲みバーへ。土曜の夜ってこともあってか人が多く、音楽うるさくて会話もできない。ファッションショーみたいなイベント(?)があった。

8月29日

今日は朝早く出発してラフティングへ。台湾出身で来年サラと一緒に日本に来たいと言っているナンシーに会った。思っていたより長時間ドライブで車酔い。説明を受け、いざ川下り開始。前にこぐとか後ろにこぐとか指示を受けつつ進んでいった。落ちたらあっちに泳げとかこっちに泳げとか。途中流れのゆるいところでボートから降りられるポイントがあった。あつという間に終わった気がしたけど実は 1 時間以上もラフティングしてた。帰りにだいたい遅いお昼でおいしいと評判のハンバーガーショップへ。ドリンクにノン

シュガーのアイスティーをアメリカに来て初めて発見。たいていのファーストフードは甘い飲み物ばかりで、こっちに来てからコーラをいっぱい飲むようになってしまった…。昨日しか買い物に行けなかったとナンシーに言ったらなんと来週サラと一緒にダウンタウンやモールに連れて行ってくれると言ってくれた。予定がまだ分からないためメアドを交換して帰った。帰ってからは爆睡。

8月30日

実習6日目。今日から1週間は大動物の実習。今日は麻酔。愉快的なドクターがいた。ずっと鼻歌歌ってた。麻酔の仕事は手術前に麻酔をかけるところから動物が目覚めるまでの管理だった。朝私が行った時にはすでに子牛が麻酔をかけられて手術台の上で寝ていた。この子牛は臍ヘルニアの手術で、処置はドクターがやって縫合は小動物と同じように学生が行っていた。小動物のときも思ったけど、基本器具係はいないらしい。手術を行う人が自分で台の上から器具をとって手術していて、台の上はわりとぐちゃぐちゃしていた。手術が終わった子牛は寝たまま部屋へ戻され、起きて自分で歩けるようになるまでタオルで支えた。子牛とはいえ体重が重いのでわりと大変だった。次に豚の子宮卵巣摘出手術を見た。入院している動物は馬、牛、豚、アルパカがいた。日本では見ないアルパカがここには豚よりもいっぱいいた。大動物が飼われているところも全て室内でクーラーが聞いていることに驚いた。夜は買ってきたご飯を鍋で炊いた。初めてにしては上出来で、サーモン、エビ、サラダ、ズッキーニなどと一緒に久しぶりに白米を食べた。

8月31日

実習7日目。今日も麻酔。午前中は馬の

臍の切断手術を見た。倒馬室に連れてこられた馬は麻酔薬を打たれて意識を失い、四肢をしぼられ、機械で吊るされて手術台へ。吊るされて宙に浮いている馬は圧巻だった。手術自体はわりとすぐに終わった。午後にはアルパカの手術を見た。気管チューブはどれだけ長いものかと思っていたが全然長くはなかった。腸管が固着しているという説明だったが、開腹してその部分を探すのにとっても時間がかかっていて、違うドクターが出てきた。そのドクターがさらに傷を広げ胃のほうまで調べると何だかわからない白いのが胃壁と腸壁の間にくっついているものが発見された。それはガーゼで簡単にはがれるものだったが何なのかわからなかった。夜は食材使いきる目的でスペアリブにハンバーグと肉だらけの食卓に。冷凍ワッフルにアイスのデザート付。食後外をぶらぶら散歩した。

9月1日

実習8日目。今日は馬の往診・・・だったはずだが車に席がないと言われ置いていかれて他の所を見学。午後には3年生の直腸検査の実習に参加。牛を固定する装置に固定された牛に直腸検査。隣の部屋には牛の子宮が並べてあった。胎児も。実習は大学内ではなく近くの牧場で行われた。大学には患畜しかいないようだった。夜は再びバーへ。土曜日と違って人は少なかった。前行ったところとは違うバーへ行った。最初は音楽が静かだったがなぜか途中からうるさくなって外へ出て飲んだ。こっちはバーは入場するときに必ず年齢確認が行われていて酒を買う時には全員の年齢が確認できないと売ってくれない厳しい店もあった。眠くなって帰ってすぐ爆睡。

9月2日

実習9日目。といっても今日はみんなで

動物園に行った。動物園内にある病院を見せてもらい、さらに園内の動物たちもを見せてもらった。普通に観光。ラクダ、ゾウ、シマウマ、キリン、ミーアキャット、チンパンジー、ペンギン、レッサーパンダ、サイ、アルパカなど。ギフトショップによってもらってお土産も買った。帰ってきてお昼にはユニバーシティセンターに言ってお昼を食べた。ちょいちょいみかけるジャパニーズフードの店が気になっていたのそこで買ってみた。うどんみたいな焼きそばとかピラフみたいなチャーハンとか唐揚げとか肉と野菜の炒めものみたいなやつとか・・・日本食ではないけどおいしかった。これはアメリカンジャパニーズフードだ。その後はナンシー&サラにダウントウンなどへ連れて行ってもらった。大学内とはまた違う、アメリカの街並みを見ることができた。夕飯はフーターズ。骨なしチキンとか。揚げものだらけだった。

9月3日

実習 10 日目。今日が最終日。今日は外科。だったが手術は無かった。朝、学生たちが患畜について説明するミーティングのようなものがあり、その後は各動物の処置へ。子ヤギの除角を見た。麻酔をかけているとはいえものすごく大きな声で悲鳴を上げていてかわいそうになった。それから、前に小動物のリハビリセンターで見た豚の、前とは違うお風呂みたいな水中でのリハビリを見た。終わった後に、それまで自力で歩けなかった豚がよろけながらもしっかり後ろ足を使って歩いた。これには感動した。アメリカ最後の夜はフライ先生の家で過ごした。何か日本の味をということでお好み焼きを作った。大絶賛だった。明日の朝はものすごく早いのに長居してしまい、帰ったのは 11 時過ぎ。それから荷物をかばんに詰め、1 時くらいに就寝。

9月4日～5日

朝 4:15 アンディ・ホルト・アベニュー出発。空港に着き、チェックインした後フライ先生とお別れ。行きと同じく小さい飛行機でシカゴへ。さっさと JAL の搭乗口のあるターミナルへ向うも、なんと小さいフードコートとちょっとした店以外のレストランや店などは建設中。ほとんど何もないフードコートで約 4 時間の暇つぶし。うだうだ過ごしやっとな飛行機へ搭乗。出発は遅れるも予定通りに日本へ無事到着。最初 2 時間くらい寝ただけであとはほとんど映画を見て過ごした。荷物の受け取りなど全てが終わり、解散。海外研修終了。

後藤 俊介

8月 21 日

今日、ドキドキの出発日。前の日からうちに泊まっていた川田と一緒に、実家から無事遅れることなく出発。集合時間ギリギリに成田空港到着。チェックインが遅くなって、みんなとはバラバラの席に ...、でも先にチェックインしていた柏本先生とたまたま隣の席に、正直一安心。飛行機の中は映画観て、寝て、機内食食べて、隣の中国人留学生と英語でおしゃべり(ちょう緊張)したりしてシカゴ到着。フライトは約 12 時間。オヘア国際空港でご飯食べて、ショッピングしていざテネシーへ。90 分くらいで寝ている間にすぐテネシー・ノックスビルに到着。みんなの後ろをついていくと気づけばブレイス先生とも合流。白髪の元気なおじさんです。その後は宿舎まで車で送ってもらい、夕飯を食べにみんなで外出。夕立ちに降られてびしょびしょに ...。サブウェイでの注文は案外ハードル

高いよ(汗)。夜はちょい買い出しに ... ドキドキしながらもいい経験でした。

とにかくみんな無事に着けてよかった。明日からどうなることやら ...

8月22日

今日は日曜日。オフです。10時半からブレイス先生の車で学校内をグルッと一周。めっちゃ広かった。アメフトのスタジアム、6個の図書館、たくさんの学生寮、車で回っても30分以上。まだみてないところにはサッカー場が2面あるらしい ... どんだけ広いんだよってかんじ。学校内見たら次はショッピング!! でかいスーパーで大量の食材購入。牛肉は安いし、いろいろでかいし、アメリカってかんじ。いったん寮に戻って、まわりを散歩。昼ご飯食べて、テネシー大学Tシャツ買っちゃって結構満足。スタバも寄ったけど、日本よりちょい甘い気がした ...。

夜は6時半からブレイス先生の家でパーティー!! ブレイス先生夫妻と中国人で日本にもいたことのある周先生夫妻、日本に興味のある学生のサラがいました。周先生のギョーザやブレイス先生のステーキはおいしかった!! でも最後に出てきたデザートのカッキーが一番好きだった。アイスものせてマジ美味!! パーティーしてくれたブレイス先生にはマジで感謝です。

明日から本格的に研修スタート ... めっちゃ不安。

8月23日

今日から研修スタート。今日明日は午前臨床放射、午後病理の研究室にお世話になることに!!

不安になりながらもまずは放射。過去の症例のレントゲン写真が渡されて、読影し、発表し、それについて教授の意見を聞く、いわ

ゆるケースリーディングが日課のよう。一緒に読影し、いざ発表・議論へ。自分は聞いているだけだけど、専門用語飛び交う英会話についていくのだけで精一杯 ...。約2時間のケースリーディングでとっても疲れた。その後はX線撮影や、エコー検査を見学して、午前の臨床放射学研究室は終わり。

昼ご飯は持って行ったパンと売店で買ったサラダ。売店のおばちゃんテンション高くて、おまけもいろいろしてくれました!! あざっす。皆別行動なんで一人で食べてると、たまたま川田の姿が!! かなり安心したね〜、あれは。

午後は臨床病理学研究室の死体解剖部へ。いろいろな動物の死体の解剖、採材を見学させてくれるとのこと。今日はニワトリ、犬(フレンチブルドック)、猫、鳥(ハトっぽい)の4種類。まずはニワトリに割り振られることに。着替えて見学していると、解剖所属だと言った途端、採材を任せられることに!! 緊張しながらもある程度やり慣れてるので、むしろやらせてもらえて楽しくなってきた。会話も専門英語の授業でやったような単語ばかりでやりやすい。ちなみにこのニワトリは肝リピドーシス疑らしい。ニワトリが終わったら次は犬の見学。セルトリ細胞腫で精巢が腎臓の倍近くに肥大してるのを見ることが出来ました。自分の分かる分野だと結構簡単についていけたからよかった。初日としては頑張れた方かな?

夕飯はみんなで作ってステーキ三昧。基本見てるだけですいません ...。今度は手伝おうかと ... 思います!!

8月24日

研修2日目。今日も昨日と同じで、午前臨床放射、午後は病理解剖の研究室にお世話になりました。

まずは放射、昨日同様ケースリーディングから始まりました。今回は胸部臓器がメイン。案の定英語の講義についていくのがやっとな...でも2日目で慣れてたということもあり、まだなんとかなったかな。学生とも話しやすいので、終わった後に分からなかったことは学生に聞きました。イアンさんあざ〜っす。ケースリーディングの後は、ガチョウや馬、犬のレントゲン撮影の見学しながらいろいろと雑談にも参加でき、昨日よりも気楽に楽しめました。

昼ご飯を一人で食べて、午後は病理解剖に、昨日同様ミーティングのあとすぐに病理解剖が始まるのかとおもいきや、病理の肉眼所見の授業を受けることに...、これが難しい。辞書にもない、聞いたことのない専門英単語のオンパレード。放射の時みたいに自分の研修に付き添ってくれた学生にあとで質問しまくりました。授業が終われば病理解剖のスタート。今回は羊2頭と亀とマウス。亀の解剖は初めての体験。結構ざっくりやりました。次に羊の解剖を見ていたら、馬が搬入されてきて馬の病理解剖もスタート。ぐるぐる見たいところを見てたら、羊の脳出しと呼吸器、眼球の摘出を任されました。病理のひとたちは結構なんでもやらせてくれたのでやって楽しかった!! 学生も軽いノリで話しかけてくれるし、教授はフレンドリーで、かなり当たりの研究室だったっぽい。

帰ってから夕飯はレストランでステーキ食べた。こっち来てから肉ばかり。ちょっと体重が気になるかな...

明日からはエキゾチックの研究室。珍しいもんがみれるといいなあっと。

8月25日

研修3日目。今日はエキゾチックアニマルの研修。アメリカで一番楽しみにしてた研

修です。日本ではなかなか見られないものを見たいなあと思って期待してました。

いざ研修が始まると、まずは研究室の施設の案内、入院患者の世話をしました。入院患者は鷹、ガチョウ、インコです。鷹なんて日本ではあまり見れないからいい経験。そして早速運ばれてきたのは犬に噛まれて甲羅が割れたカメ。治療を観察させてもらったけど、エキゾチックでは全部学生主導で治療しててすごいなと思いました。さすがってかんじ。そのあと朝のミーティングに参加してたら、シューマック先生にフィールドワークに行かないか?と言われ、行くことに!!

BigCat(直訳すると大きい猫)のフィールドワークと言われて、なんの事か分からないまま、連れてかれたのはトラやライオンなどの保護施設、TigerHaven。さすがに処置はさせてもらえないものの、空気銃での麻酔やトラの採血は初めての体験でテンションもかなり上がりました。処置のあとはシューマック先生に施設の説明や飼われてる動物との思ひ出話を聞かせてもらいました。シューマック先生は英語が早口で聞き取るのに一苦労。ランチをとって午後はフィールドワークの続きでノックスビル動物園へ。ペンギンと象の診療を見学しました。どちらも継続診療なので、簡単な問診で終了。でも動物園の裏側や珍しい動物や赤ん坊をたくさん見れたのは楽しかった。一通り終わると、またシューマック先生の動物トークを聞きながら園内を一周しました。この先生、動物との接し方が独特でちょいムツゴロウさんっぽい!!

研究室に戻ってからはまた入院患者の世話や今後の治療方針のミーティングに参加して、エキゾチックの初日は終了。いろいろな体験出来て、相当当たりの日だった!!

寮に帰ってからは大学のプールでちょい運動も出来ました。大学内にプールや事務、い

ろんなスポーツのコートがあるんでちょいちょい体を動かしたい、食べ物のカロリー高そうだし…。夕飯はまたみんなで作って食べました。ちなみにメニューは鶏肉のオープン焼き、かなりおいしかった。

明日もまたエキゾチックアニマルの研修。いろいろ見れたらいいかな!!

8月26日

研修4日目。昨日同様、エキゾチックアニマルでの研修です。まずは入院患者の世話。カメと野生のワシ、ガチョウを世話するのを見学させてもらい、朝のミーティングに参加。午前中に診療に来る予定の動物の確認や、入院患者の状態の報告を行います。今日はフィールドワークではなく、診療に付き添うことに。テネシー大学のエキゾチックは鳥類全般も診療しているので患者は鳥が半分を占めています。午前中に診察、必要なものは午後に詳しい検査という流れで進んでいきます。常に学生がそばにいて、先生に質問されながら一緒に治療方針を考えていくようなシステムで、先生に対する学生の数も少なく日本よりも学生主導で、学生にとっては臨床に進むうえで必要なことを学びやすいと感じました。今日来た患者は、ホルモン注射のフェレット・排尿障害のウサギ・足にでき物のあるオウム・無気力で拒食症のオウム・翼にmassのあるオウム・歯の伸びすぎで歯茎に膿瘍の出来たチンチラ・呼吸器症状のウサギ・猫に噛まれた野生のオポッサムです。午前はこれらの診療を行いました。午後は入院しているガチョウのDexaScan、とチンチラの歯のスケーリング、ウサギの喉頭部検査、拒食症のオウムの精密検査を行うことに。ガチョウのDexaScanでは明らかな異常は見られず、明日再度足の検査をすることに。チンチラの歯のスケーリングとマイクロ内視鏡を用いたウ

サギの喉頭部検査は処置している教授のすぐ横で観察させてもらえました。ウサギは喉頭部に炎症を発見できたため今後はその処置を、チンチラもスケーリングは問題なく終了し、経過観察をすることに。最後にオウムの精密検査ではX線撮影で胃の異常な拡大が見られ、超音波でも胃にmassが確認されたために、胃の腫瘍を疑いさらなる検査を進めていくことになりました。朝の8時から夜7時までずっと立ちっぱなしで、疲れもたまったので、今日はさっさと寝るかんじで。

夕飯は大学内のコンビニでサラダとお寿司。チーズとマグロの巻き寿司はアメリカならではの寿司の味でした。

明日は解剖の研究室でプラスチックネーションの観察です。

8月27日

今日は朝、火災報知器の警報が鳴ったらしい…。まったく目が覚めなかった。爆睡。本当に火事ならヤバかったかも…。

今日は解剖研究室で骨格標本やプラスチックネーションの標本を見させてもらいました。プラスチックネーションとは細胞の水分をプラスチックに置き換えた標本で、ホルマリン固定の標本と比べて、とてもリアルな状態での保存が可能になってます。

骨格標本はかなりの動物種があり、象やキリンの一部、ウシ、馬、猫、犬の全身骨格はもちろん、ヒョウ・チンパンジー、ダチョウの骨格標本なんて珍しいものも飾られています。象の骨格はさすがにデカイので、壁に穴開けて取り付けるのもアメリカっぽい発想かな。

初めて見るプラスチックネーションは驚きの連続。まずは骨格筋の標本、筋肉がそのままの状態で見られるためめっちゃわかりやすい。アメリカではこれを見ながら解剖を

やるらしいけど、北里にも解剖実習の時にこれがあればもっと分かりやすいだろうと思った。あとは動物を横断標本や縦断標本、背中から胸腹部を開けた標本、スライスさせた標本があり、普段見ることが出来ない視点から臓器の構造・位置を見れたのも新鮮でした。あとは気管と心臓に樹脂を流した気管と血管の標本も頭では理解してても実際に見てみると、なるほどなって、なんか更に理解出来た気になりました。他にも消化器や泌尿器の各臓器の標本を観察しました。胎児付きの子宮なんてレアなのも観察。珍しいプラスチックーションとしては白熊やトラの手や足、豚の頭、鳥の皮膚、イグアナなんてのも、本当に様々な標本がありました。特に魚のはただの開きにしか見えなかった。多分なんか使い道があるのかな…。今日の研修は標本の観察で終了。昼ご飯は近くのジャパニーズデリバリーへ。日本食じゃないけど久しぶりのご飯はおいしかった。

午後は大学内をぶらぶらと散歩。とにかく広いし、大学グッズショップやスタバ、図書館、銀行などをひたすら回りました。

夕飯は、なんとローストビーフとステーキ。これ全部手作り。マジうまかった。明日は久しぶりの休日。フライ先生にショッピングモールに連れてってもらえる。めっちゃ楽しみです。

8月28日

今日はフライ先生にショッピングモールに連れてってもらいました。下ジャくらいの上まで大きいところじゃなかったけど、服にCD、おみやげ、いろいろ買いました。やっぱり休みっていいね。そのあと、ウォルマートで食材も購入。ここでもおみやげのお菓子いっぱい買いました。

夜まで一休みして、アメリカの学生の家で

の飲み会に3人で行きました。ウォッカにビール、音楽ガンガンでのホームパーティーはこれぞアメリカスタイルってかんじ。でもウォッカはヤバイ…。完全にダウンしました。やっぱりお酒はほどほどに。いろいろご迷惑かけました。

明日はフライ先生にラフティング連れてってもらえるらしい。初ラフティング楽しみます。

8月29日

フライ先生と息子のジョン、病理の学生ナンシー、大動物の先生メラニーと一緒にラフティング!!

初のラフティングにドキドキするも、昨日の疲れで行きの車の中は爆睡。2時間ちよいくらいで目的地に到着。受付を済ませて、お菓子を食べながら時間まで待つことに。初ラフティングとにかく楽しみ!! 時間になるとまずはビデオを見ながら講習を受けます。ライフジャケットを着てオールを持って準備完了、そこからバスで約1時間移動してやっとスタート地点に到着。いよいよラフティングの始まりです!! 6人でひとつのボートに乗り、いざ出発。景色はいいし、楽しいし、ガイドの兄ちゃんはノリいいし、とにかく最高!!!!。流れの速いところか、ちよとした高低差のあるところかやっぱいいね!! 途中川の流れのゆるやかなところではみんなで飛び込んで泳いだりもしました。1時間くらいだったけど、ラフティングめっちゃ良かった。機会があったらまたやってみたいな。

帰り道で遅い昼ご飯食べたけど、こっこのハンバーガーはやっぱり大きい。セット食べたら普通にお腹いっぱい。帰りの車も寝ちゃったけど、起きたら後ろの方でフライ先生の息子のジョンにへんな日本語教えてた。フライ先生はジョンをインターナショナルな

仕事に就かせたいらしくて、喜んでたけど教えた言葉は通訳できないです。すいません。

帰ってきてからはみんな疲れて寝ちゃいました。明日からは大動物の実習です。

8月30日

研修6日目。今日から大動物実習のスタート。まずは FARM ANIMAL FIELD SERVICE で2日間の実習です。テネシー大学では決まった研究室に入るんじゃなくてローテーションで変わっていくシステムで、今日はたまたまアメリカの学生のローテーション移動日と重なったため、まずは大動物全体のオリエンテーションに参加。そのあとそれぞれの研究室に分かれて、待つこと約1時間、FARM ANIMAL FIELD SERVICE のオリエンテーションにも参加しました。ここは農場の動物の往診とかがメインの研究室です。ただ今日は往診の依頼もなく、午前中は散歩することに。散歩しながらまわりに生える植物の毒性学を説明されました。ツタやドングリ、ヒイラギにジャスミン、ダラスグラスなどこれらの植物を動物が食べたらどうなるか1時間くらい教えてもらいました。昼ご飯を食べて、午後は農場へ。診察ではなく3年生の実習の準備らしい。ちなみにアメリカは獣医大学は4年制で、一般の大学を出たあとに入ります。だから研究室にいるのは4年生。3年生の実習でウシの直腸検査をするためにウシに鎮静剤を尾静脈から注射します。この注射はやらせてもらえました。3年生が来るまで、ウマの膣のバイオプシーを見学。実習が始まってからは直腸検査も一緒にやりました。やったことあるとはいえ、さすがに英語で3年生に教えろは無理あるよね。ってわけで完全に3年生に混じってました。実習終了後は農場を散歩しながらまた植物について学びました。だいたい復習で

新しく知ったのはシソとアカザくらい。アメリカは放牧が基本なので、大動物では植物の知識が日本以上に大事になってくるみたい。農場から帰ってちょっと早めに今日の研修は終了。

夕飯はみんなで作ったサーモンのソテーと白いご飯など。日本料理はいいね。帰ったらおいしいもん食べたいと思った今日このごろでした。

8月31日

研修7日目。今日も FARM ANIMAL FIELD SERVICE での研修。でも残念ながら患者は来ないらしい…。ということで、まずは FARM ANIMAL の研究室にお邪魔して、肢間フレグモーネと蹄底潰瘍を起こしたウシの削蹄処置を観察。使う道具とかは日本と変わりはなく処置の仕方もほとんど同じ。次は FARM ANIMAL FIELD SERVICE に戻り、1年生の大動物実習の手伝い。身体検査の実習で視診、触診、聴診、打診を講義のあと一通りやってみました。内容はこれも日本とほぼ同じだったから英語の授業も分かりやすかった。次はウシの倒し方。ロープを体につけて引っ張るのは変わらないけど、結び方が違うかんじで、これが分かりにくい。近くにいたかわいい学生捕まえて、教えてもらっちゃいました。昼ご飯を食べて、午後は FARM ANIMAL の外科に行くことに。アルパカの手術で、腸が詰まってるらしく原因を探りながらの手術です。アルパカの手術なんて日本ではかなり珍しいけど、アメリカでは意外とあるみたい。農場でもちょいちょい見かけたし。腹部を切開し、溜まってる腸の内容物を取り出して腸の

まわりを探って原因を探します。すると腸壁になにやら癒着した組織が!! 剥がすと下の腸は正常で他の異常も見られないので、手

術はこれで終了。癒着してた組織はあとでいろいろ調べてみるみたい。今日はこれで研修終了。ちょっと早めだったんで、また大学内をブラブラしました。広いし、いろいろあるから全然飽きない!!

夕飯はポークリブソテーをみんなで作りました。そのあとまたちょっと食後に散歩しました。明日からはウマの外科の研修。

9月1日

研修 8 日目。今日から馬の外科での研修です。8 時に病院には行ったものの、スタートは 9 時から。売店で朝ごはんを食べました。この売店、注文を受けてから作ってくれて案外おいしいです。昼ご飯も持ち込んだりして買ったりしてここで食べてます。最初の患者は跛行を示していた馬。継続診療の患者です。歩行検査を実施すると経過は良好、順調に回復して特に目立つ跛行は無しです。次は前肢の腱を損傷した馬の診療。腱に対する処置は事前に施していたものの、傷が膿んでいたため傷口の洗浄を行い、キャストイングしました。ここまでは日本とあまり変わらないかんじの診療でした。次に跛行を示す馬が運ばれ、歩行検査を実施。右前足の異常を疑うと 3cm 四方の小さな機械を頭と腰の背部および右前足につけました。これは Lamness Locator と呼ばれる機械で、馬が歩く時にどの足にどのくらいの負荷がかかるかを調べる機械で、歩行中の負荷の状況をリアルタイムで iPad に送信、分析してくれるもので、つい最近導入された最新の機械みたい。最先端の技術らしく、獣医にすぐに技術が取り入れられるあたりはさすがアメリカ。右前足につま先に神経ブロックを施し、負荷の状況を確認、改善がなければ注射部位を上になんか少しずつらし負荷の状況を再検査。これを繰り返し異常部位をかなり狭い範囲で絞ってました。

昼ご飯を食べ、午後は患者が来なくなったので、まずは他の科の入院患者を見てまわること、妊娠中のアルパカや早産のアルパカとその胎児、MRSA に感染して皮膚が剥がれているブタ、サルモネラ感染のウシなど観察。近くにいた学生や先生がいろいろと教えてくれました。その後は外科に戻り、不定期に起こる慢性跛行の馬を診察。原因は今のところ不明ですか、蹄と骨の接合に異常があるみたい。最後に今日一日で扱った患者の症例検討に参加。それぞれ担当の学生が症例や処置、今後の方針を説明し、教授とディスカッション。とても実践的な内容で学生のレベルも高いと感じました。

夜は 18 時半から Human Animal Bond In Tennessee(HABIT) の説明会に参加。犬使ったをアニマルセラピーなどを行っている組織で、仕事の内容やボランティアの募集の説明を受けました。アメリカはアニマルセラピーのような医療関連分野への動物の関わりが、格段に日本よりも進んでいることを改めて実感しました。

夜は説明会のあとみんなでバーに行きました。カウンターにお酒を頼みに行って、席で飲むスタイル。アルコールがかなり濃いけど、アメリカを満喫してるかんじがして楽しかった。

9月2日

今日の午前中は全員、エキゾチックのシューマック先生にノックスビル動物園に連れていってもらいました。まず、動物園内の診療施設を見学しました。レントゲン装置など、軽い診断や治療を行える程度のもので、そこでの処置が足りないものは大学に輸送して治療するとのことでした。次に園内を案内してもらいました。象やキリン、チンパンジーにトラなど、シューマック先生の解説付きで

見て回りました。中には先週のエキゾチックでまわった時と同じ説明も ...、それはさておき、普通に楽しく動物園を満喫しました。午後は昨日同様、馬の外科での研修。まずは眼科のオペを見学しました。眼にできた癌を切除し、瞬膜で覆う手術を見させてもらいました。瞬膜フラップって内科の授業で習ったやつです。手術の途中からの参加だったけど、アニテクの人が横で丁寧に教えてくれて、術者のすぐ横で見させてもらうことができました。実はこの手術、外科の担当じゃなくて、眼科の担当だったんだけど、快く見学をOKしてもらえました。アメリカではとりあえず言うてみるのが大事!!この2週間で痛感しました。次は外科の手術で骨折により出来た骨片の除去です。他の馬に蹴られて、踵の骨が欠けた症例です。馬の外科の教授はちょい怖い顔だけど、話してみるとかなりいい人で、手術の時も気を使ってくれました。手術は順調に進んでいたのですが、最後の骨片が摘出できず、X線装置を使用しての透視下での手術に移行。透視中は外に出なきゃいけないのですが、手術は無事終了。今日はこれで終わりで寮に帰りました。

夜は来年、日本に来るかもしれないサラとナンシーにノックスビルのダウンタウンに連れて行ってもらいました。ショッピングして、アイス食べてめっちゃ楽しんだあと、土曜日とは別のショッピングモールへ、本とかペット用品などなどまたいろいろ買っちゃいました。サラとナンシーには本当によくしてもらいました。どうもありがとう。

明日は最終日。馬の内科の予定です。

9月3日

今日がついに最終日。馬の内科です。何かあるかと思っていると ...、今日は患者は来ないらしい。最近の不況のせいもあってテネ

シーでも馬の診療数が減っているようです。アメリカでは馬はペットの感覚がけっこう強いことも影響してるようで、これもお国柄ですね。というわけで、いろいろ大動物の診療センター内を見て回りました。ウシの削蹄、妊娠中のアルパカの世話、早産で衰弱してるアルパカの赤ちゃん、昨日の外科手術の馬などテネシーの学生に付き纏って観察。みんな優しく教えてくれました。お昼はフライ先生に連れられ、学部長との会食です。サンドイッチを食べていると、なんと実習修了書の表彰が!!。ちゃんとサインも入ってるやつで、感激です。めっちゃ嬉しかった。

昼食後も、患者は来る気配なく、またブラブラと一回り。やっと来た患者は馬の蹄鉄の交換。蹄鉄に不具合が生じて、歩き方に少し異常が見られました。蹄鉄師の人と獣医の先生が話し合い蹄鉄の種類や付ける位置などを決めてました。今日はこれで終了。まあこんな日もあるよねって感じです。

最終日ということで、夜はフライ先生がホームパーティーを開いてくれました。フライ先生一家とサラとナンシーでのパーティーです。フライ先生の奥さんの手料理は絶品でした。息子のジョンとはバスケやゲームしたりして遊んだりしました。楽しい時間はあっという間に過ぎ、帰る時間に。明日は朝5時に出発 ...、起きれるかが不安です。

9月4日

なんとか朝4時すぎに起床。5時にフライ先生に迎えに来てもらい出発。フライ先生にはこの2週間でいろいろ助けてもらいました。今日も朝早くにありがとうございます。無事出発し、ノックスビル空港に到着。ここでフライ先生ともお別れです。お見送りありがとうございました。飛行機でシカゴ空港へ、乗り継ぎです。日本行きの飛行機の搭乗口前

のロビーはアジア系の人ばかり。一足早く日本にいる気分に。ついに成田へ出発です。

やっと日本に到着。この2週間はとてもいい経験になりました。アメリカでの生活、大学での実習共に今後役に立つ経験が出来て非常に有意義に感じる事が出来ました。また機会があればこのような経験をしたいと思えます。

川田 大史

8月21日(土) 出国

当日は成田に9時半集合！...なので前日は後藤の実家に宿泊。成田空港に着くと皆集合していて問題なし。まあ、出発の時点で荷物が重量オーバーなやつもいたけど... 一体帰りはどうするんだろう？ 出国手続きを済ませて、いざ機内へ！みんな近くかと思いきや全員バラバラ。フライト時間は半日。映画を4本見て、ひたすら機内食食べて、気づいたら到着(笑) シカゴに到着すると日差しが眩しい！そして外人たくさん！改めてアメリカに来たんだと実感。シカゴを経由して無事ノックスビルに到着。先生について空港内を歩いていると、いきなりおじさんに「どっから来たの？」と質問される。先生はそれに気づかず先に行っちゃうし、とりあえず「日本です」と答えると、何だか良好な反応？を示す。急にプリント見せられて、それを覗き込むと、何とそこには俺らの名前が書いてある！？そう！このおじさんが Dr. ブレースでした(笑) 予想外すぎる出会いに全員笑うしかなかったです。その後、アパートに到着して夕飯を食べに外出。すると当然の土砂降り！しかも半端ない！軽く洗礼？を受けたけれど、無事に

到着した初日。

8月22日(日)

朝は10時に集合して Dr. ブレースに連れられて、いざモールに買い物へ... のはずが男子は10時に起床。さらに集合時間にカッシーが来ない！何と先生も寝坊で遅刻(笑) モールへ着くとやっぱり米国はでかい！広い！牛乳やジュースは約4? サイズで販売。1週間分の食料やお菓子などを大量に買い込んで終了。夕方からは Dr. ブレース宅で Party。奥さんと学生のサラ、シュウ先生とその奥さんと共に楽しい時間を過ごしました(若干緊張気味でしたけど...) お土産に渡した消せるボールペンにとても喜んでくれた。ってか、やっぱり疲れるわ。脳みそフル回転！でも本番は明日から... 頑張ろう!!!

8月23日(月) エキゾチック

今日は病院実習の初日。やっぱり緊張して最初にあんまり話せなかった。でも学生の Brian、Dave はどっちもとてもいい人。Labo 内を軽く案内してもらおうと、すでに入院患者としてトカゲ、亀、オウム、そして驚！(... さすがアメリカ... 日本じゃまず見ない) がケージの中にいた。8時に Labo に来たけれど9時まではカルテ整理らしいのでそれまで病院内を散策。みんなの所を覗いたり、他の施設をブラブラしたり... 9時前になったので帰ろうとすると... ここがどこかわからない。やばい！迷った！(・・;)、何とか見覚えのある場所にたどり着いて生還。北里よりも遥かに大きい病院でこれからは楽しみになった。9時過ぎて Dr. たちも集まって、まずはミーティング。驚いたのは学生が自分で担当している患者について現在の状態、治療方針などを Dr. に説明。それについて Dr

が補正や助言をする、ということ。方針が間違っていなければ、まさに自分が責任を持って1人で考えて判断して行動するという日本ではできないことをやっけていて感動。午前中は入院患者への治療をした後、新患もないので病院内をブラブラ。今度は迷わなかった。

午後はまず兎の臼歯を削って水平にする手術をした後、2羽いた鷺の内1羽が退院。それを見送ると新患が到着。やってきた動物は... ガチョウ (-_-) さすがアメリカ。足が悪いらしく、Labo内を歩かせて歩様検査。左肢が悪く、明日CT検査をするらしい。

夜はあまりにも疲れて、夕飯前に爆睡 (-_-) zzz 起きたら12時越えてました... (泣)

8月24日(火) エキゾチック

エキゾチック2日目。昨日と同じく9時からミーティング。入院患者の治療をやっけて、まずは鷺のX線検査。こんなの初めて見た(^^)。写真を見てもどこが異常かよく分からない。Brianに聞くと、胸骨の辺りがズレているらしい。ジェスチャーも交えてわかりやすく教えてもらうけど、こんなの初見じゃわかんないよ〜！続いて昨日のガチョウのX線検査。これも初めて見た(^^)。

午後は再び兎の歯削り手術。初日に入院していた亀は残念ながら死んだらしく、標本にするためにその解剖。ぱっかり割れた甲羅を剥ぎ取り、内臓を取り出す。甲羅を電動ノコで削るとすごい匂う。

夕方は勝屋と一緒に大学内を散策。学生に混じって歩いているだけで、何だかテンションが上がってくる。まずはUniversity Centerへ。フードコートやUTグッズを売ってる店があったりしてお土産にいいなと思う。その後目的だったアメフトのスタジアムへGo！めちゃくちゃデカイ！観客席の一番上まで行くとめちゃくちゃ高い！いったい何

人入るんだ？ここは。近くにあったバスケの体育館に行くと... 残念ながらコートが無い！バレーとバドミントンのコートが出てました。まあ、シーズンじゃないからね(泣)

8月25日(水) 内科

今日からLaboを変わって百合香と一緒に内科へ。恒太の話じゃ、みんないい人であっちから教えてくれる。そして、8時から忙しく仕事がある！自己紹介すると、あれ？今日の作業は9時からでした。時間になって、まずはカンファレンス。ここでもエキゾチックと同じく学生が担当している患者についてDrに説明。やっぱり日本とは違う！学生のJessieについて診察室へ。ここでも驚くことが。何とアメリカでは学生1人で飼い主に対応して主訴や状況を聞いてから、先生に報告して診断・治療を仰ぐみたい。さすがに診断結果や治療方針を飼い主に報告する時はDrが同行するけれど、飼い主側も学生が問診することに対して普通みたいで、日本もこんな風にやれたら楽しいだろうなと実感。

午後は2時半から内視鏡によるバイオペシー手術を見た後、学生のDayna担当の犬が明日バイオペシー検査ということで、その事前準備。肛門から内視鏡を入れるので下剤らしき液体をカテーテル使って注入して腸内を綺麗にしておくらしい。その間Lauraも加わって雑談。Daynaはニューヨークに5年間遠距離恋愛中の彼氏がいて、カリブ海のグレナダに留学したらしい。夕方は皆で運動をしにアパートの目の前にあるTrecへ。プール最高！高跳び込み難しい！思い切り背中を打ちながら着水。痛かった(泣)そして、夕飯を作っている時に事件が... 詳しくは他の人が書いてるでしょう(笑)でも、チキンは美味かった！

8月26日（木） 内科

内科 2 日目。8 時に Labo に行くといきなり連れ出されてちょっとした小部屋へ。そこで学生がケースリーディングを含めた発表会をしてました。何と 3 週間に 1 度の発表会に当たってしまった。そのまま 2 時間発表を聞いて、その後は昨日と同じく学生について病院に出て診察の見学。午前中の最後は昨日と同じく Dayna 担当の犬の内視鏡検査の準備のために薬剤注入の手伝い。経鼻カテーテルを使つての注入を実際にやらせてもらった。昼食を食べに病院のカフェに行くと、見た顔が 4 人！後藤以外みんないました。昼食後に図書館に行って涼んでると、いつの間にか爆睡！2 時過ぎてました（笑）Labo に戻って内視鏡検査の見学。丁度始まったばかりだったのでぎりぎりセーフ？3 時半に終わって、Labo 全体がまったりモード。ジュースを飲みカフェに行くと見た顔が！再び後藤以外全員集合（笑）まあ、こんな日もあるよと皆で休憩…。内科は午前中は忙しいけど、午後は急患や手術がないと時間を持て余しちゃうな…。

8月27日（金） 解剖

小動物最終日は解剖でのプラスチックネーションの見学。プラスチックネーションとは細胞をプラスチック化することで標本を作る技術で、半永久的に保存できて、乾燥しているので実際に手に取って観察することができる。この技術は日本ではあまり発達してないので、ここでしか見られない！実際に見せてもらう前に、まずは骨の見学。これもすごかった！何ていうか全体的に綺麗。全身骨格も欠けている部分がない！象の頭や肢の標本、豹・チンパンジー・ダチョウの全身骨格とか初めて見た！！そして目的のプラスチックネーション！…これこそすごかった！すごく見やすい。綺麗。何より見ていて楽しい！肺や心臓とか

は動脈で色分けしてあってすごく解りやすい！こんなのだったら解剖の勉強がもっと楽しくなるだろうな。

午後は他の Labo の見学もできたけど、折角なのでこの馬鹿デカイ大学構内の散策へ。こういうのも有意義な時間の過ごし方だった。Weekend の夜はアパートで Party。恒太作のローストビーフ美味しかった！あつという間の 1 週間で確かに疲れてはいるけれど、もう 1 週間が楽しみ。

8月28日（土） ショッピングモール

アメリカに来てもう 1 週間！平日は朝から夕方まで毎日大変だけど、時間が経つのは早いと改めて実感…。今日は Dr. フライに買い物をしにショッピングモールへ連れて行ってもらいました。巨大なショッピングセンターで若干下田イオンを思わせるけど、それとは比べ物にならない大きさ！というか、でか過ぎ！！3 時間あつたけど散策してお土産とかを買い物してたらあつという間でした…面白そうなものを手当たり次第に買ったけど一体いくら使ったんだろう？（笑）

散策の途中に出店で商売してる兄ちゃんが絡んできて、何か言ってる。いきなり肩と頭のマッサージをし始める。どうやらその道具を体験させて買わせたいらしい。確かに頭の道具は気持ちよかったな（笑）しかも日本語が上手い！日本人とわかるといらないと断っても「嘘言わない！」と言ってくる（笑）日本に行っていたことがあるらしく、アメリカでの意外な出会いでした。

その後は先週も言ったスーパーに行って食材の調達。そして、夜は勝屋が研修中に知り合った学生の家での Party に後藤と共に呼ばれ。…これがヤバかった！（泣）とりあえず最初は何もしゃべれず！通じず！俺らもあつちも「どうなんの？この Party…」っ

て感じになり、「来なきゃよかった！」と3人の意見が一致(笑)でも、何とか勝屋とあっちのDJの人と音楽の趣味が一致！そして、日本が好きってこともあって一安心。最後はしっかり楽しみました。まあ後藤はウォッカ飲み過ぎで吐いてたけど...

唯一の心残りは Hug できなかったこと(笑) でもいい経験になりました！

8月29日(日) ラフティング

今日は待ちに待ったラフティング！ Dr. フライに迎えに来てもらうと、見慣れない顔が... 息子のジョンも一緒に Go！そして、もう2人増えるんだって... 車の中で勝屋と一緒に外人2人に挟まれて緊張！しかも、女の子2人と後藤は爆睡！恒太は車酔い！けれど話してみるとやっぱりいい人で日本のアニメ知ってるし、ジブリ知ってるし、昨日と同じで何か共通の趣味があると助かると実感(笑) 日本に帰って趣味をもっと増やそうかなと考えたり。勝屋はジョンに懐かれ、いじられ、寝不足なのに寝れなかったみたい(笑)

会場に到着して、ガイドの軽い講義を受けていざラフティング開始！水をすげえ被るし、アップダウン激しいけど、めっちゃ楽しかった！何かあつという間に終わってしまった気がする。もっとやりたかったな...。帰りの車の中ではジョンの英語の発音講義の開催。皆がそれぞれ個別にしっかり教えてもらいました。お礼に皆で日本語の講義！何を教えたかって？当然基本的な単語から... 例えば「好き」「すみません」... 他にも「スケベ」「ハゲ」「う。こ」とか。しかも、物覚えが良い！ Dr. フライに謝らなくちゃ(笑) ごめんなさい！

8月30日(月) 馬内科

今週から大動物臨床に変わってまずは馬内

科。日本では実習でもほとんど扱わない馬だけど、アメリカでは牛とかとは別に個別に「馬」の医療が発達してる。さらに学生2人で馬一頭を扱うという贅沢な？感じ(笑)

8時に研究室に行ってまずは挨拶。でも学生達も今日が新しくローテーションした初日らしく、全員で施設の説明を受けて、その後各部門の学生について行くことに。そう！ここでも驚いたことがアメリカでは日本と違いずっと同じ Labo に所属するんじゃなくて3週間でぐるぐるローテーションするシステムらしい。Dr が来て、何が始まるんだろうと思ってる上階の小部屋でいきなり講義開始！馬の感染症についてみっちり90分。それから農場に出掛けて、馬の診察手順を実習。北里ではほとんどしなかったことを実際にやらせてくれました。初めてあんなに馬を診察した(笑) 特に眼窩下

静脈からの採血は感動！眼の下に思い切り針が刺さってるけど痛くないのかね？

午後は2時からだと言うので昼食後に図書館で少し昼寝して、再び講義開始！今度は内科的な馬の疾患についてみっちり5時まで講義。辞書を片手に半分くらい理解できたかな？ていうか字に癖がありすぎて読みにくい！何て書いてあるかわからないこともしばしば。

8月31日(火) 馬内科

内科2日目。昨日と同じく9時から馬内科的疾患についての講義から。でも今日は血液検査からの病態の把握で、どっかの実習で見たことある疾患や異常を列挙。11時までやって暇になったので外科手術を外から覗くけど、12時前には早めの昼食へ。昨日と同じく2時からだけど、13時には休憩に飽きて研究室へ。けれど、やっぱり誰もいないので仕方なく図書館に行くことに。2時に再び

研究室へ。... 時間が過ぎること 2 時間！！
予定も何もなく危うく消えてしまいそうになる（笑）アルパカの手術をやったけど学生の定員オーバー！なので中には入れず... つまんない！！ぶらぶらと色んな所を散策していると、新たな発見。雑木林の中に囲いがあって、何とそこで馬が日なたぼっこをしていた。しかも、人懐っこい！何だかいい感じなので 1 人と 1 匹で記念撮影。Labo に戻ると、4 時になっていきなり活動開始。ついて行くと入院患畜の散歩と薬剤投与。この馬どうしたの？って聞くと、昼間に来たとのこと。って休憩してる時じゃん！！その後、アルパカ手術のこと聞いて、ついでに午前の馬手術も聞いて今日は終了！！過去最高に暇な日だった...

9月1日（水）ファームアニマル

いつも通り 9 時から開始。始めに入院患畜の状況を見てから... ていうか意外にアルパカが多いことにびっくり！牛 2 頭、豚 2 頭、アルパカ 5 頭！その後豚の削蹄。途中で緊急で牛の削蹄が 2 頭。蹄病らしく蹄に下駄を履かせて悪化を予防。午後からは後肢が悪いアルパカから髄液の採取。MRSA に感染した豚の観察。この豚は皮膚が凄いことになってた。痂皮化した皮膚がボロボロに剥がれてめちゃ痛々しかった。空いた時間は馬外科を見に行ったりして今日は見るものが割と多い日だった。さらに夜は HABIT というペットを使った介在療法の講演を聞きに行く。欧米では日本と違ってこういうのが発達してるので少し勉強になったかな？

9月2日（木）動物園・ファームアニマル

今日は午前中にエキゾチックの Dr. シューマックに連れられて地元のノックスビル動物園へ。まず動物園の診療所を見せてもらい、

それから園内を観光。診療所は基本的に何でもできて、X 線画像も大学とリンクしてる。園内は... いたって普通（笑）象がいて、キリンがいて、虎がいて... 大学の先生がいるしもっと裏側が見えるかと期待したけどそれはなく、普通の観光。午後は昨日と同じくファームアニマルに実習へ。アルパカの髄液採取見たり、削蹄見たり。

夜はナンシーとサラに連れられてノックスビルの Downtown とモールに買い物へ。その後は夕飯を食べに Hooters へ。ここはレースクイーンみたいな露出度高めの服を着たお姉ちゃんが料理を運んでくるお店で（本当にただ運ぶだけだけど）... まあ、見てるだけで楽しいよね（笑）

9月3日（金）馬外科

病院研修最終日は何と... 驚くほど何もすることが無かった！しかも、他の科も同じだったらしく午前・午後共にひたすら患畜を求めて循環した。何とか見れたのは、牛の削蹄と死産した牛のエコー検査、蹄を痛めた馬の蹄鉄の交換だけ。

夜は Dr. フライ宅で最後の Party。1 週間ぶりにジョンと再開して、隣に住んでるクロエとマイルも交えて庭でバスケットとアメフトを。料理は恒太がお好み焼きを作って、みんなに大絶賛！

9月4日（土）帰国

2 週間前の実習も終わってみるとあっという間で、もう帰国の日。Dr. フライの家から帰宅して、荷造りして、気付いたら AM 1 時。AM 3 時に起きて、4 時出発。眠たい目を擦りながら、Dr. フライと奥さんのジーンズに空港まで送ってもらい、とうとう別れの時。2 人共朝早いのにありがとう！ノックスビルから飛行機が離陸する時は、やっぱり何だか

感慨深くなりました。

シカゴから帰りの飛行機は... 行きと同じで映画を4本見て、機内食たくさん食べて、無事日本に帰国。日本語が溢れる空港で帰って来てしまったんだと改めて実感して、アメリカ研修が終わりました。

最後に...

一緒に行った皆、カッシー先生、Dr. ブレース、Dr. フライ、アメリカでお世話になった人達、アメリカに行かしてくれた両親、どうもありがとう！とても楽しい経験ができました。この経験を将来にどこで生きるか、どうやって生かせるのかはまだわからないけれど、少なくともアメリカの学生の姿を見て、自分はまだまだこんなもんじゃ駄目だなんて思えました。確かに分からないこと伝わらないことはたくさんあったけど、どうにかやっていけるものだ実感もしました。また、アメリカの良さを体験するなかで、改めて日本の良さも感じました。そして、もし少しでも行ってみたいと思った後輩は可能ならば行くべきだと僕は思います。この経験は行った人にしか分からない言葉にできないような感動が待ってるし、行ったことに後悔は生まれなと思います。

Dear UT Drs. and students

Thank you very much for everything, especially Dr. Brace, Dr. Fry, Sarah and Nancy. I had very beneficial time and this precious opportunity motivated me more. I had meaningful time at every section, especially small animal and exotics, which I had my most interest in. I never forget all of you and UT life. I would like to go back to UT and see you again. Thank you.

Hirofumi Kawata

西村 百合香

8/21

テネシーへ到着。飛行機の中ではほとんど寝てた。映画2本は見てJALのおいしい機内食を食べて、他は前日ほとんど寝てないせいか、ほぼ爆睡。やっぱりJAL最高一っ!!! 飛行時間約11時間を経て宿舎についた時にはぐったり。即効爆睡。

8/22

早速の日曜日。WAL☆MARTにDr. Braceに車で連れてってもらった。そこで1週間分の食料を買った。昼ごはんは、平出さんの大好きなWendy'sで軽くすませた。サラダひとつにしるボリュームミー。。二人で半分こでちょうどいいですよ。午後のフリーな時間は各自で大学内を散策。っていっても、なんだかんだで全員でグルグル散策(笑)夜はDr. Brace'houseでWelcome Partyをもらった。サラっていうこっちでいう4Vの日本に興味のある子に出会う。

8/23 小動物実習1日目

外科

午前はアポイント制の診察を見学。咽頭に腫瘍があるイヌが来た。午後は去勢と避妊の手術と、午前中に来た咽頭に腫瘍があるイヌの手術の見学。Dr. TOBICEに出会う。初めてCアーム室っていう場所に入った。去勢と避妊の手術はドクターが生徒に教えながらマンツーマンで行っていた。なんととってもめっちゃくちゃラフな雰囲気のもとで行っていて、音楽聴きながらノリノリな時も。笑 楽しく手術やっていた。

8/24 小動物実習2日目

外科

午前中はバイオプシーを行っていた。午後

は、肥満による後足が動かなくなっているペットブタをリハビリルームにてプールでの運動を見学した。胴体に達するほどの水をためて、ベルトコンベア一式になっていて歩く時の負荷を軽くした状態で歩く練習をさせていた。フンがぶかぶか浮いていた。実習後はT-rexのカード探しで放浪。夜ごはんはステーキやフィッシュアンドチップス食べた。

8/25 小動物実習3日目

内科

朝一番にミーティング。学生がそれぞれ担当している患者について報告し合う。聞き取ろうと頑張ったが、寝起きの頭はぼーとしていてあいにくほとんど聞き取れず。午前中はある学生さんに付いて回った。実際に診察室まで行き、一緒に飼い主さんの話を聞き、診察をし、先生とディスカッションで質問応答を繰り返して行っていた。この日の患者さんは気管の狭窄しているイヌで、レントゲンで判断していた。治療としては、アセプロマジン、ハイドロコドンの処方。他に、午後のバイオプシーの準備。午後は内視鏡でのバイオプシー検査を見学した。

8/26 小動物実習4日目

内科

午前中は朝からゼミ、内科配属の学生がスライド発表。内容としては、鼻出血、腹部膨満を題材としていた。その後は、昨日と同様に診察で、甲状腺形成不全のイヌや、左脇下にマスがあるイヌが来た。マスに直接プレートを押しつけて塗抹標本を作って診察していた。心雑音を聞かせてもらった。他には、学生のDayna担当のイヌに20回分流動剤を経口投与。ひたすら投与。午後はそのイヌのバイオプシー術。夜はみんなでT-rexでひたすら運動。柏本先生もちっちゃかりまざっ

てひたすらテニス！コートでのテニス講座を受けた。意外とスパルタ。フォームを直された（笑）ありがとう。またお願いします。

8/27 小動物実習5日目

眼科

眼科の人たちはとにかく親切だった。朝にまず一通り眼科の部屋の案内をしてくれた。他の科に比べて部屋は狭いが、この病院の中で一番忙しい科らしい。20 近くのアポイントメントが入っていた。私は Regina に付いて回って、全部で4症例見た。ほとんど検診。症例としては、水晶体手術の術後検査、片目を失ったパグの眼圧検査、傷、のう胞、潰瘍。お昼を取る時間もないほど忙しかった。実質お昼時間は30分、一緒に Regina の車に乗せてもらってキャンパス内の MoE's でタコスを取アウトしに行った。その後病院内で急いでだいぶ遅いお昼。その日の終わりに眼検査の仕方をわざわざレクチャーしてもらった。

この日の夜はテネシー班のボスであるコータの指導の下、っていうかコータがほぼ作ったけど、ローストビーフと、柏本先生が昼間ぶらついて買ってきてくれた選りすぐりの赤ワインとともにとりあえず5日間実習終わったよ！打ち上げパーティーを Dr. 柏本の部屋でした。

8/28

2 回目の土曜日。久しぶりにゆっくり朝起きれた。ふー。ずっと楽しみにしていた WesternMall で買い物！時間との勝負！入った瞬間にそれぞればらばら行動。3時間はあっという間だった。そのあと、また Wall ☆ Mart で再び1週間分の食料を買った。夕方からテニス。その後キャンパス内の BAR に行って飲んだ。なんか BAR って

いかファッションショーみたいなのずっとやってた。コートはひたすらジャックダニエル！最終的に、コートが若いかわいい女の子とツーショット！なんでいっつも片目つぶるの？笑。写真撮れたこと感謝してくれ！

8/29

こっちでの最後の日曜日。朝 8:15 集合。Dr.Fly と息子さんの John と Nancy たちと一緒にテネシー川でラフティング。楽しかったー！人生で初めてのラフティングかも。お昼は、Harders でハンバーガー。帰りの車の中で、ひたすら John による English 発音講座！！スパルタティーチャーだった。(笑) 私はなんとかクリアしたが平出さんは全くクリアできず...(笑) どんどん John にレベルを下げてもらってなんとかクリア！(笑) 私が平出さんをフォローしようとしたらそれまで John に止められた(笑) でも、Johnのおかげで発音がちょっとだけうまくなった。John サンキュー！！夜ごはんは柏本先生と女子で草の会。

8/30 大動物実習1日目

馬の外科

午前中は馬をプールで泳がせていた。午後には削蹄。その他は、病院内をぶらぶら見学。夜ごはん；ジャーマンポテト、エビのソイソース炒め、サーモンのバター醤油炒め、ズッキーニのトマト炒め、白いご飯。さすがコート。おいしかったです！

8/31 大動物実習2日目

馬の外科

午前は馬の指圧療法の見学。その後 DDF/SD の手術。Dr.Doherty に見学中にひざかっくんされた。(笑) ひざかっくんって万国共通なんですね。午後は、包帯の巻き替え、馬

の体を洗った。帰宅後、平出さんとユニバーシティセンタービルのスタバでゆっくりお茶した。癒しのひと時。夜ごはんは、こっち来てから 2 回目の肉パーティー！！ハンバーグ、サラダ、スペアリブ、with 赤ワイン☆さらにデザートまで。ワッフル。ハーゲンのアイス添え。んーうまかった！

9/1 大動物実習3日目

フィールドサイエンス科

8 時集合。午前中は研究室内で待機。午後は 13:45~16:00 まで 3 年生の実習のアシスタントの見学。牛の直検と生殖器の解剖の授業だった。寮に帰って即爆睡・・・18:30~20:00HABIT の講義。10 分休みにクッキーと、チーズのビュッフェ。21:00~22:30T-rex で Dr. 柏本と一緒にランニング。草を買いにコンビニに立ち寄って帰宅。その後 Moon bloom で先に飲んでた他のメンバーと合流。テネシー班全員集合！コートまでもやジャックダニエル！好きだねー！

9/2 大動物実習4日目

フィールドサイエンス科

9:30 集合。Knoxvill zoo の裏の現場を見学。

Animal hospital

13:00 に UT に戻ってきた。お昼は草とアイス。部屋のカードと、T-rex の ID カードを失くしたことに気づく・・・あせって早速夕方 Dr. 柏本と一緒にカードを探す散歩に出掛けた。その都度はお世話になりました。歩き回ったが結局見つからず・・・暑すぎて、スタバでコーヒー買って帰った。Dr. 柏本のカードを貸していただいて、平出さんと一緒にプールへ。気持ちよかったー！久しぶりのプール。私のせいで Dr. 柏本ついに一度もこっちでプールに入れず。18:30 に Sara

と Nancy と待ち合わせ。ダウンタウンに連れていってもらった。Hooters で夜ごはん。男子軍 Hooters にメロメロ。

9/3 大動物実習 5 日目

Eique Serves

8:00 Andyholt 寮で Dr. Fry と待ち合わせ。宿代 \$ 284.05 払う。8:30~11:45 午前の見学。削蹄、仔山羊の除角、下痢の牛にミネラルの投与。お昼 12:00~13:00 サンドウィッチ会議室で研修修了証をいただいた。午後の見学 13:00~15:00 ブタの歩行の見学。ついに自力で立った！小動物実習の時からずっと見てきたブタが立てた瞬間はちょっと感動した。その後は、死産の処置。18:30~Dr. Fly の家でパーティー☆ John まじでかわいい！Wii やら卓球やらバスケで遊んだ。Dr. Fry のサンルームでパーティー。

9/4

帰国の日。

帰りの飛行機も JAL！よし！告白を見て気分いっきにガタ落ち・・・そのあと違う映画を見て元に戻ったけど。帰りは行きより長く感じた。ワインのミニボトルの空がどんだん前の座席のポケットに溜まっていった。成田に着いた時には両側の二人にいっきにつっこまれ、少し反省。散らかさないように気をつけます(笑)。

テネシー大学夏季研修に同行して

獣医公衆衛生学研究室

柏本 孝茂

最初に全員無事に研修を終え、帰国出来たことを、国際交流委員の先生方を筆頭として、

御尽力頂いた諸先生方に、この場をお借りして深く感謝致します。

さて、ここではテネシー大学との国際交流の現状については軽く触れる程度とし、むしろ、生活レベルの細かな注意点などを挙げたいと思う。取りとめもない記述になることとは思うが、来年度以降の学生・教員が現地入りしてからの生活をより早く軌道に乗せ、研修に集中できるよう参考にして頂ければと思う。

本文に入る前に御断りしておきたいことがある。今年、この研修のテネシー側担当者であるブレイス先生が、研修スタート後、4 日目に出張され、研修終了まで戻れないという事態に見舞われた。4 日目の午後から研修を終えるまでの我々の先導役は、フライ先生へと引き繋がれることとなった。つまりは、私は勿論のこと、フライ先生も研修を取り仕切るのは初めてであり、我々が経験したことがこれまでのスタンダードであるか否か、私には見当が付かない。このことを最初に申し添えておきたい。

1. 持参する御土産について

渡米前に最も思案に暮れたことは、現地でお世話になる方へ渡す御土産のことであった。今回の研修中に、学部長との懇談、ブレイス先生宅でのホームパーティー、フライ先生宅でのホームパーティーと、御土産を必須とする場面が 3 回あった。私は、メインとなる御土産を 5 つ程度、ちょっとした小物を 7 - 8 個程度用意していった。この中には、女性に渡せるような小物を含めておいたので、ホームパーティーでは、先生方の家族にも御土産を渡すことができた。また、他にもラボを訪問させて頂いた際や、次年度以降に北里を訪問して下さる先生と交渉する機会があるので、御土産は 10 人程度を目安として持参すると良いと思う。本校の英文パンフ

レットや学部のグッズも忘れずに持って行きたい。

2. 現地の環境

湿度は思っていたより高めであったが、夏らしく晴れ渡る日が続き、滞在期間中で雨に見舞われたのは到着当日だけであった。長袖の上着が1着あれば、後は半袖で構わないと思う。休日を利用して、ラフティングへ連れて行って下さるので、水着とサンダルを持参すると良い。

大学構内を循環するバスが常時運行されており、IDカードの提示などもなく無料で利用できる。EAST-WESTと表示されたオレンジ色のバスが、我々の生活拠点となる学生寮（ドーム）、研修を行う獣医棟、フードコートのあるユニバーシティセンター等、主要な箇所を一日中巡回している。日中の暑い時間帯、雨天時などは有効に活用したい。行動可能な範囲内での治安は極めて良好であり、研修を通して、何一つ危険を感じる場面に遭遇することも無く、またそういった状況を目にすることも無かった。ただし、ブレイス先生によると女性が一人歩きを避けるべきエリアは存在すること、やはり、基本的にはドーム近隣であっても、夜、女子学生の一人歩きは慎むべきである。

3. 生活環境

これは、まず申し分ない。空港で、ブレイス先生一家に手厚い出迎えを受けた後、大学のバンでドームへと案内して頂いた。ドームでも、全ての手続きをブレイス先生が行って下さり、IDカード、ドームへの出入りに使用するカードキー、およびルームキーを配布して下さる。その後、教員、男子学生4名、女子学生3名の生活ベースとなる3部屋へと通して頂いた。今回は、1ベッドルームに空室が無かったため、それぞれが2ベッドルームを使用した。当初、男子学生の部屋

には、一つベッドが不足していたように思われたが、備え付けのソファがソファベッドであったため、不自由なく寝起きすることができたようである。インターネットはワイヤレスのみ使用可能で、教員・学生を問わず、持ち込んだPCをそのまま使うことが出来、到着直後から、メールのチェック等が行えた。部屋には、タオル、バスタオル、フェイスタオルが3枚ずつ用意されており、それらを洗濯して使用した。洗濯機を使用するに先立ち、IDカードへのチャージが必要であった。フロント横の縦長の機械に、配布されたIDカードを通した後、紙幣(1ドル)を入れるとIDカードの番号に入れた金額分がチャージされる。チャージ後、ランドリー室へ行くと、そこにもIDカードの読み取り機があり、IDカードを通して洗濯機を指定するとチャージした金額から減額されて洗濯が出来るという実に便利なシステムになっていた。洗濯、乾燥、共に1ドルであるので、一度の洗濯で計2ドルが必要である。また、テネシーレクリエーションセンター(T-レックス)の3階にあるオフィスで17ドルを支払い、このIDカードにチャージするとT-レックスにあるトレーニングマシン、バスケットコート、プール、テニスコート、スカッシュコート等が2週間使えるようになる。用具も無料で貸し出してくれる。T-レックスはドームの目の前に位置し、ナイター完備であることから、夜は11時まで使用でき、研修後でも十分に運動出来る。

到着当日に、ブレイス先生に申し出て、本校の研修生が毎年使用している、キッチングッズを始めとする生活用品の入ったプラスチックコンテナを持って来て頂くよう手配することをお勧めする。例年、到着翌日の日曜日の朝から、1週間分の食料を買うため、ウォルマートへ連れて行って下さるようであ

る。この買い出しの前にコンテナの中身をチェックし、不要なものを買込まないようにしたい。今年は、帰国前に学生がコンテナの中身を細かくチェックし、リストを作成してくれた。来年行かれる方は渡米時にこのリストを持参することが出来ると思う。

4. 研修内容に関して

1週目は小動物、2週目は大動物というローテーションであった。小動物研修に関しては、学生それぞれが日米の違いを聞かせてくれ、感ずる部分があったようで、こちらとしても収穫が感じられた。しかし、研修が大動物ローテーションに入った途端、フライ先生が盛んに学生の様子を尋ねてくる。学生はと言えば、ことごとくトーンダウンし始め、ドームへ戻ってくる時間が早くなってきた。そこで、双方から話を聞いてみた。現状は、アメリカ経済の下落と共に、患畜が激減しているとのこと。特にこの傾向は馬で著しく、余りに症例数が落ち込んでいるので、学内でも問題になっているらしい。学生は機転を利かせ、他のセクションを見学に行くなどして時間を費やしてくれたが、やもすると、朝から夕方まで、来るか来ないか見当もつかない患畜を待ち、待機させられる時間を過ごすことになりかねない。相手が経済不況であるだけに、根本的解決とも行かない。症例待ちに見切りを付けたら、講義に参加したり、基礎系のラボを見学させて頂いたりする日を設けるなど、大動物から離れたオプションを用意しておくのも良いかもしれない。それでも、十分に得るものはあるだろう。

5. 感想

全体を通して、非常に手厚いホスピタリティを持って迎えて頂き、国際交流とは、人と人との繋がりであるということを身を持って感じた。フライ先生は、昨年、我が学部を訪問されており、「私が北里を訪問した際に

は、多くのことをして頂いた。ぜひとも、君たちにも出来るだけの事をしたい。要望があれば何でも言ってくれ。」と事あるごとにおっしゃってくれた。ブレイス先生も然りである。私も、あれだけの歓待を受けたら、お返しせねばと思う。人と人との繋がりという、しっかりした土台の上に次のステップが積み上げられると、この交流はさらに良いものへと発展するだろう。同行教員は、肩肘張らず、気軽な気持ちで現地へ赴き、多くの人と話してくれば良いのだと思う。フライ先生の言葉を借りるなら、**Just make friends**が発展的交流の礎を築く良策ではなかろうか。

最後に、共に研修に参加した7名の5年生諸君:平石恒太君(リーダー)、川田大史君、後藤俊介君、勝屋雄亮君、菅原香織さん、西村百合香さん、平出恵理さん。本研修での経験は、今後の人生のあらゆる場面でプラスになると思います。あなた達の人生における貴重な時間を共有できたことを嬉しく思うと共に、少しでも力になれたのなら幸いに思います。あなた達のおかげで、私も非常に楽しく、得るものの多い、2週間を過ごすことができましたよ。ありがとう。

Dear the UT folks,

On behalf of our UT participants, I would like to thank you all for your time and hospitality during our stay in Knoxville. We had such a great time. We definitely will never forget this trip. I believe that the students experienced a lot of things, which must give them some potential changes in their future life. I hope this program will ever last.

With best regards,

Dear Drs. James Brace and Michael Fry,

I was so happy that I have been part of this program this year and met you. I greatly appreciated what you've done for us. I had interesting meetings with selected faculties of the UT. Then I will possibly have chances to visit UT again, and I'll be happy to welcome you in Japan too. So please keep in touch!
Thank you very much again.

Best wishes,
Takashige KASHIMOTO, DVM, Ph.D.













**Georgia University
School of Veterinary Medicine
16 - 27 Aug. 2010**



Dr. Sheila W. ALLEN, Dr. Mitsuya SHIRAISHI, Yuji SAWATARI, Dr. Takehiko KAKIZAKI
Komugi KATAYAMA, Asami SEIDA, Natsuki IDE, Mayuko ODA
Sonoko ICHIKAWA, Shiho KOMATSU, Ayano ISHIDA, Naomi FURUNO

参加者一覧

同行教員：柿崎竹彦 Dr. Takehiko KAKIZAKI

氏名	Name	所属研究室
石田 理能	Ayano ISHIDA	解剖
市川 園子	Sonoko ICHIKAWA	薬理
井手 夏希	Natsuki IDE	薬理
小田 真悠子	Mayuko ODA	薬理
片山 こむぎ	Komugi KATAYAMA	第二外科
小松 志帆	Shiho KOMATSU	解剖
清田 麻美	Asami SEIDA	第二外科
古野 なおみ	Naomi FURUNO	病理

古野 なおみ

8月14日（土）

朝5時に起床し、八戸から新幹線で東京へ。空港で全員集合し、飛行機に乗り込んだ。新幹線で爆睡してしまったため全然眠れず、約12時間の長いフライトを機内食片手に3本の映画を見てすごした。

無事にアトランタに到着。空港には、マロリーと夫マイケル、そしてセリーヌが迎えにきてくれていた。マロリーと片言の英語で少ししゃべったが、自分のあまりの話せなさに2週間やっていけるかと早速憂鬱になった。しかしセリーヌが日本語を話せると知り、少しほっとした。

スーパーマーケットで食料と大量の水を買いこみ、ジョージアセンターへ向かった。ジョージア大学はとて大きくて、ジョージアセンターはとて綺麗だった。

8月15日（日）

今日はアウトレットモールでショッピングをした。あまりの安さにびっくりで調子に乗って服とかたくさん買ってしまった。お昼は、大きいと文句を言いながらもアメリカサイズのハンバーガーを一人で食べてしまった。

夕方はダウンタウンへ繰り出し、ジョージアショップでジョージアグッズを買ったり、夕食にピザを食べたりした。ダウンタウンには花柄や虫柄などのブルドックの像がいたるところにあたり、走ってる車のプレートにはブルドックの絵やGEORGIAの文字が書いてあったりで、ジョージア愛をすごく感じた。

8月16日（月）

今日は大学内と獣医学部内のツアーがあっ

た。学部内見学は、セリーヌが訳してくれたこともあり理解できた。同じ獣医学部でも北里と異なる点がたくさんあったし、一番驚いたのは、あまりにも科が多いことだった。例えば、内科でも眼科、皮膚科、内視鏡科などそれぞれの研究室があり、一回のツアーでは場所を把握しきれなかった。午後の大学全体のツアーでは、ガイドさんの英語がとてつもない速さで、全体の3%くらいしかわからなかった。

夜はパーティーがあったが、獣医学部生の縦飲みに入ってしまったような状態で、明らかに場違いだった。なので、細々と食べ物だけいただいた。

8月17日（火）

今日から Clinical Rotation がスタートした。

今日は希望していた Pathology。朝はみんな急がしそうで放置されそうだったので、お願いして検体のスライドを貸してもらい、顕微鏡で見ていた。しかし、どれも珍しい症例のスライドばかりでよくわからなかった。

午後は necropsy があった。今日はウマ2頭にイヌ、カメ、フェレット、モルモット、インコと盛りだくさんで、本当におもしろかった。先生は楽しい人で、質問したら教えてくれた。私が英語を聞き取れないでいると、手振りをつけてゆっくりな英語で教えてくれたため、理解しやすかった。一番興味深かった検体はメラノーマのウマで、尾にできた腫瘍が脾臓や肝臓、腎臓にまで転移していた。みんな Oh, my god ! と言ったので、馴染むために私も Oh ! とか言ってみた。その他、ジステンパーを疑うイヌの剖検も行った。しかし実際は脳のヘルニアが認められ、それにより神経症状が出たと考えられた。

夜は Dr. Corrie Brown の家でホームパー

ティーがあった。バナナヨーグルトが隠し味に入ったマッシュポテトがおいしかった。デザートはチョコブラウニーはものすごく甘くてアメリカンな感じだった。

8月18日（水）

今日は Oncology。Oncology はイヌやネコの皮膚にできた腫瘍やリンパ節のサイズを測ったり、バイオプシーをしたりして、その後の治療方法を考える研究室だった。一番印象的だったのが子ネコの腹部の皮膚にできた腫瘍だった。すでに FNA で繊維肉腫と診断されており、腫瘍が野球ボール大ほどと大きく、膿がでてきて痛々しかった。その他にも、リンパ肉腫や肥満細胞種などのイヌ、ネコの腫瘍を触ったりすることができた。しかし、リンパ腫の G. レトリバーの多さには驚いた。また、リンパ肉腫のイヌのオーナーさんに先生が話をするのに立ち合わせてもらった。内容はあまり聞き取れなかったけど、なんとなく深刻な状況ということはわかった。

午後は Large animal medicine の surgery を見に行った。運良くウマの手術を見ることができた。驚いたのは、ウマの気管チューブと輸液剤の大きさと、手術室での先生の明るさだった。大動物は器具のすべてが大きく、ウマは全身麻酔後に四肢をくくって逆さ吊りにされ手術台までクレーンで運ばれてきた。また手術室には音楽が流れ、先生はノリノリで腫瘍を切ったり縫合したりしていた。時に生徒にちょっかいをかけたたりして、終止ラフな雰囲気だった。後、アメリカの獣医学生は女性が多く、それは大動物も同じであったのだが、女性だけでウマに麻酔をかけたり処置したりしていて、大変そうだったけどすごくかっこよかった。

8月19日（木）

今日も Large animal medicine へ行き、internal medicine の方を見せてもらった。初めに足に外傷を負ったウマの治療を見た。中節骨と末節骨の関節包にまで傷が達していた。まず針を足の頭側からさして関節包内を洗浄した後、包帯で固定していた。その他、骨折したウマのレントゲン画像を見て、ディスカッションをしたりしていた。先生が生徒にレントゲン画像のスライドを見せ、どこが異常か答えさせていたのだが、生徒達は自分の意見をどんどん言い、前に立って行って示したりしていた。日本人との自己主張の違いを目の当たりにした気がした。また、ジョージアの大動物診療は 90% がペットであるウマで、家畜であるウシの診療が多い日本との違いをここでも見つけることができた。

8月20日（金）

朝から事務のレキシア達にアトランタのコカコーラミュージアムと CNN へ連れて行ってもらった。コカコーラミュージアムは、4D の映画や世界のコーラの飲み比べなどいろいろあって、思っていた以上に楽しめた。また、CNN での昼食では、日本食がこいしくなって、お米を食べた。

夜はボイスクラブの人達とカラオケへ行った。ものすごくテンションが高く、みんな踊りながら歌いまくっていた。私達日本人は少し置いてけぼりな感じだったが、3 曲ほどみんなで歌ったりして何とかしのいだ。しかしアメリカ人とのカラオケは、ステージを見ているようなくらいは迫力があってすごかったし、とても楽しかった。良い異文化交流ができた。

8月21日（土）

今日は Mall of Georgia という超巨大な

モールへ行った。とても大きくて、とても2時間半では回りきれないほどのショップがあった。そこで十分にお買い物を満喫した。

夕方、マロリーの家へ招待された。マロリー家ではおいしいディナーをいただいた後、2匹のボーダーコリーとフリスビーで遊んだり、みんなでテレビゲームをしたりしてすごした。テレビが3台並び、Wiiやファミコンなどもあり、ゲームの数がとても多くて驚いた。

8月22日（日）

湖へマロリーやレキシア達と一緒に遊びに行った。カヌーや水上ボートに乗ったり、藻に絡まりながらも泳いだりできて、とても楽しい時間をすごした。休みの日に、木々に囲まれた湖で、人ごみも無く優雅に過ごせるアメリカ人がうらやましく思えた。

8月23日（月）

今日は **Small animal surgery** へ行った。高いところから落ちて両肘を骨折したイヌの手術だった。あまり日本と違っている点はないように思えたが、興味深かったのは、心電図が日本でピピピという音とは違って、ドクドクと聞こえるようになっていたことだった。

午後は **Pathology** へ行った。今日は腸捻転で死んだウマや膝関節が浮腫して膠様化していた子牛、その他ビーバーや鳥、ネコの剖検も見ることができた。しかしながら、剖検は日本よりあまり細かいことを気にせず、ダイナミックで全てが速い気がした。また、5日前など死んでから時間がたった動物でも剖検することが多らしく、臓器が変色して臭いも大変なことになっていた。

夜は **Dr. Koenig** の家でホームパーティーがあった。お肉もサラダもケーキも全ておい

しくて、残ったものも全てみんなで持って帰った。

8月24日（火）

今日も **Small animal surgery** へ行った。今日は軟部外科の手術日だった。まずは後肢の爪に腫瘍ができたイヌの指を切除する手術を見た。2症例目は目頭に小さな腫瘍があるイヌで、術者はルーペのような眼鏡をかけて切ったり、縫ったりしていた。その他、歯肉に腫瘍があるイヌの下顎切除や腸に潰瘍ができたイヌの腸部分切除と端々吻合を見たりした。

夕方はジャスティンとマロリーと一緒に **Nature walk** へ行った。川の浅瀬を歩いてへびやトカゲを見つけたりした。すごくりフレッシュできたし、新鮮で楽しかった。ジャスティンは親が日本人で少し日本語がわかるため、自分が使える日本語を並べて一生懸命に話してくれるのがすごくうれしかった。

8月25日（水）

朝 **Small animal internal medicine** へいった。尿崩症のイヌや膀胱結石のネコが入院しているのを見たり説明してもらったりした。

Exotic では今日は診察が無いといわれ時間を持て余していたら、同い年くらいの日系の女の人が話しかけてくれ、一緒に昔の症例の写真を見ながら説明してくれた。ジャスティンもそうだが、やはり日系の人に会うと心が和む。

午後 **Emergency clinical care** を見に行った。ここでは術前と術後のケアをするところだった。尿道閉塞のイヌのエコーを見せてもらったり、頭をうって神経症状を呈しているイヌや骨折したイヌの術後のケアの様子を見せてもらったりした。

夜は **Dr. Bob Gogal** の家でホームパー

ティーがあった。家がとても大きくてプールもついていた。プールで思いっきりはしゃいだり、裏の庭でバレーをしたりして楽しんだ後、ご馳走といろいろな種類のケーキを食べた。

8月26日（木）

今日は最後の **Clinical Rotation** なので朝から **Pathology** へ行くことにした。朝はみんなで見られる顕微鏡を使って塗抹標本を見ながら討論をしていた。まずは生徒同士で話し合い、その後先生がきて解説する感じだった。今日は関節液の塗抹の日で、今まで見たことなかったけど、なんとなく背景くらいを理解できたんじゃないかと思う。後、研究室のみんなにお菓子と味噌汁をプレゼントすると、早速食べてくれ喜んでくれた。特に『わたパチ』は好評でなかなか盛り上がったし、会話は今まで異常に弾んだ。暇さえあれば **Pathology** に行っていたこともあり、研究室の生徒とは仲良くなれた。年齢はかなりばらばらでそれぞれ個性が強い人ばかりだけど、話しかけると頑張ってくれたり、ジョークを言ってくれたり楽しかった。

午後は **necropsy**。今日はスクレイパーを疑うヒツジと術中に死んでしまったイヌと5日前に死んだネコがきた。ネコは死変だらけで頭蓋骨はやわらかくなっていた。イヌは銃弾が腹部に当たったために病院に運ばれてきたらしく、腸に穴が開いて癒着していた。銃弾が原因と聞き、なんてアメリカンなのかと感じた。剖検が終わって **Pathology** のみんなに別れを告げた。少しの時間だったとはいえ親切にしてくれた人との別れはやっぱり寂しい。特に先生は剖検中に何かと「説明してあげるからおいで」と話しかけてくれ、スローな英語で説明してくれたり、すごくなつてしまい、別れる時とても悲しくなった。

夜は **Dr. Carmichael** の家で最後のさよならパーティーがあった。パーティーには、今までにホームパーティーを開いてくれた先生やカラオケに行った生徒やジャスティン、セリーヌ、そして今まで私達の面倒を見てくれたレキシアを始めとする事務の人、マロリー、マイケルなどたくさんのお世話になった人々が来てくれた。みんなに会うとこの2週間を振り返り、もう会えないのかなと思うと悲しかった。だけど楽しい思い出をたくさん作れたし、とても濃い日々を送れて本当に感謝でいっぱいだった。

8月27日（金）

ジョージアセンターとジョージア大学に手を振ってアトランタへ。アトランタの水族館では、特別に水族館の裏側を見せてもらえた。またジンベイザメやマンタがとても大きく、ベルーガは超かわいかった。

ホテルについた後、空港でぶらぶらしたり、ホテルのプールでのんびりしたりして残りの時間をみんなですごした。

8月28日（土）

空港での預け荷物はちょうど50ポンドとギリギリセーフ。飛行機に乗ってからは寝てるか機内食を食べてるかだった。日本の入国審査はあっさり終わり、日本にいるという安堵を感じた。そのまま十和田へ、アメリカの余韻に浸りつつ新幹線に乗り込んだ。

最後に

今回のジョージア研修において、たくさんの方々にお世話になりました。このような素晴らしい機会を与えてくださり、本当にありがとうございました。

私はこの2週間であらゆることを経験し

学んだ。ジョージア大学での獣医学はもちろん、アメリカの生活や文化や考え方など、毎日が新鮮で刺激的だった。そこで感じたこと・考えたことはこの研修でしか得ることができなかったものだと思う。そういう感情や思いはすごく貴重だし忘れたくない。このジョージア研修によって私は以前より視野を広く持てるようになったと感じる。そして今後もこの経験を糧に成長していきたい。

Thank you very much for all of your kindness and all of the experiences I had with you. I enjoyed Georgia very much. I learned a lot about systems of veterinary medicine and much more about American culture. These two weeks made me growing up. I'll never forget this trip. If I have a chance I would like to visit UGA again!!!

Naomi Furuno

市川 園子

<はじめに>

私が今回のアメリカ研修に参加した目的は、アメリカと日本の獣医療の違いを実際に自分の目で見ることでした。またアメリカの学生たちは意識が高いと聞いていたので、彼らから刺激を受けたいと思い、今回の研修に参加しました。

<病院研修について>

ジョージア大学の学生や Clinical Rotations で訪問した Service についてまとめました。

・学生について

アメリカと日本では獣医師になるまでの教育システムが大きく異なっていた。アメリカでは一般の4年生大学を卒業後(大半の人は

農学部や生物学部を卒業する)、獣医大学に進み4年間の専門教育を受けなければならない。4年生になると、大学病院のさまざまな Service を3週間ずつ全て回らなければならない。

最初はアメリカの教育システムだと獣医師になって現場で働くには時間がかかるから大変だなと思っていました。しかし、ジョージア大学に研修に来てこの教育システムは、志の高い学生だけを集めることができ、学生のうちから様々な臨床経験を積むことができ、質の高い獣医療の維持ができるとも良いシステムだと気付きました。

また、アメリカの学生と Dr. の間にも師弟関係のようなものは見られたが、日本のように学生が Dr. の手伝いをするかたちではなく、Dr. が学生を後ろからがっちりサポートするかたちでした。また、オーナーの学生に対する信頼が厚いのも印象的でした。

・ Emergency Critical Care(ICU) 8月17日

Emergency Critical Care は主に術前術後の動物や衰弱した動物の世話をやっていた。勉強不足の私は Emergency Critical Care では緊急事態ばかりが起こるのかなと勘違いしていた。最初に見学した Service だったので、不安でとても緊張したが、Dr. Koening はゆっくりとした English で話してくれたり、筆談で対応してくれたりしたので助かった。

最初に学生たちの discussion に混ぜてもらった。discussion は星先生のケースリーディングの問題を話し合いながら解いていくような形だった。お題は Addison 病で、Dr. Koening の病態や血液検査の特徴に関する質問に学生たちは堂々と答えていた。定期テストが終わると頭の中から勉強内容が抜け落ちてしまう私とは違い、学生たちのレベルの高さにただただ感心した。また、ヘルニアが

疑われる犬を学生たちが検査していた。膝蓋腱反射や圧迫テストなど授業で習ったことをしていた。また黄疸が見られる猫の原因を調べるために、X線やエコー検査をしていた。X線画像では黄疸の原因ではないらしいが銃弾がみられた。さすが銃社会と思いました。エコーでは大量のジェルを使い念入りに検査していた。

・ Exotics 8月18、19日

今回の Clinical Rotations の中で Exotics を一番楽しみにしていました。学生の Allison や Joseph はとても親切に教えてくれました。Dr. Diverse のカエル柄のサージはとても奇抜で印象的だった。入院しているフェレットの給餌を手伝わせてもらった。また、総排泄腔が脱出しているニワトリが来院した。手術して治療するのが一番よいらしいが治療費が高いため、飼い主は安楽死を選択した。飼い主立会いのもと安楽死を実施した。しょうがないのはわかるが複雑な気持ちになった。避妊手術後の再検査のために亀が来院した。亀はとても大きかった。採血を手伝わせてもらった。頸静脈からの採血だったが亀はすぐ頸を縮めて頭を引っ込めようとするので大変そうだった。また、入院しているワシにカテーテルを留置するところを見せてもらった。翼下静脈への設置はかなり難しそうだった。

2日目は、リンパ腫のフェレットの手術を見学した。麻酔の導入は麻酔科の Dr. が行っていた。手術では脾摘やリンパ節の部分切除によるバイオペシーを行っていた。手術は分業体制で効率よく行われていた。入院していたワシを安楽死させる前に学生たちがワシで腹腔鏡や腎バイオペシー、骨髄穿刺の練習をしていた。私たちにも練習させてくれた。腹腔鏡で心臓や肺、腸管、腎臓の観察をした

り、腎バイオペシーを行ったりした。学生や Dr. たちは丁寧に教えてくれ、日本ではできないことを学ばせてもらいうれしかった。

・ Small Animal Internal Medicine

8月23、24日

学生の Geoffrey のもとで見学させてもらった。基本的に学生が1人でオーナーと動物が待つ診察室に入り、問診や身体検査などを行っていた。その後、Dr. らと共に問診の内容を確認しながら疑われる疾患や必要な検査、今後の処置について話し合っていた。その後 Dr. と学生はオーナーに説明していた。吐血を繰り返すイヌが来院したが、まずオーナーに問診を行い、口腔内検査や tidal-wave の測定、X線、血液検査など行い原因を探った。検査結果をもとに学生と Dr が話し合い、真菌症が疑われると結論を出し、それをオーナーに説明していた。他には銅中毒による肝臓疾患がみられるイヌや、腹水が貯留しているイヌ、排尿困難なイヌなどを見た。

Small Animal Internal Medicine の人たちは私が見学した Service の中でもとくに親切にしてくれた。疑問に思っているところを丁寧に説明してくれ、Google を利用して翻訳してくれたのでとても助かった。

・ Community Practice 8月25、26日

本当は Behavior Animal を希望していたが予約が入っていないため、Community Practice を見学することになった。Behavior Animal を楽しみにしていたのでとても残念だった。Community Practice はいわゆる地域の動物病院で避妊や去勢、予防接種、歯科治療など一次診療を主にやっている。ここでは学生が Dr. や VT のサポートにより手術を行ったりワクチンを投与したりしていた。

・その他

Clinical Rotations で決められていた Service は上記の4つだが、興味があった Large Animal や Pathology も直にお願いしに行ってみ学させてもらった。

< Home Party >

多くの人たちに歓迎してもらい、とても心が温まりました。とくに思い出深い2つの Home Party について書きます。

・ Game Night&Dinner – Malorie House

Malorie と夫の Michael にはこの研修の間中ずっとサポートしてもらい大変お世話になりました。Malorie はジョージア大学の4年生で、2010年の3月には北里大学に研修にも来ました。また、彼女は日本のカルチャーが大好きで、家にはたくさんの日本のマンガやアニメ、ゲームがコレクションされていました。コレクションの量には驚きました。また、おしゃれな部屋にアニメのポスターが貼ってあり、面白かった。

Malorie たちはボリュームたっぷりの手料理でもてなしてくれました。Cat fish の揚げ物やボイルピーナッツなど初めて食べるものもありましたがとてもおいしかったです。また食後はボーダーコリーのルミやサヤと一緒にフリスビーをやったりしました。Michael がフリスビーの投げ方を教えてくれたけれど、投げたいところに飛ばせず、かっこよく投げるのは難しかったです。ほかには大画面のTVでWii Sports やマリオカートをやりました。わあわあ言いながら、とても盛り上がりました。あっという間に時間が過ぎて行きました。

後日、このときの Home Party の写真を写真立てに入れてプレゼントしてくれました。この写真を見ると、みんなとびきりの笑顔で楽しかった研修を思い出します。

・ Clarke Lake – Dr.JoshuaVonSzalatnay

Dr. Joshua はジョージア大学の卒業生で、Dr の別荘に招待してもらいました。別荘はノースカロライナ州にある湖のそばにありました。湖は十和田湖以上に広く、あんなに広い湖は初めて見ました。また、水面がキラキラしてきれいでした。Dr. Joshua が運転してくれた船で湖の中央に移動して水上スキーやボディボードに乗り、船で高速で引っ張ってもらいました。最初は湖に落ちたら怖いなと思っていましたが、とても Exciting でした！！日本でもやる機会があったらまたやりたいです。ほかにはカヌーを漕いだり、泳いだりと水遊びをして楽しみました。アメリカンバカンスを満喫することができました。

< 観光、遊び >

・ Outlet

Coach や Abercrombie&Fitch があり、かなり安かったので興奮してつい衝動買いしてしまいました。アバクロはユニクロ以上に安かった。みんなアバクロで服を買っていた。本音を言えば、もう少しゆっくり見たかったです。

・ Coca Cola Museum & CNN

州都のアトランタまで車で約2時間かかった。Coca Cola Museum では世界のコーラが試飲し放題だった。アフリカの国々のコーラは不思議な味がしておいしくなかった。コーラ誕生に関する4Dのショートムービーを見た。4D用のメガネをくれたが日本人の低い鼻にはフィットせずよくずり落ちた。CNNではお昼ご飯を食べた。ツアーに参加しなかったのが1階しか見られなかった。ご飯屋さんはかなり充実していた。サラダ選び放題の店でサラダとタコスを食べた。日本にもこんな店がほしいなと思った。また、アイ

スを食べた。アイス屋さんには変な色のアイスが多かったが無難な色のアイスを食べた。

・カラオケ

VOICE クラブの学生たちと交流した。アメリカの学生たちは歌っている間も後ろで踊っていて、ノリノリでハイテンションなので、ただただ圧倒された。ビデオで撮影したいくらいだった。私たちが必死でがんばり、モーニング娘の LOVE マシンを振りつきで歌った。日本でもカラオケには普段、行かないのでさらに緊張した。また、苦手分野ということもあり、今回の研修の一番のヤマ場だった。

・ Mall of Georgia

中にはメリーゴーラウンドやバンジージャンプみたいな遊具があり Mall の広さにびっくりした。お昼はチキンバーガーを食べた。Forever21 でアクセサリや GODIVA でチョコをお土産にたくさん買った。アメリカでしか買えないと思うとついつい買ってしまっていた。

・ Nature Walk

Justine (アメリカ育ちの日本人でジョージア大学 4 年生) や Malorie と近くの森林公園を散策しながら、カエルやヘビなどの生き物を探した。ホタルもたくさんみることができた。Justine は爬虫類が大好きらしく片言の日本語でとても興奮していて面白かった。たくさん歩きまわったが、子供みたいにはしゃげて楽しかった。

・ Georgia Aquarium

世界最大の水族館と聞いていたのでとても楽しみにしていた。ハンマーヘッドやジンベイザメなど色々なサメやマンタ、カラフルな魚が多く見ているだけで楽しかった。日本の

水族館はブルーを基調とした内装が多いが、Georgia Aquarium の内装はとてもカラフルで新鮮だった。

バックヤードツアーは思っていた以上にしっかりと裏側を見せてもらえたので面白かった。巨大水槽の全貌や、治療室、稚魚の育成、海水を作るのに使っている Instant Ocean などを見せてもらった。

<その他>

・ホテル

8 月 14 日から 8 月 26 日までは大学近くのジョージアセンターに宿泊した。宿泊費の約 620 ドルはチェックイン時に払った。2 人部屋でベッドはキングサイズでとても広かった。部屋には冷蔵庫や電子レンジがついていたのでとても便利だった。またホテルにはコインランドリーやフィットネスもあり、なかなか快適でした。

最終日の 8 月 27 日はアトランタ空港近くのホテルに宿泊した。このホテルにはプールも付いていた。みんなでプールで遊び、とても楽しかった。

・スーパー

放課後などにこまめに連れて行ってもらえたのでとても助かった。Wal-Mart や PubliX、Kroger など様々なスーパーに連れて行ってもらった。いずれのスーパーも果物や野菜の種類が豊富で、値段も安かったので嬉しかった。食料品は基本的にはまとめ売りなのでみんなで割り勘して買っていた。ハーゲンダッツやスターバックスのアイスもたくさんあった。全部買いたくなかったが、ホテルの部屋に冷凍庫がなかったのでたくさん買えず、残念だった。また、大学周辺のスーパーではジョージア大学グッズが学内の Book Store よりも安く買えた。また東洋人向けの

スーパーには、日本の食材（お茶、豆腐、納豆、キムチなど）やお菓子も売っていたが少し高かった。

<最後に>

自分の英語力に不安を抱えたままアメリカに来て、何ができるだろうかと思っていました。最初は英語でうまくコミュニケーションできない自分をもどかしく感じる事が何度もありました。しかし、ジョージア大学の Dr. や学生は嫌な顔ひとつせず私のつたない英語での質問に、丁寧に答えてくれ本当に嬉しかったです。筆談や電子辞書、ボディランゲージを利用しながらのコミュニケーションは大変でした。しかし、伝えようとする努力が一番大切だと感じました。自分から一歩を踏み出さないと何も始まらないと思いました。

今回の研修を通して、アメリカの学生たちの意欲の高さ、努力を惜しまない姿勢に本当に感化させられました。日本での自分の学生生活を見つめ直すと、残り少ない学生生活は何事にも全力投球して悔いのないように過ごさなければいけないと思いました。

最後になりましたがこの研修は多くの人達に支えられて実現しました。まず、この研修に快く送り出してくれた母に感謝したいです。またこの研修の準備をして頂いた北里大学の先生方、英会話の Lesson の Betty 先生、Malorie&Michael、Haruka、Justine をはじめとするジョージア大学の方々に感謝します。そしてこの 2 週間をともに過ごしたジョージアメンバーに深く感謝します。ここでは書き尽くせないほど密度の濃い 2 週間を過ごすことができたのはジョージアメンバーのおかげです。本当にありがとうございました。

Dear all the people in UGA

Thank you for wonderful 2weeks. I never forget this 2 weeks.

I could have a great experience and learn many things.

I appreciate for everyone who supported me.

Thank you!!!

Sonoko Ichikawa

井手 夏希

[初めに]

私は北里大学にはアメリカ研修のシステムがあると聞いたときから、ずっと参加したいと考えていた。参加した目的は、日本よりも進んでいるというアメリカの獣医療を実際に見ること、獣医療を学ぶ学生の姿勢や大学の雰囲気は日本とアメリカでどのように違うのかを知ることだった。また、日本ではできないことを体験したい、アメリカの文化に触れたいと思っていた。

出発前にはアメリカでの生活や英会話など色々な不安あったが、実際に行ってみるとアメリカでの 2 週間はあっという間に過ぎていた。終わってみると、本当にアメリカ研修に参加して良かったと思う。

[病院研修について]

8.17

病院研修の初日は Animal Behavior だった。その日には診察はなかったため、ドクターと学生、私と鹿児島大学の学生で講義を受けた。内容は行動修正法についてだった。馴化や条件付けについて、犬の問題行動、猫の問題行動についてドクターと学生が discussion しながら進んでいった。また、実際にネコを

用いてクリッカートレーニング、ハンドリングについて説明してくれた。内容としては、北里大学で動物行動学の講義で学んだことのあるものであったが、英語で説明されると理解できない部分も多かった。Animal Behavior の診察の様子を見ることができなかったのは非常に残念だった。

Animal Behavior は2時間くらいで終了してしまったため、ドクターが Community Practice Clinic を紹介してくれたため、その見学をした。そこでは地域の患者に対して一次診療を行っており、健康診断、ワクチン接種、避妊・去勢手術などを行っていた。避妊・去勢手術を見学したが、術者と麻酔医のみで助手はおらず、どちらも学生が行っていた。日本では実習用の動物以外で実際の患者に対して手術することはないので、日本とアメリカの違いを感じた。学生が飼い主への問診、検査、診断および治療方針まで考えて行い、最終的にドクターと話し合っただけで決定していた。

8.18-19

Emergency Critical Care だった。この科では特に重篤な症例についてのケアや手術前後のケアを行っており、手術は他の科で行うと言っていた。研修を行う前は、Emergency Critical Care では人間の病院のように救命救急を行うというイメージを持っていたが、それとは違っていた。来院する患者は1日0～20件程度で、平均すると5件程度であるということだったが、私が研修でいた2日間、スタッフは常に忙しそうに動いていた。ドクターは4人いて、それぞれ担当の時間が決まっていた。Dr. Koenig は2年前に北里大学を訪れて講義をしたこともあるらしく、忙しい中でも非常に親切に対応してくれた。空き時間にはドクターと学生でそ

の日のテーマについて discussion していた。飲み物やおやつを食べながら自由な雰囲気で行っていたが、学生は皆積極的に発言していた。一日目のテーマは心不全、二日目のテーマは症例報告を含めた腫瘍についてだった。症例についての説明や discussion の間、Dr. Koenig が筆談を交えてくれたおかげで理解できることが増えたと思う。腫瘍や心不全、発作などの症例を見たが、その検査や処置などを学生も実際に行っていた。

X線検査や超音波検査などは他の科で行っており、検査が必要であれば患者をそこに連れて行っていた。超音波検査中にもずっと、ドクターが学生にその患者について discussion も交えながら説明していた。

8.23-24

Large Animal Medicine だった。朝、案内された部屋に入ると学生とドクターで meeting をしていた。馬の蹄病などについて話していたが、詳しいところまでは理解できなかった。

患者はほとんどペットの馬で、牛はほとんどいないということだった。私は主に Large Animal Surgery の学生についていた。それぞれの患者を一人の学生が担当しており、飼い主への問診から治療までドクターと協力しながら行っていた。入院している馬の世話、Emergency で来院した馬の治療、馬の破行診断、X線撮影などの様子を見学した。空き時間には診療センター内を自由に見て回り、大動物の他の科の診療も見学した。印象に残っているのが起立不能のアルパカのリハビリで、アルパカがちょうど入るくらいのサイズのケースに水を満たし、その中に入れていた。アルパカもたまに来院するらしく、入院しているものもいた。

日本では大動物といえば牛などの産業動物

が主体で、これまで馬については大学で講義を受けただけで実習でも少し見ただけだった。馬の診療について見る事ができて良かったと思う。しかし、私がいた2日間には馬の手術がなく、見る事ができなかったのが非常に残念だった。

Large Animal Medicineの学生はみんな親切で、英語がわからない私に、できるだけわかり易いようにゆっくりと発音してくれた。

8.25-26

Pathologyだった。午前中はディスカッション顕微鏡を用いて、いくつかの症例について主訴、血液検査結果などを参考にしながら標本を鏡検していた。まず学生だけでdiscussionして診断し、その後にDr.が加わって鏡検しながら解説していた。その日によってテーマが決まっており、10日間くらいのカリキュラムとなっているということだった。一日目のテーマはrespiratoryで、炎症や腫瘍などの症例があった。私の病理についての知識が乏しいことと言葉の壁によって理解できないところが多かった。discussionが終わった後、学生の一人が翌日のテーマについての資料をホームページで見ることができると教えてくれたが、私がインターネットを使えないことを伝えるとわざわざプリントアウトしてくれた。さらに、その日の昼食のGVMA BBQの場所や午後からのnecropsyについて教えてくれた。

二日目のテーマはsynovial fluidで、前日に資料をもらうことができたので理解できる場所が増えて良かった。

午後からはnecropsyだった。まず1時間程度のミーティングを行っていた。前日の症例についての報告を行い、次いでその日に剖検を行う症例について確認していた。剖検は主に学生が行い、Dr.がアドバイスしている

感じだった。私が見学した2日間には、犬、猫、鳥、豚、羊の剖検を行っていたが、他に馬やアルパカ、ウサギなどもくることがあると言っていた。日本では剖検といえば牛、馬などの家畜がほとんどだと思っていたので、ペットである犬や猫の剖検を行うイメージがなく興味深かった。北里大学の獣医病理学研究室の学生に聞いてみたところ、最近ではたまに犬や猫の剖検を行うことがたまにあると言っていた。

Pathologyはもともと希望していた科ではなかったが、思っていたよりも興味を持って見る事ができた。

まとめ

7日間のClinical rotationの間に、私は4つの科で研修を行った。もっと他の科も回ってみたいという気持ちもあり、特に日本では見る機会のないExoticsはぜひ見てみたいと思っていたので、見る事ができなかったのは残念だった。それでも限られた時間の中で、自分なりに有意義な研修にできたと思う。

研修を通じて、実際に症例についても学んだが、日本とアメリカの獣医療における相違点が興味深かった。まず、アメリカの大学病院で日本と違ったのは、完全に診療科が分かれていることだった。完全に分業化されているが、それぞれの診療科の間はしっかりと関係が取れているという印象を受けた。

日本の獣医大学では学生は一つの研究室に所属するが、ジョージア大学では3年生の途中の3月から翌年の4年生の5月までの間に、病院のすべての科を3週間ずつローテーションで回ることになっているということだった。日本の大学病院では、学生ができることの範囲は狭く、実際に飼い主への問診や検査、治療や手術を行うことはできず、これらの補助を行うのみである。北里大学では、臨床系

の研究室に所属している学生以外は、動物病院での実習は小動物と大動物を合わせて3週間だけであり、実際の臨床の知識や技術を習得できる機会は少ないと思う。アメリカの学生は飼い主へ問診や検査、診断や治療方針を立てるところまで行い、自分で考えるという意識の高さを感じた。また、ドクターも学生に対して教育するという意識が高いように思った。アメリカと日本では獣医学教育におけるシステムだけでなく、学生や飼い主、ドクターなどの意識にも違いがあるのだと感じた。今回のジョージア大学での研修を通して、これらの違いを実際に感じる事ができ、自分にとって非常に良い経験になったと思う。

[その他]

病院研修だけでなく、それ以外の時間もとても良い時間を過ごす事ができたと思う。8.14,15、20-22、27,28には病院研修はなく、大学周辺やアトランタなどの観光をした。アウトレットモールや大きなショッピングモール、World of Coca-Cola、CNN、カラオケ、Clarke Lake、Georgia Aquarium など様々なところに行ったが、どれもとても楽しい時間を過ごす事ができた。

特に Clarke Lake が印象に残っている。Clarke Lake は大学から車で2時間くらいのところにあり、ジョージア大学の卒業生の Dr. Joshua が招待してくれた。天気にも恵まれ、カヤックに乗ったり、浮き輪のようなものに乗ってボートで引っ張ってもらったり、湖の岸で美しい景色を眺めながらボーっとしたり、ゆったりとした時間を過ごした。日本で水遊びをする機会は久しくなかったこともあり、本当に楽しい一日だった。

また、Georgia Aquarium は一般に見ることができる展示だけでなく、水族館の裏側も見学させてもらう事ができた。最も大きな

水槽にはジンベエザメやマンタなど多種多様な生き物がおり、その水槽を上からも見ることができたのが感激だった。一般の展示の仕方も日本の水族館と違って様々な工夫が成されていた。生息地などのテーマごとに異なる5つの展示エリアがあり、ただ水槽があるだけでなく周りの雰囲気もテーマに合うように装飾されていた。もっと長い時間見ていたいと思わせるような場所だった。

病院研修がある日の夜にはドクターがホームパーティーに招待してくれたり、学生が Athens Zoo を案内してくれたり、Botanical Garden でのネイチャーウォークに連れて行ってくれたりした。

ジョージア大学の学生の Malorie とその旦那さんの Michael には特にお世話になったと思う。空港まで迎えに来てくれたり、ショッピングモールや Clarke Lake などに連れて行ってくれたり、ホームパーティーに招待してくれて一緒に TV ゲームをしたり、どれもとても印象に残っている。

ホームパーティーを開いてくれた Dr. Corrie Brown、Dr. Koenig、Dr. Bob Gogal、Dr. Carmichael の家はどこも広くてきれいでおしゃれだった。家の中を見ているだけでも楽しく、庭にプールやバレーボールのコートがある家もあった。ディナーはサラダやチキン、パスタ、デザートにはフルーツ、ケーキ、ブラウニーなどアメリカンな料理がたくさんあり、どれも本当においしくてついつい食べ過ぎてしまった。

病院研修の最終日に Dr. Carmichael の家で行われた Farewell Party では、お世話になったジョージア大学のドクターや学生がたくさん集まってくれていた。Dr. Carmichael は初日に撮影した集合写真を全員にプレゼントしてくれた。また、Malorie と Michael は、ひとりひとりに写真立てとミサンガをプレゼ

ントしてくれた。このようなすばらしいプレゼントを用意してくれているとは全く予想していなかったので、本当にうれしかった。

[英会話について]

私は英会話のスキルは非常に乏しく、出発前の半年ほどアメリカ人講師の Betty さんに英会話のレッスンを受けてはいたが、英会話には全く自信がなかった。アメリカに行っても相手の言っていることが理解できず、また自分の伝えたいことも伝えることができない場面がたくさんあった。日常の英会話も不十分なのに、専門用語が加わると余計に理解できなくなった。それでも自分なりにコミュニケーションをとろうと努力することはできたと思う。あの時もっと積極的に話しかけたり、行動したりすれば良かったと後悔することもあったが、研修を終えてみるとそれが私の精一杯であったのではないかと思う。正しい英語でなくても、積極的にコミュニケーションをとろうとする姿勢が大切であるということを学んだ。

[最後に]

2週間のアメリカでの生活を通して、たくさんの貴重で忘れることのできない経験をすることができた。獣医療についてだけでなく、アメリカの文化や英語でのコミュニケーションなど日本ではできないことを知り、経験することができた。また、アメリカで獣医療を学ぶ学生を実際に見たことで、これまでの自分の大学生活を振り返り、獣医療を学ぶ姿勢などについて様々なことを考えさせられ、アメリカの学生を見習いたいと思う部分もたくさんあった。今回の研修での経験は、残りの大学生活や卒業後の生活に生かしていくことができたら良いと思う。

今回のアメリカ研修ではたくさんの方々に

お世話になった。有意義な研修にすることができたのは、研修の準備や同行してくれた北里大学の先生方、ジョージア大学の先生方と学生はもちろん、英会話のレッスンを担当してくれた Betty さん、鹿児島大学の白石先生など、たくさんの方々のおかげだと思う。この研修に関わった全ての方々に本当に感謝の気持ちでいっぱいです。また、一緒にアメリカで過ごした9人のメンバーのおかげで楽しい2週間を過ごすことができた。ありがとうございました。

Dear everybody in UGA

Thank you very much for all of your kindness and support. I had wonderful time in Georgia.

During my stay in UGA, I could not only learn veterinary medicine, but also feel there are many differences in veterinary medicine between USA and Japan, including education system, attitude of students. In addition, I enjoyed American culture like food, play and conversation with people in UGA.

I was glad that people in UGA were patient with my limited English and explained to me in plain English.

All experiences in UGA are very precious to me, and I'll never forget the memory.

Thank you.

Natsuki Ide

石田 理能

・はじめに

私が Georgia 大学研修に行くことにしたのは、まず始めにアメリカの獣医医療と日本

の獣医医療との違いを見てみたいと思ったこと、日本では経験できないことを経験してみたいと思ったこと、世界最大といわれる Georgia 水族館の裏側が見られるということ、大浪先生の Exotics 科の説明に惹かれたことなど様々な理由が重なったためでした。私は Exotics を一番見てみたいと思い、その他は Behavior や臨床系の科に希望を出しました。しかし、日本にいる間は見学するかは決定しておらず、Georgia に行ってからそれぞれ行く科について知ることになりました。希望の科に配属されていなかった人もいたため、全員の日程を変更してもらい、また、その日その日で見学する科を応相談で変更したりもできました。けれど、私の予定に組み込まれていなかったはずの Theriogenology が変更によりなくなってしまいとても残念でした。

・ Georgia 大学にて

Georgia 大学を案内してもらい驚いたことは、リスがそこかしこに走り回っていたこと、大学内がとても広く迷ってしまいそうだったことでした。アメリカの定番の遊びなのか学生の多くがフリスビーで遊んでいました。

大学内はバスで移動するくらい広く、ダウンタウンは大学を出てすぐにありますが、獣医学部があるところからは非常に遠かったです。

私たちが研修に行った同時期に獣医学部の新入生の入学があり、新入生の welcome party に私たちも参加しましたが、文化の違いをまざまざと感じさせられました。

・ 診療科について

私は以下の予定で診療科を見学しました。

Exotics...1 日

Behavior (Clinical Practice Clinic)...2 日

Oncology...2 日

Large Animal...2 日

< Exotics >

アメリカに行きたかった一番の理由である Exotics が記念すべき 1 日目に行くことになりました。

Exotics ではそこに配属されている学生について診察を見学させてもらうことになりました。Exotics には 3 匹のフェレットが入院しており、すべて Adrenal tumor でした。1 匹はこの日の朝に容態が急変し安楽死することになり、もう 1 匹は外科手術により切除されたけれど手術は見学できませんでした。

その他に保護されてきた Wild Life の Baby Rabbit と Baby squirrel、鳥がいました。また、診察の終了間際に Wood Pecker が新しく保護されてきて、Exotics は何でも見るんだなと感じました。

午後には朝安楽死したフェレットのネクロプシーを見学しました。ネクロプシーにはその他に、モルモット・カメ・子犬・インコがいて見学させてもらいました。

診察後は学生とドクターで Meeting を行い、学生が担当している患畜についてそれぞれ報告し、それに対してドクターが評価・アドバイスをしていました。Meeting は 1 時間半くらいで患畜数は少ないものの 1 つの症例に対し詳しくドクターの評価がもらえ、働く上での知識が身に付くのに役立つのだろうと感じました。

1 日だけでは Exotics の魅力を充分感じる事が出来ず、もっともっと見学したいと思いました。先輩方で動物園への診察について知っている人もいたらしいので、そういった診察もなかったのはとても残念でした。

< Behavior >

行動学は北里大学でも講義を受けとても興味があったので、アメリカで見学するのはと

でも楽しみでした。

Behavior は基本午前だけの診察でした。**Behavior** は患畜の数が非常に少なく、1日に2件が限度とのことでした。1日目も患畜は1件で、シェパードの問題行動についての診察でした。主訴は極度の怖がりのためすぐ攻撃的になってしまうということで、今までも治療を受け、経過の報告を兼ねての診察のようでした。診察はドクターとオーナー、トレーナーが主に会話する形で現状を把握し、配属されていた学生がメモを取る感じで進められていました。会話はほとんど断片的にしか聞き取れなかったので診察が終わったあとで、治療などについて聞きなおして多少の理解が出来ました。治療のためのトレーニングはトレーナーが行っているようで、トレーナーがビデオを記録しドクターに報告評価をしてもらっていた。トレーニングは大学で行うと高くなってしまうというので、あまりやられないとのことでした。時折、ドクターが学生に **Teaching test** をしていて、大学の勉強という感じがしました。

2日目では患畜はなく、ドクターの講義を学生と一緒に聞かせてもらいました。**Aggressive** になる要因・外貌的特徴についての講義でした。講義の際、イラストである程度わかりやすくなっているものの、ボキャブラリーの少なさからあまり理解が出来ず、また学生に質問して噛み砕いて教えてもらいました。また、学生はクマの行動学についてのレポートをドクターに報告していました。その内容は動物園においてどのようにしたらストレスのないよりよい生活を送らせることが出来るかということとても面白そうでした。

講義の後は学生のペットのブルドックの問題行動の矯正を、学習を兼ねて行いました。このブルドッグはとても人懐っこく、元気で

したが落ち着きがないことが問題で、散歩中に人が歩いているとリードを引っ張り寄っていきこうとしていました。リードを引っ張る行動に対しては特別なハーネスを用いて引っ張りを防止させていました。他にも、北里大学での講義で紹介されたクリッカートレーニングも間近で見ることができ、とても勉強になりました。

Behavior は両日とも午前中のみで終了してしまっただけ、併設されている **CPC (Community Practice Clinic)** を見学させてもらいました。**CPC** は特殊診療科というよりも一般病院のようで主に1次診療を行っているように感じました。手術は避妊や去勢手術を多く行っているようでした。また歯科もあり、歯石除去なども行っていました。ここでは、学生が主に診察に入り、診断まで行いドクターに報告して評価してもらっていました。学生の中には『**That's good!**』とドクターに言われるなど、自分で考えて動くというアメリカならではの学習スタイルだと感じました。**Mast cell tumor** や腸炎、脱毛など様々な症例が来院していて、大学で勉強した皮膚のスクラッチテストなどを行っていました。ここでは、自分から質問しないとほとんど放置されてしまうけれど、しっかり質問すると丁寧に説明をしてくれて、自分から動くことの大切さを実感しました。

< **Oncology** >

Oncology にはドクター4人、学生2人所属していて学生の一人について見学しました。患畜は様々いて、リンパ肉腫のコッカースパニエル、**Mast cell tumor** のゴールデン、リンパ節が腫れているビーグルなどを観察した。**Oncology** ではまず腫瘍の大きさを測定し、直腸内を検査し転移の有無を調べたりしていました。採血や血液検査はここでは主に **VT** が行っていました。診察に入ったとき、

まず学生が **History** を聞きカルテに記載、患者をつれてドクターと話し合い、その後の治療方針をドクターがオーナーに説明するというスタイルをとっていました。

1日目の午後は **Oncology** をでて、**Neurology** に少しだけお邪魔させてもらいシェパードの歩行検査を見学しました。歩行検査後、数人の学生がドクターの周りに集まり各々の意見を述べたり、ドクターからの質問に答えたりと授業のような様子も見られました。そのあと内視鏡を使って検査を行っている部屋に案内され、猫のフレキシブル内視鏡検査を見学しました。猫のドキシサイクリンによる食道狭窄の確定診断のための検査のようでした。また、一通り観察したあと、内視鏡を使って胃瘻チューブの設置を行っていました。

< Large Animal >

アメリカでは **Large Animal** といった馬が多く、ペットとして飼っている家がほとんどでした。見学した最初の症例は、内腿付近に木の枝が刺さっていて除去してその消毒を行っているところでした。その後跛行検査に移動しました。跛行検査では大動物の実習でやっていたことと同じことを行っていましたが、異常があるかどうかは全くわかりませんでした。緊急で、柵でお腹を裂いてしまった子馬が運ばれてきて手術の準備をしていたので、見学をさせてもらいました。馬の麻酔時に倒馬をするための専用の部屋があり、四方を大きなスポンジの移動式のクッションで取り囲んでおり設備が整っていると感じました。倒馬させたら、四肢を持ち上げて天井から吊るして手術台に運んでいてとても迫力がありました。馬の手術は初めて見たけれど、私が見てきた牛の手術風景と大きく違って驚きました。この仔馬は盲腸が外部に露出して壊死していたため切除ということになってしまいました。手術室の外の見学用の窓か

らオーナーが心配そうに見つめていて、とてもいたたまれない気持ちになってしまいました。手術室は2箇所あり、もう一方の手術室では腸捻転の手術が行われていました。どちらの手術もまわりにたくさんの人がいて遠目にしか見学できなかったのが残念でした。

足の手根・足根関節の治療中の馬に抗炎症剤を注射している学生に、いつも注射しているのか質問したら今回は初めてということを書いていたので、なんだか身近に感じました。大動物は他にアルパカや羊、山羊もいましたが、今回の研修では見学しませんでした。また、大動物では、他の国の獣医がわざわざ見学に訪れているようで、大学の診療は学生でなくても **welcome** な体制がとても雰囲気が良いと感じました。

・その他の時間について

平日の病院実習が終了して各診療科のドクターが **home party** を開いてくれました。先生方の家にお邪魔し、手料理を振舞ってもらい、とても有意義な時間がすごせました。このパーティのおかげでドクターとゆっくり会話することが出来たと感じられました。

また、学生の **Justine** にお願ひしたら去年先輩たちが連れて行ってもらった **Nature Walk** を案内してもらうことが出来ました。そこでは **crawfish** やトカゲ、ヘビなどが見つけられました。

休日には **Coca Cola museum** を見学したり、学生のマロリーの家にてゲームで遊んだり **Mall of Georgia** にショッピングに行ったり、湖でクルージングなどをして遊んだり、私のお目当ての **Georgia** 水族館に行ったりと様々なところに連れて行ってもらいました。

Georgia 水族館ではある程度普通に見学したあと、裏側を案内してもらいました。水族

館は見せる工夫がたくさん施され、ふれあいコーナーも多数設置されていて生き物を身近で感じさせる展示になっていて、最大の水族館であるというのに納得してしまいました。滞在時間が短かったため、見学できていない箇所もあり残念でしたが、十分楽しむことが出来ました。

・最後に

この2週間の実習において、アメリカの教育方針の違いとそれに対するオーナーの受け入れ方が実際に見て感じられたのでとても勉強になりました。日本において大学病院で実際に診察するのは先生で学生は補助的な立場でしかないが、Georgia 大学を含めたアメリカの獣医科大学では、学生が一人ひとり問診を行い診断・治療方針まで考えそれに対して先生がアドバイスを与えるといった補助的な立場を取る教育が実施されていました。これは、アメリカのほとんどの獣医学生が臨床方向に進むため、より実践的な教育が役に立つのかもしれないと感じました。また、アメリカでは女性の獣医が多く、Georgia 大学で指導を受けた診療科すべてに女性のドクターが所属していることに驚かされた。アメリカの教育方針では、学生の自主性、責任感、考察力が自然に養われていくと思いますが、今私たちが受けている日本の教育について私はまだまだ知らない、理解していないことが多く存在しているということに気付かされ、外にばかり目を向け、自国のことをもっと知らなければならぬと感じました。

この研修で得たものはこれから私にどのような影響を与えるかはわかりませんが、生かしていければ良いと思います。

Dear all the people in Georgia,

Thank you for your kindness, so I had very wonderful time in this 2 weeks.

I felt differences between various culture and educations, etc. in the UGA.

The experience here is to become provisions of my study in the future.

I am not good at speaking English, but people in UGA spoke slowly very kindly.

I never forget you and I am looking forward to seeing you all someday

Thank you so mush!

Ayano Ishida

片山 こむぎ

8月14日

今日は待ちに待った海外研修出発の日！！朝 5 時 50 分に十和田を出発して新幹線で成田空港へ。北里のみんなと柿崎先生と合流しスーツケースを預け、その後鹿児島大学の白石先生と猿くんと合流。軽く自己紹介をし、15 時 30 分のデルタ航空便で Atlanta 空港へ。機内は清田さん（麻美）と隣同士だったので気楽に過ごせた。最新の映画も観れたし、ずーっと寝ていたのですぐに着いた。

16 時（アメリカ時刻）、Atlanta 到着。天気は雨だった。空港までマロリー、マイケル、セリーヌの 3 人が迎えに来てくれた。マロリーとは久々の再会で緊張したけど嬉しかった。そのままマロリー達も含めて全員で近くのスーパーマーケットへ行き、食料を買った。アメリカの食品はサイズが大きいものばかりで驚いた。

その後、Georgia Center へ。ルームメイトの小松さん（しほちゃん）と部屋に入ってみると歓迎の意を込めたプレゼントが置いてあった。みんなで夜ご飯を食べ、今後に向けてのミーティングを行った。

8月15日

今日はマロリーに連れられて、アウトレットに行った。日本だと高い物でもかなり安く買えた。お昼はハンバーガーを食べた。アメリカのハンバーガーはお肉がずっしりしていて食べ応えもあり、すごくおいしかった。一人でアメリカンサイズのハンバーガーセットを食べきれたことに驚いた。16時頃からはみんなでダウンタウンへ行き、ジョージアグッズがたくさん売っている店や、ピザショップへ行った。ピザもおいしかったし、お土産も買えて楽しかった。

ダウンタウンから Georgia Center までは大学内を散策しながら歩いて帰った。Georgia 大学は日本の大学とは違ってかなり広がった。大学内にスタジアムがあったり、バスも通っていたり、またキャンパス内に野生のリスがたくさんいたり、日本の大学とは違うところが多くて、とてもうらやましく感じた。

8月16日

今日は朝 10 時 50 分にホテルのロビーに集合して獣医学部内をシリーズに案内してもらった。学部内は広くて、多くの科に分かれていて環境が整っていた。大動物では牛を大きな保定器に入れて、それを牛ごと回転させて体全体を調べる装置があって日本とのスケールの違いに驚いた。牛小屋も一つ一つ十分な広さがあった。その他には小動物の科を案内してもらった。その後、学部長の Sheila Allen、副学部長の Dr. Carmichael と会い、昼食を食べた。その後、スーパーに連れて行ってもらい食料を買った。

大学内に戻ってからは、大学全体のキャンパスツアーをしてもらった。案内してくれた方 2 人共がすごく早口で全然聞き取れなかった。全部は無理でももう少しだけでも聞き取

れるようになりたいと思った。

ホテルに戻ってから Welcome Party までの間に少し時間があったので、みんなで大学内にある BOOKSTORE に行った。その後、Welcome Party に行った。新入生のパーティーだったので 100 人以上の人がいて混雑していて圧倒されてしまった。パーティーがそんな感じでご飯をお腹いっぱい食べられなかったので、パーティー後みんなでご飯を食べなおした。リブやチキンなどを食べ、とてもおいしかった。

明日からは Clinical Rotations が始まるので少し単語の勉強をして、明日に備えて寝た。

8月17日

8 時 40 分ホテルのロビー集合。今日からいよいよ Clinical Rotations !!

Small Animal Internal Medicine

今日は小動物内科に行った。一人だったので初めはかなり心細かった。でもみんな親切な人ばかりでとても丁寧に接してくれた。午前、私を担当してくれたのはジェシカという生徒で 4 回生の方だった。初めは先生なのかと思うくらいしっかりしていたし、獣医学の知識をかなり持っている感じだった。ジェシカには担当している犬がいて、ちょうどその子の診察を見せてもらうことができた。その犬は Mira という名前の雑種で Rocky Mountain Spotted Fever の疑いで来ていた。ジョージア大学では生徒が飼い主さんとマンツーマンで診察していた。ジェシカはとても上手に飼い主さんとやりとりをしていて、日本の学生とはレベルが違うなと強く感じた。飼い主さんと一通りやり取りした後、犬を裏側に連れて行き採血と採尿を行い、そこで Dr に報告し意見交換をし、今後の方針を一緒に考えていた。その後、Dr. とジェシカと一緒に飼い主さんにお話しをし、ジェシカは

会計の場まで飼主さんを連れて行き最後まで見送った。アメリカでは患者に対して生徒も診察したり採血したりできるので、生徒の責任感がすごく強いし、日本も真似したらいいのになと思った。

午後からはジェフと言う生徒についてまわった。ジェフの担当している子は9歳のウエストハイランドホワイトテリアの雌だった。2ヶ月前に排尿トラブルを示し、尿道の肥厚している部分を見つけた。膀胱に石、癌または細菌感染の疑いがあったので、今日は膀胱をエコーで見ることになった。すると、膀胱内に大きなmassがあった。この犬種は移行上皮癌になる確率が高いので、massの様子からも移行上皮癌が疑われると判断された。

15時30分小動物内科の生徒8人と先生1人とのミーティングが始まった。

ミーティングの内容はそれぞれの生徒が担当している患者についてみんなディスカッションすることだった。ミーティングは日本のものとは違ってみんなが意見を出し合う感じで“これぞミーティング”って感じだった。また、途中で先生がいきなりそのままのスモモにかぶりつきながら生徒と話していて、さすがに驚いた。

今日のClinical Rotations 終了。

今日は一人だったということもあり、全て自分で英語を使ってやり取りしないと行かなかった。かなり疲れた。でもみんなわかるまで説明してくれたので本当にありがたかった。かえって一人でいったのが自分にとってはよかったのかもしれない。今日一日で勉強に対するモチベーションがかなり上がったし、もっと英語を話せるようになりたいと思った。今日はかなり充実した一日を過ごすことができた。

8月18~19日

Small Animal Surgery

今日から2日間は小動物外科へ。

朝からオペが何件かあり、その内の一つを見せてもらった。黒ラブのオペで手術内容は脛骨骨折の治療と去勢だった。Dr. 一人と生徒一人でオペを行い、それに加えて麻酔係と外回り担当の人がいた。麻酔はベンチレーターを使っていた。アメリカでは学生も処置していいみたいで、外科では学生がDr.のアシストを受けながらラグスクリューを入れたり、去勢したりしていた。また、オペ中にBGMが流れていたり、人の出入りが自由な感じでかなりオープンで驚いた。

19日はオペがなかったのでExotic科のフェレットのオペを見せてもらった。リンパ腫の疑いで腸間膜リンパのバイオプシーと脾臓摘出のオペを行っていた。フェレットは小さいのでオペが大変そうだった。

8月20日

今日はアトランタにあるコカ・コーラ博物館に行った。アトランタはコカ・コーラ発祥の地だそう。コーラの歴史やコーラにまつわる4Dのアニメーションを見たり、世界各国のコカ・コーラの商品を飲むことができた。ヨーロッパ地域の飲み物は苦いものが多くてまずかった。その他にお土産コーナーも充実していてとても楽しかった。

午後からはCNNへ行った。CNNではツアーに参加しないと見れないところが多くて、お土産コーナーを見るだけで終わった。20時からは大学のthe VOICE & Shelter Med Clubの人達とカラオケに行った。黒人さんが多くてノリがはンばなくてとてもかっこよかった。マイケルとか日本でも有名なアーティストの曲が多くて楽しかった。Clubの人はみんな歌に合わせて即興でダン

スして、まるでショーを観ているようだった。

8月21日

今日は Mall of Georgia へ連れてってもらった。とても大きなところで驚いた。そこで、いろいろ買い物して、そのままマロリー家へ。マロリーの家で夜ご飯をごちそうになり、ゲームしたりフリスビーをして遊んだ。

8月22日

今日は Dr.Joshua Von Szalatnay の招待で Clarke Lake へ行った。湖で泳いだりカヤックに乗ったりして楽しんだ。

8月23日

Exotics

今日は Exotics 科へ行った。これまでの Clinical Rotations は一人だったけど今日は猿くんがいたので心強かった。午前中は親とはぐれた子リスにミルクをあげる手伝いと、ガチョウのレントゲン撮影を見せてもらった。ガチョウに麻酔をかけるところを見たのは初めてだった。犬・猫と同じように挿管されているのを見るとなんか不思議な感じがした。このガチョウはソフトボールがあたり調子が悪くて来院した。レントゲンから翼の骨の一部が折れていることがわかった。鳥のレントゲン画像を見たのは初めてだったのでいい経験ができた。

8月24日

Pathology

今日は Pathology 科へ行った。午前中はみんなで顕微鏡を覗きながら症例検討を行う会に参加した。病理は元々あまり勉強してなかったのと、英語の速さについていけないのとで何の話をしているのかいまいちわから

なかった。しかも、体調が悪くなったため、午後からはリタイヤしてホテルで休むことに...

17時から Justine に連れられ Nature Walk へ行った。Justine は日系アメリカ人なので少しだけ日本語が話せてとても親切にしてくれた。カエルやヘビ、ホタルなどを見ることができた。

その後、そのままみんなでハンバーガーショップへ行った。アメリカのハンバーガーはほんとにおいしくて全然飽きなかった。

8月25～26日

Behavior

今日から2日間は楽しみにしていた Behavior !! のはずだったのだけど、今年の8月は全然診察の予定がなく1件も見れなかった。Behavior 科があまりにも暇だったので、コミュニケーション・プラクティスという地域の診療所みたいなところにまわされた。そこではワクチン接種や避妊・去勢といった一次診療を行っていた。私が行った日も避妊と去勢のオペが行われていた。そこでは避妊・去勢のオペを自発呼吸を残したまま行っていた。

26日の午後は Clinical Rotations の後、お世話になった事務の3人に花束をプレゼントするためお花屋さんに行った。先生を含め全員から集めたお金で花束を買い、3人にプレゼントした。3人共とても喜んでくれて嬉しかった。

その後は Farewell Dinner を Dr.K.P.Carmichael 家で開いてくれた。このパーティーにはこの研修でお世話になった方々が来てくれて、この研修が終わってしまうことがとても悲しくなった。パーティーの最後にマロリーが一人

一人に写真立てとミサンガをプレゼントしてくれた。写真立ての中にはみんなで撮った写真が入っていたりして嬉しかったしマロリーの気持ちが何よりも嬉しかった。本当にありがとう！！

8月27日

今日は Georgia Aquarium の裏側ツアーに行った。オペ室も完備されていて、レントゲンも撮影できるみたい。すごく大きな水槽もありスケールが BIG で内装はエンターテインメント性を重視した感じでとても綺麗だった。

その後、Atlanta 空港の近くにあるホテルへ。今日はアメリカ最後の夜だったので、夜遅くまで飲んだ～～！！

8月28日

日本に帰る日。これまでの楽しかった日々を思い返すと悲しくなってしまった。でも、日本に帰ってからは新しい気持ちで充実した毎日を送るぞ！！と思う！！！！

8月29日（日本時刻）

成田空港到着。鹿児島大の2人とお別れ。この研修を何倍も楽しいものにしてくれた白石先生と猿くんに感謝の気持ちでいっぱい。。本当にありがとう。解～～散～～！！！！

最後に...

私はこの研修に参加して本当に良かったと思う。見知らぬ土地で、しかも外人だらけの中で自分の意思を伝えることは本当に難しかった。もっと勉強しないと～とか、もっと英語話せるようになりたいな～とかたくさんことを思った。アメリカでいつもとは違う風を感じることで気持ちもリフレッシュで

きたし世界観が広がった気がする。

この研修に参加させてくれた家族のみんな、いろいろ手配してくれた北里大学の方々、たくさんお世話してくれた Georgia 大学の方々、そしてこの研修を素晴らしいものにしてくれた Georgia メンバーの9人、柿崎先生、白石先生に心から感謝します。本当にありがとうございました。

Dear Everyone in UGA

Thank you for all of your kindness. I have experienced so many valuable things and had a lot of fun. In Clinical Rotations, I could learn various things about veterinary medicine, such as disease and the way of examination. As I was exposed to American veterinary medicine and came in contact with UGA students, my motivation toward veterinary medicine rose very well. I want to turn the experience of UGA to advantage.

I'm glad to take part in this trip!! Much appreciated. Thank you very much.

Komugi Katayama

小松 志帆

8月14日（土）

朝5時50分にミニストップに集合し、6時55分発の八戸ー東京の新幹線に乗り前日まで研究室があった3人組で東京へ。成田エクスプレスにのり約1時間前に成田空港へ到着。各自チケットを受け取り手続きを済ませ、荷物を預けた後約10万円をドルにかえた。お昼ごはんは全員でスープストックで取り、その後鹿児島大学の方々と合流した。

飛行機の席順が結構離れているという予期せぬ事態もあったが幸い私の隣の席の外国人

の方は凄く親切な方で風量の調節やイヤホンのつけ方など教えてくれた。前日完徹だったということもあり飛行機が離陸する前に眠りにつき気が付くと機内食の時間だった。そんなこんなで睡眠不足も解消され無事アメリカに着いた。

空港に着くとマロリー夫妻が迎えに来てくれていてなんだかほっとした。空港からホテルへ行くまでにスーパー H マートに寄ってもらい水やその日の夕食などを購入した。変わった野菜やフルーツの安さには感動した。

各自夕食をとった後、クリニカルローテーションの希望などを話し合うために広い鹿児島大の方の部屋でみんなで話し合いをし、その日は就寝。

8月15日（日）

各自朝食を取った後、ロビーに集合し、マロリー夫妻に運転してもらいアウトレットに連れて行ってもらった。アウトレットが開く時間まで少し時間があつたので近くのウォールマートで少し買い物をした。お昼ごはんはアウトレットのすぐ横のキングバーガーでハンバーガーを購入した。アウトレットは結構広く走りながらお店をはしごした。中でもアバクロやコーチは日本で購入するよりかなり安くかえたのでしょっぱなから結構な額を使ってしまった。

早めにホテルに戻り全員でダウンタウンへ。ホテルマンにピザの美味しいお店を教えてくださいに行くことに。凄く美味しかったがボリュームにびっくりした。帰りは散歩がてらみんなで歩いて帰った。大学内の公園には沢山リスがいてこれまたビックリ！！

夜は各部屋で団欒し、就寝。

8月16日（月）

各自朝食を取った後ロビーへ集合。少しは

やめの昼食を学校内でとり日本語ぺらぺらのセリーヌに大学を案内してもらった。その後ペトウェーに近くのスーパへ連れて行ってもらい各自必要なものを購入。ここでトラブル発生。なんかやけに高いなと思ったら、アメリカンチェリーをなんと 2kg 近くも購入したことになっていて千円近く多く取られてしまった... 今度からは気をつけよう決心！！

部屋に戻り各自短い休憩を取った後スタジオ前の Book Store へ。ジョージアグッズや本が沢山売られておりここでもつつい本を 4 冊も購入してしまった... 帰りの荷物が大丈夫かどうか早くも心配に。

再びホテルへ戻り、2014 年度生の Welcom party に参加した。人が多くバイキングに並ぶのもやっとだったためダウンタウンで夕食を取り直すことに。お肉料理が多いお店で味は美味しかったけど結構満腹になり胃もたれが・・・そんなこんなで一日が終わり就寝。

8月17日（火）

今日はいよいよクリニカルローテーション初日の日。8時40分にロビーに集合し、全員で大学へ。各自各々研究室へつれていってもらった。今日は病理へ。まず右も左もわからないまま紹介された先生方に挨拶をし、日本人で 2 世の方の坂本さんと日本の話などをしながらコーヒーをご馳走になった。その後、院生の部屋へ連れて行ってもらいパソコンで病理のクイズをした。病理切片を見せて欲しいと頼むと快く見せてくれた。午前中は何をしたらいいかわからないまま終わったが午後 1 時から剖検があると聞き参加したいと頼むと参加できることに。早めのランチを学校内のラウンジでとり剖検へ。まず、先生と生徒全員でその日の検体について話し合いをし、それから各学生が症例を受け持ち

剖検していた。正直話し合いは専門用語は飛び交うし、各々話しているため全くと聞いていいほど聞きとることはできなかったが単語一つ一つを調べて理解しようと頑張った。先生が学生に対して質問したときに日本だと間違いを恐れてほとんどの人たちがわかっても黙ってしまうがアメリカではそれがなかった。先生の質問に対して一人一人が答え、Noといわれることを全く恐れていないのにこうありがたいという憧れを感じた。この日の症例はインコ、モルモット、カメ、イヌ、フェレットの5検体だったが剖検途中で2検体(馬)増え、7検体となった。初めてみる剖検はダイナミックで凄く興味深かった。最後に来た馬は尾部付け根に大きなメラノーマが出来ており、それが脾臓、肝臓、腎臓に転移して死亡した症例だった。まだまだ見たかったが5時からパーティーの予定が入っていたためホテルへ帰った。

この日はDr. コリー・ブラウンの家でホームパーティー。病理の先生ということもあって今日の検体の話などをたどたどしい英語で話しながら夕食を。先生手作りのミートロフ、マッシュポテト、パン、サラダ、ブラウニーはどれも絶品だった。

8月18日(水)

朝いつものように集合し学校へ。今日はエキゾチック。2011年度生のアリソンが凄くよく教えてくれた。研究室をざっと案内してくれた。ウッドペッカーやフェレットが入院患者としていた。入院中のフェレットの餌やりを手伝わせてもらえた。餌はドッグミールにプロテインを加えたものだった。リンフォーマのため凄く痩せていたが餌は良く食べていた。午後からはペットの鶏が来院し、重度の直腸脱であったが飼い主が外科手術は希望せずその場で安楽死することになった。

他には避妊したカメの予後を見るために頸静脈からの採血をみせてもらった。野生動物のリス、フクロウ、タカが来院した。時間となりこの日のクリニカルローテーションは終了。

8月19日(木)

昨日と同様エキゾチックへ。昨日餌をあたえた入院中のフェレットの手術があり見学。モニターに映し出してくれ、説明付きだったので凄く判りやすかった。良性か悪性かわからないため腸間膜リンパ節をバイオプシーし、脾臓がかなり拡大していたため脾摘をおこなった。

午後は昨日来院したたかの腹腔鏡検査を行った。実際に検査を行わせてもらった。みていると簡単そうに見えるが実際は凄く難しかった。鳥類の心臓を生で見たのは初めてで哺乳類との違いに驚いた。また、腎臓のバイオプシーの練習もさせてもらえた。日本の大学では絶対にすることができない経験ができ嬉しかった。

5時に学校内の会議室のようなところでピザを食べた。11月に北里大学に講義に来てくださる感染症の先生と少し挨拶をした。その後は事務の方にウォールマートに連れて行ってもらいお土産、朝食などを購入。

ホテルに帰って団欒、就寝。

8月20日(金)

今日はアトランタへ。コカコーラミュージアムとCNNへ連れて行ってもらった。世界のコーラの試飲や英語がいまいちわからなくても楽しめる4Dなど楽しみ要素満載だった。また、お土産も充実していてここでほとんどお土産を買い終えた。お昼ごはんはCNNで各自好きなものを食べしばし自由行動。交通渋滞にかからないように早めにてた

が中々の渋滞にひっかかってしまった。

夜は SYOUKITINI という日本レストランの2階でカラオケクラブの人とカラオケに。アメリカの乗り圧倒されてしまったが歌もダンスもショーを見ているようで凄く楽しかった。

8月21日（土）

今日はモール of ジョージアへ。ジャスコくらいかと思っていたら一日では見切れないほどの施設でとにかくかたっぱしから行きたいお店にいった。アバクロ、GODIVA、H & M などなどたくさんのお店が入っていた。

時間がなかったためホテルに戻ることなくマロリー宅へ。家も2匹のイヌも凄く可愛いかた。2匹のボーダーコリーと庭でフリスビーを楽しんだり結婚式の写真を見せてもらったりした。夕食はサルサソース、チーズクリーム、ピーチ、フィッシュフライ、ハッシュパピー、ボイルピーナッツなどをご馳走になった。その後ゲームナイト開始！！3台のTVをフルに使ってWiiやファミコンやプレステで思い思いに遊んだ。夜食で食べたビスケットの間に電子レンジで温めたマシュマロとチョコレートを挟んだお菓子は凄く食べにくかったが絶品だった！！11時頃ゲームナイトは終了し、ホテルまで送ってもらい就寝。

8月22日（日）

マロリー夫妻とペトウェイ夫妻とともにサウスカロライナ州とジョージア州の境界付近にある Crark Lake へ！！ウォータースポーツが凄くたのしかった。浮き輪で湖を泳いだりボートで探索したり、卓球したりと時間はあっという間に過ぎてしまった。

遊びつかれホテルに帰ってからはダウンタウンへは行かず就寝。

8月23日（月）

今日は行動学。今月は暇らしく全然予定が入っていないと聞いてたがラッキーなことに患者が来院。飼い主の臨告は雷やノイズに対して凄く敏感で無駄吠えをし、一緒に飼っているもう一匹のイヌにまで影響を与えているとのことだった。飼い主からイヌの状態を聞いている間も治療は始まっておりいい子にしているときはおやつをあげ、無駄吠え、動き回る、飛びつくときは完全無視。そして飼い主が撮影したイヌの家での問題行動を見せてもらい治療方針を説明。入交先生の授業で教わったクリッカーを用いた治療もあった。また、雷、大雨の音が入ったCDを普段から聞かせて治療するという方法もあるようだった。今日の患者はこれで終了ということで午後からはコミュニティープラクティスへ。ここでは地域の患者さんが自由に来院することができ、様々な処置を行っていた。耳垢検査や巻き爪の治療を見せてもらった後オフィスワークにうつるようだったのでラージアニマルへ移動。なつきちゃんと合流し大動物の診療所を散策した。珍しいものといえば歩けなくなったアルパカのリハビリのために大きな容器に水をため浮力もちいて足を動かし泳がしていた。

今日の夕食はICUの研究室の先生の自宅でホームパーティー。料理が凄く美味しかった！！特にスペアリブとケーキは絶品！！先生の飼っている猫も凄く可愛かった。次の日のお昼ご飯にと残ったおかずもジブロックに入れてくれた。お腹も満たされたのでホテルに帰って即効就寝。

8月24日（火）

今日も行動学。今日は患者がいなかったため学生のケイティと一緒に先生の猫で行動学の勉強。きちんと教えると猫もお座りでき

るようになることにビックリ！！また、ハーネスの訓練、聴診、ケージへはいる、ブラッシングなどの動作も嫌がることなくさせてくれていた。飼い方次第でこうも変わるのかと思い、行動学に対する興味が凄くわいた。

午後は予定がないためラージャニマルへ。主に馬の破行検査を見学した。

夜はジャスティンとマロリーにネイチャーウォークへ連れて行ってもらった。小さな蛇やサラマンダー、ホタル、カエルなど次々に見つけるジャスティンに驚いた。夜ご飯はファイブガイでハンバーガーを食べた。落花生食べ放題というのが不思議だった。ハンバーガーもポテトもアメリカンで凄く美味しかった。

8月25日（水）

今日は小動物外科の予定だったが、ペトウェイに今日は外科がはじまるのが遅いからとICUに連れて行ってもらった。午前中はミーティングがほとんどで学生と先生が口頭で講義を行っていた。ミーティング後頭部外傷の症例を2症例見せてもらいその犬の神経学的テストにも立ち合わせてもらった。

午後はBBQで病理の先生に会ったので交渉してネクロプシーに参加させてもらえることに。今日の症例は高齢のダックスとオウム、PDAの疑いがあるヨークシャーの3検体のみだった。早めに終わったので帰りにブックストアによってホテルにかえった。

この日の夕食はなんとプール付きのホームパーティーだった！！子供たちもいて凄く楽しかった。

8月26日（木）

今日は昨日いけなかった小動物外科へ。今日はオペなしといわれ近くのエキゾを見に行くと鯉のオペをやっていたので見学させても

らうことに。何と鯉は日本産の鯉でオーナーさんは日本好きらしく何度も日本にいったことがあるんだよ〜と気さくに話しかけてくれた。その後、あさみちゃんがいた内科は患者が多く忙しそうだったので見学させてもらうことに。午後は昨日同様剖検に参加させてもらった。今日の検体はスクレイピーの疑いのある羊と毒物の服用で死んだ猫、銃に撃たれて手術中に死んだ犬の3検体だったのでやく終わった。無理を聞いてくれた病理の先生につたない英語で精一杯の感謝の言葉を伝えた。

今日は副学長さんのホームパーティーへ。マロリー、ジャスティン、カラオケ部の方々などこの2週間お世話になった沢山の人たちにあって沢山写真をとりまた、心にのこるプレゼントを頂いた。

8月27日（金）

今日でジョージアセンターともお別れということで早めにチェックアウトを済ませ1階のスタバでコーヒーとクッキーを購入。待ちに待ったアトランタ水族館の裏側ツアーは驚くことだらけだった。日本でも決してすることのできないような経験ができ感動した。

3時にはホテルへ着きペトウェイとローリーと別れた。近くのアトランタ空港へ皆で行き夕飯にピザを購入し食べた。アメリカ最後の夜ということでビールも少しだけ飲んだ！！ほろ酔い気分でホテル内にあるプールで全員で記念撮影をした。

8月28日（土）

早めにアトランタ空港へはいりチェックイン後は各々免税店で最後のお土産購入をした。楽しかった2週間はあっというまに終わり気がつけば成田到着していた。

今回の研修で日本とアメリカの獣医学教育や文化の違いなどを学ぶことが出来ました。アメリカの学生は日本の学生よりも勉強に対する意欲が違うというのは行く前から話には聞いていましたが、実際に2週間実習を共にして、違いを肌で感じ、正直このままでいいのかと今までの怠慢な自分に対して焦りを感じました。

また、アメリカの学生と教授、講師との距離の近さにも驚きました。各研究室でほとんど毎日ディスカッションが行われていたのですが、日本の学生のように沈黙になる人は誰もいませんでした。学生は皆間違いを恐れず先生の質問に対して受け答えをしている姿に驚きました。

日本では教授(先生)が診察、診断し、生徒はそのアシスタントをするというスタンスですが、アメリカでは生徒が診察、診断し、診断結果と処方、治療方針に誤りがないか教授に意見を求めるというスタンスが一般的でした。まだ獣医師免許を持っていないのに患者をまかされるのは責任、重圧はあると思いますが、卒業後即戦力になるし、勉強意欲向上のためにも学生のためには凄くいいシステムだと思います。

全部がアメリカの獣医教育がいいかどうかはわかりませんが、今回の実習を通して日本の獣医学教育もこうなって欲しいと思う点はいくつかありました。また、私たち学生自身普段の実習に対する態度や、テストのための勉強のみでなく自主的に動くこと、向上心を持つことの大切さを当たり前ながら再確認すると共に、大学に合格したばかりの時の初心を思い出せました。この今の気持ちを忘れることなく後1年半の大学生活を有意義なものにしたいです。

Dear UGA crew

Two weeks in UGA were very excited for me.

I'm not good at speaking English. So I was very nervous first. But everyone were very kind because when I couldn't understand content, they speak English slowly. So I was very relief.

I have experienced so much valuable things and had a lot of fun.

I appreciate for everyone who supported us at UGA. I'm very happy to meet you.

I hope I'll see you again. Thank you!!

小田 真悠子

(事前準備)

・研修前の外国人による英語のレッスンについて

海外研修に行く3大学ともに、4年の春休み位からネイティブに週1回、約1時間30分の英会話のレッスンを受けることになる。最初の顔合わせの場のみは先生に設けてもらい、それ以降の予定や場所などは自分達で話し合って決定する。毎週の授業に加え、三沢基地内でステーキを食べたり、フードコートで買い物したり、スーパーマーケットを見学したりイレギュラーな課外授業的なものもあった。また、今年度は先生の家へ招待してもらいハンバーガーやホットドックなどのアメリカンフードを御馳走になった。

・狂犬病のワクチン接種について

ワクチンは東病院で計3回の接種を受けた。時間はお昼なので、午前の授業が終わる少し前に出発しないと間に合わないし、昼休みの時間が減るので地味に大変だった。

・費用について

事前に徴収された費用は交通費と最後のホ

テル代等で 20 万円ちょっと。なぜかこの費用は 3 大学の合計を割ってから請求されるので、一番安いらしい Georgia 組としてはちょっと納得いかなかった。滞在期間の大部分を過ごす大学内のホテル代の 700 ドル弱は現地で払うので、それプラス食費や交遊費などを考えて現金は 10 万円持って行った。カードも少し使ったので 15 万円くらいあれば十分だったと思う。カードは先輩からのアドバイスで作っていった方が良いとのことだった。

(Clinical rotation を経験して)

本研修の一番の目的は、Georgia 大学で二週間にわたり診療科を見学する Clinical rotation を体験することである。前もって自分の興味のある診療科を大学側に提出し、それに沿って、訪問する診療科が決定される。朝は 9 時に全員で大学へ向かい、大学側が組んでくれた予定にのっとって診療科へと案内され、午後 4 時 30 分くらいまでその科で過ごす。見学時の人数は原則 1 もしくは 2 人で、他の診療科に行きたい場合には既に予定に組まれている人と交換してもらるか、直接希望する科へ頼みに行くが良い。向こう側はあまり私たちの予定を把握していないようなので、午後からは別の科に行くことは十分可能だった。ちなみに私は Exotics の希望が通らなかったもので、他の人に頼んで 1 日交換してもらった。見学時は自分からコミュニケーションを図ろうとしない限り、結構な確率で放置されるので気をつけなければいけない。出発前にも先生方からは自分から話せと散々言われていた。しかし、言われたからといってすぐに実行できるものではない。質問したくても、質問した場合、私の英語力では理解に非常に時間が掛かるので大幅に作業を中断させてしまわないかと思ひ、なるべく

忙しくなさそうな学生を懸命に見極め、質問していた。この自分から話しかけるという行為は、普段日本でもしなれていない自分にとってはかなり神経を使うもので、英語の理解という作業も加わりかなりの労力を要した。ネイティブの診察時の会話等にはもちろんほとんどついていけず、必ず後からゆっくり説明してもらっていた。質問しても嫌な顔はされないし、聞いてもやっぱりわからない場合は電子辞書に打ち込んでもらったり、書いて欲しいと言えば快諾してくれる。分からない単語があれば簡単な言葉で説明して一生懸命伝えようとしてくれる。わからなくてこちらがあたふたしていると iPad や iPhone の翻訳機能で日本語にして見せてくれる人もいた。また、先生と生徒がカフェテリアで何か飲みながら症例や病気についてディスカッションする時間があるのだが、ほとんど聞き取れない上、質問する隙もないくらいのスピードでやり取りされるので大変だった。特にみんなが笑っているのに自分だけぼかんとしているのはとてつもない疎外感だった。しかし、基本的にあちらの方々は親切プラス笑顔なので、一度勇気を出して話しかけてしまえば色々気にしていた時間が馬鹿みたいだったと思えるくらい気さくに教えてくれた。こちらの英語が壊滅的なので、相手の言っている意味がようやく理解できた時はたった一つの単語がわかっただけでもかなりの達成感を感じてしまうというのは日本ではなかなかできない体験だったと思う。以下、主に私の見学した診療科で体験したことについて感想等を交えて列記していこうと思う。

・ Emergency Care

初日だった Emergency Care は去年 Georgia 大学に行った先輩のお勧めで希望した科だった。この Dr. Amie は以前北里大学に来たことがあるらしい。私たちの英語レ

ベルをわかっているようで、最初から紙を用意し、筆談でその時にいた症例について一通り説明してくれた。それが終わり、Dr. Amie に連れられてカフェテリアへ移動すると Emergency Care の学生達とのディスカッションが始まった。その日はアジソン病について調べてくるように言われていたらしく、学生はそれについて前もって勉強し、先生から矢継ぎ早に発せられる質問に答えていた。血液検査項目での特徴や考える類症鑑別についてなど、診断の際の考えるステップのようなものについてひとつひとつ詳しく話合っていた。この時もありがたいことに Dr. Amie は内容をところどころ書き出してくれていたのので、私でもうっすら内容を理解することができた。アジソン病のことだけではなくそれから派生して色々な疾患の知識についても求められるディスカッションだった。先生1人に対して学生3人なのでじっくりとかつ詳しく教えてもらえるだけでなく、学生は絶えず質問されるため臨床の現場において必要となる自分で考える力が自然と身につけられるような気がした。ほとんど受身で行われる日本の授業とは全く異なるシステムだと思った。午後からは学生について診察の一連の流れを見学した。

・ Animal Behavior

日本ではまだ行動学に対する意識は低いようで、自分自身も入交先生の授業を受けるまではほとんど認識していなかった。行動学の授業は他の獣医の授業とは毛色が異なり印象に残っていて、入交先生も学んだという本場の行動学を体験してみようという思いから今回は見学を希望した。1日目は症例が来ていたので、一緒に診察を見学させてもらった。症例は恐怖を感じて攻撃的になってしまう犬で、オーナーとともにトレーナーの方も一緒にやっていた。大学では直接治

療を行うのではなくこのトレーナーに指示を出して色々な訓練を行っているらしく、問診だけでなくトレーナーが撮影したビデオ等を見てトレーニングの様子や状態を把握していた。この診察の最中、患者は視線をこちらに向けてうなり声をあげ今にも向ってきそうな雰囲気醸し出し始めた。どうやら私たちが椅子の背もたれに背をつけず前傾姿勢で座りながら必死に飼い主と先生の会話を聞き取るようにしている様子が恐怖をあたえてしまったらしい。先生に言われて背中を背もたれにつけて楽にして座ると、うなり声は止んで先ほどの険悪な雰囲気はすぐに消えてしまった。こうした危険のある動物にこれまで接してきたことがなかったので、こういった経験ができて非常に新鮮だった。言葉と話さない動物を相手にする際には常にこうした危険があることを念頭においておくべきだという教訓にもなったと思う。2日目は症例がなかったので、学生と一緒にスライドで行動学の講義を受けた。内容は調度前日に来ていた症例の恐怖性攻撃行動についてのものだったので、学生にあとから概要を教えてもらった。ここでは休憩時間があったので、学生と就職のこと、日本より2年少ないけど授業時間は足りているか、自分で診察や診断することに対して不安ではないか等、色々聞くことができて楽しかった。その後は、この学生のペットのブルドックにクリッカートレーニングを行う様子を見学させてもらった。

1日目も2日目も午後は Animal Behavior と同じ建物内にある Community Practice の見学をすることになった。いまいち何をしているところなのかわからなかったので聞いてみると、近隣住民や学生が利用できる地域の病院というような意味の説明をされた。ここでの診察は大学病院での学生の診察をよ

り学生主体にさせた感じのもので、先生のチェックは途中で軽く入るだけのように感じた。手術室は避妊と去勢専用の文字が書いてあり、主にワクチン接種やフィラリアの検査が多く、難しい症例は大学病院に回すようだった。私が見学したときには患者はいなかったが、歯の治療を行うスペースもあった。このことから超自分的解釈として日本の個人開業の病院を学生がやっているような場所という印象を受けた。ここでは何をやっているところかいまいちよくわからない上、学生も忙しそうだったので最初は完全に放置だった。しかし話しかけてみると診察室と一緒に入れてもらったり、症例の説明をしてもらったり、歯の治療スペースをみせてもらったり、学外実習で行った日本の病院を彷彿とさせられた場所だった。

・Oncology

学生について診察室に入り、学生が問診、患者を預かって各種の検査、先生がオーナーに説明するという流れで、相変わらず会話は意味不明なので後から説明をしてもらった。その日私が見学した症例は肥満細胞腫の転移と軟部組織肉腫の2件で、どちらも生検を行い顕微鏡で観察したところそれぞれ異常は観察されなかったらしい。肥満細胞腫はリンパ節への転移はないし、軟部組織肉腫と疑われたしこりは脂肪だったらしい。この2件を見学して、診察は午前中で終了してしまった。午後は腫瘍科の方のはからいで、跛行と神経学的検査についてのディスカッション、不整脈の犬のエコー検査、抗生物質（確かデキサメサゾン）による食道狭窄が疑われるネコの内視鏡検査と胃瘻チューブの設置などを見学しながら転々とした。

・Exotic

部屋に入ると早速カフェテリアへ移動して学生が自分の担当している患者の様態や処置

についての報告が始まった。ミーティングが終了して部屋に戻ると、早速カメラ10匹を用いた実験が始まった。犬、猫用に使用されている麻酔薬が爬虫類にも効果があるかどうかを調べることを目的とした実験らしく、薬を投与した後はひたすら決められた時間ごとにドップラーで心拍数を数え、四肢の動き、痛覚や眼瞼反射等を評価して記録していた。私的な Exotic のイメージは安易ではあるが怪我をした珍しい動物が運ばれてくるところであり、まさかこんな実験の現場に立ち会えるなんてある意味ラッキーだと思うことにした。午前中はひたすらカメラのドップラーの音が部屋に鳴り響いていたので、気分転換に廊下を歩いていると手術室の前で急に Ophthalmology の先生に話しかけられた。その人も以前北里大学来たことがあるらしく、とても気さくで色々質問してきてくれた。話していると突然手術を中に見ないかという流れになって、外科の先生に私たちを紹介してくれた。突然見学することになった手術は下顎切除だった。手術中の雰囲気はとてもラフな感じでドアは全開、日本の大学病院の手術室には1回しか入ったことがないので比較はあまりできないが、やっぱり違うような気がした。患者の下顎の口腔内に大きな腫瘤塊があり、その部分を下顎ごと切断する様子と、切断された下顎が床の上に落ちてころころと転がっていったのはとても衝撃的だった。その後 Exotic に戻り入院していたフェレットの安楽死と跛行を示す肥満のフェレットの検査を見学した。

・Large animal

最初に案内された場所では腹部に枝が突き刺さった馬の腹腔内を洗浄している最中だった。その後、フェンスを越えようとして腹部が切れ盲腸が露出した馬が急患でやってたのですかさず手術室に入って見学させてもらっ

た。馬の手術を見るのは初めてで、あの大きな体が手術台に仰向けになっている状態を見ただけでもなんだか興奮してしまった。モニターがないので手術の手元はほとんど見えなかったが雰囲気を楽しむことができただけでも満足と思うことにした。腹部を切開し腸管を全て確認してから壊死部分を切除するようだった。オーナーの夫婦は4時間くらいの手術中ほとんどずっと窓から様子を伺うか、うなだれた状態で、馬に対するオーナーの大切に思う気持ちが周囲に満ちていた。翌日この馬がどうなったかきくと次の日の時点では問題なかったようで安心した。隣の手術室では結腸捻転の手術が行われていた。

馬の跛行検査の見学もさせてもらった。神経ブロックにより跛行が消えるかどうかで病変部分がどこにあるのかを調べていた。その後室内で腱のエコー検査を見学した。先生の話によると繫靭帯外側が断裂しており、X線写真では種子骨外側に骨棘が見られる症例だったらしい。この他、学生による馬の関節への鎮痛剤投与の治療も兼ねた練習が行われているのも見学させてもらった。

(その他)

Georgia 滞在中の2週間は、Clinical rotation 以外にもホームパーティーに招いてもらったり、カラオケに行ったり、アウトレットに行ったり、広大な敷地のモールに行ったり、湖で泳いだり、Nature walkに行ったり、アトランタに行ったりと、本当に色々な人のお世話になって、そのおかげでとてつもなく有意義な時間を過ごすことができた。ホームパーティーで訪問した家はどれもみんな素敵で料理もおいしくて、準備のために大学を休んでまで私たちを歓迎してくれた先生もいて感激だった。

(総括)

今回の2週間のアメリカ研修に私が参加しようと思ったのは将来渡米したいとか、臨床に進む上での見聞を広めたいとかそんな立派な理由ではない。そもそも臨床に進みたいという意味は今のところ無い。ただアメリカの大学病院ってどんなところなのだろう、みんなも行くし、こんな機会もう一生無いし、両親の許可が出たら行ってみようかなという漠然とした、かつ簡単な理由だった。私の言い方が悪かったのか、父親は今回の研修は直前までただの旅行だと思っていたらしく病院に行くと言ったらとても驚いていた。こんな軽い考えの娘の言うことを許し、アメリカへ送り出してくれた寛大な両親にまず感謝したい。

アメリカの獣医療の雰囲気を経験したいという月並みの理由で渡米し、2週間の研修を終えてまず思ったことは、学生の意識の高さと自信についてだった。先生と生徒のディスカッションをそばで聞いていると、内容こそ理解できないが学生一人一人が自分で考えたきちんとした意見を持ち、それをしっかりまわりへ発信できる自信をひしひしと感じた。そうした意見を持つためにはたくさん知識と高い関心が必要であり、それに自信をつけるためにはさらなる知識と経験が必要となる。彼らはそれに見合った努力をしているのだと感じた。ディスカッションでは必ずと言っていいほど学生からは質問が飛び出してくる。質問が浮かんでくるのはきちんと話を聞いて自分で噛み砕いて考えている証拠だと思う。受身教育の日本ではあまり見られない光景を感じた。

こちらでは学生が診察すると聞いていたので、前からどのように行われているのか興味を持っていた。実際に見学してみると、その様子は先生と遜色無いような気がして、とて

も自分と同じ身分の学生とは思えないくらいだった。もちろんしゃべっている内容は半分も理解できていない。しかし、診察がよどみなく進んでいる様子からは言葉がわからなくても、学生として自分とはレベルが明らかに違うという事実だけは十分に感じる事ができた。自分がもし臨床に進んだらこの人たちが学生の段階で到達しているレベルに社会人何年目で到達できるのかなんてことがぼんやりと頭に浮かんだ。診察を終えると学生は先生に内容を報告、それをふまえてどのような原因が考えられ、今後どのような方針で検査、治療を行っていくかについての質問をされていた。学生は足りない部分は先生に誘導してもらいながら答えていた。最終的な説明は先生が行っていたが（CPは別）、この一連の流れのなかでも学生は絶えず自分で考えることが求められる。考える力だけではなく非常に実践的な知識、決断力、経験等様々な要素が培われていくやり方だと思った。学生の今の自分が診察をやるなんて全く考えられないし、もしするとしたら不安でしようがないと思う。万が一、自分が大学卒業後に臨床へ進んで自分で診断することを考えても不安になってしまう。向こうの学生に診断は不安じゃないかと質問すると、やるしかないからしようがないという答えが笑顔で返ってきた。きっと考え方が根本から違うのだと思った。

施設的な面ではやはり規模が大きいことが一番の違いに感じられた。しかし設備の面では変わらないもしくは北里の新病院の方が良いと思う部分もあった。EmergencyのDr. Amieは新病院を知っているらしく、コンパクトで良いと言っていた。広いがゆえに他の診療科とのやり取りはパソコンで行われ何時に来て何をしてほしいかを入力して行っていた。大動物の方は施設も大きいし、患者の種

類も数も多かった。北里では患者のほとんどが牛だが、アメリカはほとんど馬で、私たちが行ったときにはアルパカなんかもいてびっくりした。

病院内のことだけではなく、お店、道路、食べ物、カラオケ、人間性、テレビ番組等々色んな部分で日本との違いを経験することができて本当に楽しかった。

最後に、両親に加えて、このアメリカ研修を共に過ごしてくれたメンバー、研修に関与して下さったたくさんの方々の日本の方々、温かく受け入れてくれた Georgiaの方々への感謝をもってこの報告書の結びとしたい。

Dear Everybody in Georgia University

It's been a long time. We had come back to Japan safely and the second semester started from September.

I want to express my deepest thanks to people helped me in Georgia University. During two weeks, I could feel differences in veterinary medicine of USA and Japan and really enjoyed my stay in Georgia because of you. I never forget everything that I experienced at Georgia and your kindness and hospitality will always remain in my memory.

Thank you for wonderful two weeks.

清田 麻美

私がこの研修を志望した理由は、獣医療最先端の地と言われているアメリカの獣医療を見てみたいという思いからである。アメリカ

の施設、システム、動物に対しての考え方など、実際自分の目で見て、日本と同じ点、異なる点を発見したいと思っていた。たとえこの先獣医になっても、なかなかアメリカの獣医学科に研修に行ける機会などないと思い、せっかくの機会なので参加した。また、以前からアメリカ留学に憧れており、アメリカの文化や生活を経験してみたいということもきっかけであった。

振り返ってみて、一番の壁はやはり英会話であった。12月にこの研修が決まり、2月から週1回のペースで英会話の練習をしていた。始めは間違っているのではないかと会話することが恥ずかしかったが、約半年の英会話を通してその抵抗が軽減された。とりあえず言葉にして伝えようとしなければ何も始まらないと思える様になったのは、英話を離すきっかけがあったおかげである。アメリカではできるだけ積極的に話しかけていったが、もっと英会話能力があれば自分の伝えたいことをたくさん伝えられ、吸収できるのにと残念で思うこともあった。しかし、ままならない会話でも向こうの学生と仲良くなることができ、満足ではある。これをきっかけに、これからも英会話は続けていきたいと思う。

・ 8月14日（土）（日本時間）

いよいよ出発当日。15時55分のAtlanta行きの飛行機なので、12時半に成田空港集合した。お盆の時期で混雑が予想されたため、時間に余裕をもって行動した。意外なことに混雑はしてなかったので、助かった。そして少し時間があったので、みんなでお昼を軽く食べ、鹿児島大の白石先生、猿くんと合流した。どんな人が来るかわからないうえ、北里からは女の子8人で、男の子1人での参加は厳しいだろうなあとと思っていた。前評判と違う感じの2人だったので、ほっとした。そして、

無事飛行機に乗れ、約11時間の長いフライトへ。デルタ航空で、映画は豊富に備わっており、3本鑑賞し、よく眠りフライトを楽しんだ。また、長いフライトに供え、マスク、パーカー、スリッパ、メディキュットを準備していたおかげで、余計快適に過ごせた。

・ 8月14日（土）（アメリカ時間）

Atlantaに16時前位に到着した。入国審査では、sightseeingでスムーズに通ることができ一安心だった。Atlanta空港は全米一の大きさの空港らしく、到着したゲートからさらにモノレールのようなものに乗ってメインのゲートまで移動した。あまりにも大きいので間違っていないか心配であったが、Malorie、Michel、Harukaが迎えにきてくれていて会う事ができた。UGAの大きなワゴン2台に乗り、Atlantaから車で1時間程の所にあるAthensまで向かった。宿泊場所は、AthensにあるUGAの敷地内のGeorgia Centerである。ホテルに向かう途中にマーケットに寄ってもらい、食料などを買い込んだ。アメリカに着いて最初のマーケットということで、テンションが上がった。そして、ホテルに着き、部屋にはWelcome to UGAと書かれた紙と、Georgiaグッズ、clinical rotationの予定表が置かれていた。そこで問題が発生した。Georgiaに行く前に自分の希望する科を提出したのだが、みんな特に行きたい科以外にちょっと興味のある科など多く書きすぎたせいで、特に行きたい科が予定に組まれてない結果になってしまった。急遽全員で集合して、話し合いが行われた。なかなか調節が難しく、今後の実習が大変になりそうな予感がした。

・ 8月15日（日）

今日は1日フリーで、11時にロビー集合

で Malorie 夫妻が Tanger Outlet に連れて行ってくれた。お昼は、アメリカを味おうということで、BURGER KING に行った。やっぱりボリュームがあったが、アメリカにいるんだ！という気分が増した。そして、Outlet では 2 時間の自由時間があり、買い物好きの私は大満足な買い物ができる。夕方頃にホテルに戻り、Malorie 達とお別れし、みんなで down town に行ってみた。ホテルのボーイに頼めばある程度の所まで送っていつでももらえるので、ホテルのワゴンで送ってもらった。down town は、車で 10 分位で着く近さであり、小さな町で治安も悪くなさそうであった。また UGA グッツのお店があり、大学のグッズの多さ、規模の大きさにびっくりした。down town からの帰りは徒歩で大学内を散策しながら帰った。リスも多く見ることができ、広い芝生では学生がフリスビーをして、とてもいい雰囲気であった。

・ 8月16日（月）

いよいよ大学スタート。ランチを用意してもらって、食べながら副学部長の Dr. Carmichel に自己紹介をした。背の高い黒人の女の人で、とてもかっこよかった。その後、Haruka が獣医学科内の施設を案内してくれた。実習室では各顕微鏡にテレビがついており、大動物では馬、牛を回転機させる見たことのない機械や、献血馬、臓器や胃液を提供する牛などみることができた。大学内は迷路のようで、明日から 1 人で迷子にならないか心配になった。その後は、UGA 全体のキャンパスツアーに行った。広すぎるのでバスに乗り案内してもらったが、案内してくれた人がとても早口で、全然何を言っているのかわからなかった。英語ができたらどんなに楽しいかと、痛感した。夕方は、今年入学する生徒の Welcome party に参加した。す

ごい人の多さと、みんな軽くドレスアップしていて、かなりアウェーだったが、アメリカのパーティーを体験できてよかった。

・ 8月17日（火）

Clinical rotation 1 日目は、oncology に行った。主に犬が多く、特に大型犬が目立った。アメリカは犬のサイズも日本より大きかった。主な専門英語は肥満細胞腫、リンパ腫、アデノーマ、メラノーマなど聞いたことのある単語が飛び交っていた。腫瘍の部分、リンパ節を触診し、深さ、大きさを測定しているのが主な流れであった。必要であればバイオプシーをし、染色して顕微鏡で診断していた。学生も含み、レジデント、ドクターがみんなで診断している事に驚いた。アメリカでは、獣医師になるには 4 年制大学を卒業した上で、4 年間の獣医大学での専門教育を受ける。最終学年の 4 年生になると、病院内の 20 個の科を 3 週間のローテーションで周り、卒業までに様々な臨床を体験し、卒業後の実践にとっても役立つ様になっている。学生のレベルの高さ、学ぶ姿勢がすごく高かった。私も頑張らなければと、自分へのいい刺激になった。1 人で慣れない環境でたじたじだったが、なんとか 1 日目の Clinical rotation を終えることができた。夜は、病理の Dr. Corrie Brown のお家でのディナーだった。牛の置物がたくさんあり、かわいい家だった。Dr. Corrie Brown もとても親切で楽しい人で、楽しい時間を過ごした。

・ 8月18日（水）

今日は large animal に行った。surgery に行き、馬の手術をみることができた。アメリカでは馬がペットなので、牛より馬が多くみられた。また、獣医の学生の 7 割は女性ということもあるが、大動物を女性だけで

扱っている光景に驚いた。みんな馬の扱いに慣れて、馬も穏やかな子ばかりだった。馬に麻酔をかけ、気管チューブを挿管し、吊るしてオペ室に移動した。すべて女性だけで行っていたことや気管チューブの太さにびっくりした。犬猫と同じように横臥位で、大きなベンチレーターで麻酔維持をしている光景も始めてみたので、オペ室にいただけでわくわくした。オペ室は陽気な先生の好みの曲が流れ、とてもリラックスした雰囲気だった。オペはマイクロスコプで関節胞の処置をしていた。午後腹に突出した皮下織の様なものの除去手術を見ることができた。あい間をみて大動物棟を散策したり、少し場の雰囲気に慣れてきた。夕方は、Zoo Med Club と Athens Zoo に行った。そんなに種類は多くないが、American Eagle、American black Bear などアメリカならではの動物が多くみることができた。

・ 8月19日（木）

large animal 2日目。今日は昨日とは違う先生についた。朝、行くと学生と先生がレントゲン写真をみながらミーティングをしていた。学生もはっきり自分の意見を発言していて、レベル高いなと思った。ここの学生達はすごく親切で、質問はないか？など常に気にかけてくれ、とても嬉しかった。ミーティングの後、馬の治療をしていた。後肢の中節骨と末節骨の関節包辺りに傷があり、その上部に包帯を巻き抗生剤を入れていた。局所麻酔をしていたので馬が肢を床に叩きつけ、さらに傷が大きく深くなってしまった。急遽、傷の後ろから針を入れ洗浄し、包帯で薬を固定した。この処置も女性ばかりだったが、ほんとうに馬の扱いに慣れていて、とてもかっこよかった。その後も他の馬の治療で、X線撮影や骨折手術後の治療など見ていた。アメ

リカでは large animal はとても進んでいると思った。

・ 8月20日（金）

今日は clinical rotation はなく、Atlanta のコカ・コーラミュージアムに行った。コカ・コーラの本社が Atlanta あり、Atlanta の観光名所である。展示品、映像もたくさんあり、世界各地のコカ・コーラ製品を試飲できた。コカ・コーラミュージアム以外に CNN center も行った。Atlanta は Athens とは雰囲気が違い、治安もそんなによくないので少し緊張した。夜は、VOICE & Shelter Med Club とのカラオケがあった。元々カラオケは苦手なうえに、アメリカ人とのカラオケで、大丈夫なのかと始めはすごく緊張した。ノリで通していく感じだったが、とても楽しかった。

・ 8月21日（土）

11時に出発し、Mall of Georgia にいった。想像以上の大きさと、1ヵ所の建物にいただけで充分であった。さすがアメリカ！という感じだった。夕方に、Malorie 家に行き、Game Night が開催された。テレビが3台、それぞれにゲームがあり、みんなで子供のようにゲームを楽しんだ。Malorie の家はアニメ、日本の物が多く、共通話題が多いのもあり話が弾み、Malorie と仲良くなり、とても嬉しかった。

・ 8月22日（日）

隣の North Carolina 州にある Clark Lake にある、卒業生の Dr. Joshua の家族の別荘に遊びに行った。車で2時間位、のどかな牧場風景をみながら行った。湖でカヌーをしたり、水上ボートで遊び、アメリカでの別荘ライフをのんびり過ごした。

・ 8月23日（月）

今日は Pathology に行った。午前中は1つの標本を学生で議論し、その後先生が説明をしていた。この日はリンパ節をみて、類症鑑別、他の診断法、治療法の discussion をしていた。専門英語が飛び交い、話すスピードも速く、けっこうきつかった。午後は、necropsy に参加した。馬2匹、犬、猫、野鳥など多くの検体がいた。学生1人につき検体が1体与えられ、午後の始めにみんなで集まり、その症例の説明をして剖検が始まった。病理解剖棟もクレーンや、解剖台もボタン1つで上げ下げが簡単にでき、施設が整っていた。ダイナミックな光景、目にみて異常がわかるので、とても満足した研修ができた。ここの研究室の人々も、とても親切だった。夜は、Dr. Koenig 家でのご飯会があった。5匹の猫を飼う程の猫好きの先生で、多くの猫のグッズがあり、とてもかわいい家だった。

・ 8月24日（火）

今日は念願の Exotic の日だった。朝行くとラウンジでミーティングをして、その日の予定を話していた。エキゾの先生は陽気な先生で、学生もとても優しかった。この日は、新しくでた麻酔薬の亀での効果のリサーチをする日で、大きさの異なる亀に麻酔薬を打ち時間ごとに刺激を与え、反応の有無を調べていた。今まで Exotic の治療を見たことがなかったので、新鮮だった。途中時間があつたので、Surgery に行きエプーリスの手術を見せてもらう事ができた。ここでも音楽が流れ、日本のオペ室での雰囲気とは違っていた。その後、再び Exotic に行き、リンパ腫のフェレット、ガチョウなど見る事ができた。放課後、夕方から Justin と Malorie が nature walk に連れて行ってくれた。森の中を散策しながら、ヘビやカエル、トカゲ、ホタル見

ることができ、普段なかなかできない自然とのふれあいがあった。夕飯は、5GUYS でハンバーガーを食べ、とても美味しかった。Malorie に関西弁を教えたり、鶴を折ったり、笑いが絶えなかった。

・ 8月25日（水）

Georgia で行きたい科のひとつでもある、animal behavior の日だった。しかし、その日は予約が入ってなく、犬の去勢手術を見ていた。少し残念だったが、去勢手術を見るだけでも麻酔や挿管など、日本の今まで見たことのあるものと異なる部分が発見できた。また、学生が先生の指導の下、手術を行っていた。法律上、日本では学生は治療などできないが、アメリカでは学生でもある程度のことにはできるようだ。アメリカの獣医療への要求、意識の高さがそのような事に繋がっているのだと思う。夜は Dr. Bob Gogal 家でのホームパーティーだった。プール付の大豪邸で、びっくりした。バレーボールをしたり、プールで泳いでおもいっきり遊んだ。とても優雅な時間だった。

・ 8月26日（木）

最後の clinical rotation は internal medicine に行った。ここの学生は特に面倒見が良いと聞いていて、噂通りみんなとても親切だった。朝行くと学生の Joshua について、診察室でクッシングの犬のオーナーさんに詳しい話を聞いていた。Joshua はとても落ち着いて話を聞き、余裕も感じられ、とても学生とは見えなかった。1時間程話を聞いた後、研究室で診察をした。診断、治療法など考えた後、先生やレジデントの先生が来て Joshua の話しを聞きアドバイスをしていた。他にも尿石症や腎疾患など日本でもよくみかける症例が多かった。どの場合も初めに

学生が問診、診察し、その後先生と症例検討し、今後の治療について決定する流れだった。午後の後半はICUに参加した。入院室で、行っていることはinternal medicineと同様で緊急の症例を主に診ている感じがした。Clinical rotationも無事に終わることができ、夜は副学部長のDr.Carmichael家でお別れパーティーだった。Georgiaでお世話になった人達がみんな集まり、感動した。今まで親切にしてくださったことなど思い出し、もう会う機会はないのかと思うと、とても胸が熱くなった。2週間という短い期間であるが、人との出会いなどとても貴重な経験ができ、Georgiaに来てほんとによかったと思った。

・ 8月27日（金）

2週間滞在したAthensを離れる日が来た。朝チェックアウトし、AtlantaのGeorgia Aquariumに行った。全米最大の規模の水族館で、巨大な水槽に10万匹の魚とジンベイザメが泳いでいる。一通り見学した後、水族館の裏ツアーに連れて行ってもらった。検査室、オペ室、地下、水槽の上など、なかなか入ることができない所まで案内してくれた。地下では太いパイプがたくさん伸びていて、周りに海のないAtlantaならではの水の供給施設だった。Instant Oceanと書いてある袋がたくさん並んでいる光景はおもしろかった。巨大な水槽を上からみると、さらに大きさを実感することができた。とても大満足な裏ツアーだった。水族館の後は、Atlanta空港の近くのホテルに送ってもらい、そこで2週間私達のお世話をしいてくださったPettwayさん達とお別れした。この滞在中Pettwayさん達がいてくれたおかげでいろいろな所に行け、自分達だけではこんなに充実した滞在ができていなく、感謝してもしき

れない存在である。ホテルで一息ついて、近くのAtlanta空港に行き、時間を潰し、夜はみんなでプールサイドで遊んだり、トランプをしたり、Georgiaでの日々を振り返っていた。

・ 8月28日（土）

混雑が予想されたので、余裕をもって空港に行った。荷物の重さが心配だったが、機内に預ける荷物を2つに分けたのでなんなくクリアし、ひと安心だった。朝で空港は空いていたので、自由時間がたくさんでき、Atlanta空港は6つ位のブロックに分かれている為、暇潰しに色々散策していた。2週間の研修が終わる寂しさもあったが、最後の仲良しメンバーでわいわい楽しんでいた。

・ 8月29日（日）（日本時間）

予定時間よりもやや早く帰国し、16時頃成田空港に着いた。最後はみんなで集まり、白石先生と猿君とお別れした。2週間とてもお世話になり、一緒に研修に行けてほんとうによかったと思う。アメリカでの日々は、かけがえのない宝物になり、今後の自分へのモチベーションの向上につながった。国は違うけれども、同じ獣医学に関わる人達をみて、自分ももっと頑張っていかなければと思う。最後に、この様な機会を与えて下さった北里大学の先生方、Georgia大学のみなさんのおかげですばらしい研修になり、とても感謝しています。特に滞在中は柿崎先生、白石先生には頼りっぱなしで... 本当にありがとうございました。また、この研修を応援してくれた家族、研究室のみんな、友達にも感謝しています。ありがとうございました。

Dear UGA people

Thank you for all your kindness.

I had a wonderful time and great experience in Georgia.

The days in Georgia is my treasure.

I'm really happy to meet you.

I would like to visit UGA again.

I will study veterinary medicine and English hard until that day.

Thank you so much!

夏季米国三大学 ジョージア大学研修の反省

柿崎 竹彦

私も学部5年生のときに夏季研修へ参加しており、今度は教職という立場から学生の引率をさせていただける機会を得た。空港への集合とチェックイン、出国手続きに関してまったく問題なく、時間通りの集合だけでなく、みんなでゆったりと食事を取ることで、これは幸先が良いかと思っていた。鹿児島大学からも同行される二人ともすみやかに会うことができ、当の白石先生はカナダに数年在住して、北米の生活について造詣が深く、また本学薬学部で教員になられてから鹿児島大学に異動されるなど、私だけでなく学生たちも頼もしく感じていた。

ところが、出発ロビー内でいきなり油断をしてしまったのか、いざ搭乗の手続きが始まっているにもかかわらず、私の視界から消えたところで家族や知人と電話をし続け、約束の時間になっても戻ってこない学生みられた。当の学生は携帯電話をかけているために携帯での呼び出しもできず、とにかく他のメンバーは先に搭乗手続きに進ませ、探しまわることになった。このときから、個別行動は決してさせるわけにいかないな、と認識した。

また、最近では携帯電話が国外でも使えることから、学生たちは携帯を持ってきており個別行動の可能性を当初訴えてきたが、この件があったおかげで、日本国内にいるうちに私の中で個人での行動は完全却下という再認識ができたのは不幸中の幸いであったと思う。

アトランタ空港に到着し、事前の打ち合わせ道理に本年2月に十和田へ来られた Frank 夫妻と日本語が堪能な Celine Higgins (ミドルネームはハルカ)さんが迎えにきてくれ、Michael Frank さんはデルタ航空のパイロットでもあることから荷物の受け取りや移動についてアドバイスや補助をしてくださった。これも事前をお願いしてあったのだが、食材や日用品の購入のためにスーパーへ寄っていただいた。しかし、買い物を始めると女性は夢中になることはわかるが、ここでも学生たちは当初約束していた時間をオーバーし、最初から受け入れ先の心象を悪くしてしまっている。

ホテルに到着し、いざスケジュールの再確認をしたところ、Clinical Rotation について学生たちのクレーム祭りが始まった。原因は簡単で、学生たちが Personal Record の Special Interest のところに記した項目が、平均で7項目を超えており、どこが Special なのか分からなかったのであろう。そのため学生から改めて希望を聞き、ジョージア大学に一覧を送っていたのだが、見直してみるとそれでも多かったと思う。このことと、これまでの移動での出来事を踏まえ、初日から警鐘をならすことになってしまった。主な内容は、ボランティアで迎えに来てくれている学生やスタッフがいるのに対し、時間にルーズであるなど迷惑をかけては絶対にいけないこと、我々教員は通訳や添乗員ではないこと、自分の要求は直接ジョージア大学のスタッフに伝えるのが当然であることなどである。出

国前の壮行会などで言われてきたことを繰り返すことになった。

しかしそれでもということで、実際にどうしたいのか一覧にして改めて大学事務へメールで送った。スケジュールの作成や、各教員に対してアポイントメントをとってくれた事務の **Mrs. Pettway** に対して、本当に申し訳なくなった。謝罪とともにもし可能であれば対応してほしい旨を伝えられるだけ伝えた。そもそも私の英語力は極めて低いので、本来であれば、この交渉も学生たちにやらせたかったところであるが、押しに負けた。この報告書を作成する時点で気づいたが、**Personal Record** に記載の **Special Interest** と、最初にジョージア大学が作成してくれた **Rotation Schedule** は極めてよくできていた。正直なところ、私も気づくのが遅すぎた。

この2度にわたるやりとりにも関わらず、それでも不平を述べる学生がおり、結果として交流委員である副学部長の **Dr. Carmichael** から直々に謝罪をされてしまう。私の至らなさが原因である旨などをたどたどしい英語で伝え、ジョージア大学の不備は何もないことと、本当によく気にかけてくださったことに対するお礼を述べ、図太い神経を誇る私が疲れていた。

研修中の細かな見学内容や、大変楽しかったジョージア大学企画のレクリエーションについては学生たちから報告があろうから、外から学生たちの様子を見て回って感じた件を以下に記す。

まず服装であるが、スクラブと白衣を持っていくのも当然だが、基本的にジーンズ以外の長ズボン（スラックス）、襟付きのシャツが一般的であろう。できれば男性であればネクタイもあれば完璧。靴も革靴など、ある程度フォーマルなものが適である。もともと、しおりで述べられていたと思われ、これはど

この大学でも同様であったのではなかろうか。今回、徹底しなかったのは失敗であり、大きな反省の一つに上げられる。もし、このような服装を用意できていれば、より動物への接触を増やしてくれるなど、さらに深い実習ができたかと思われる。

それから英語能力以前に臨床の知識が少ないために、単語の意味を追ううちに診療の内容をほとんど把握していない。結果として、学生たち同士で話し合おうにも、こんな「疾患名」の症例が来たという話ができて、それに対してどのような検査・治療を行ったかの詳細、それを支える診療システムやスタッフたちの動き、専門医からあふれ出る知識の泉に関して、感動を得ていないのではなかろうか。獣医師になり、教員として働けるようになって、米国と日本との格差はソフト面であると私は感じた。大きな機器に関しては日本の先進病院の方が揃っているが、その周りのアシスト面に関して圧倒的な格差を私は見せ付けられた。

この米国研修の選考で英語試験を行うのは当然であろうが、併せて日本での臨床実習を行えたらどれだけ良いだろうかとも思った。米国研修が決定した学生に対して、ポリクリ実習を限定的あるいは早期に受講させるなどの措置があれば、学生が米国滞在中に得られるものはもっと深く、多くなると思う。米国研修のために相応の労力と費用を捻出しているのだから、それなりに特別な対応も悪くないのではなかろうか。

またホテルではチップがいないなど、今になって思うと少し疑問な情報も回っていた。あくまで自分の五感をフルに活用して米国研修を受けるべきであり、「先輩が、先輩が」という発言は大学生という自主性が重んじられる者にとってはいかながなものかと感じた。チップは置いておけばもらっていかれて

おり、また直に渡すとすてきな笑顔を返してくれて、少し幸せな気分になれる。レストランでカードを用いても、レシートには **Tip** の項目があり、いずれにせよチップ社会であることが分かる。ジョージア大学の学生たちは、「学生」であり、彼らと異なって我々は「旅行者」である認識を持たねばなるまい。さらに美味しいところや、面白い情景のところは自ら探してみても、強烈な印象とともに本当に楽しい思い出として残るに違いない。

やや暗い話題はここまでにし、学生たちと異なった行動をとれる教員としての話題を少し述べたいと思う。私たち教員は学生の様子を拝見するために、パスカードを借りることができた。しかし、病院内はどこもフリーだが、建物の外から入れるところが意外と少なく、セキュリティ管理が徹底されていることがわかる。ちなみにパスカードはセンサーにかざすだけであり、使い勝手がかなり良い。また、これまで日本に來られた先生方 (**Drs. Koenig, Hensel, Brown**) や、今年の秋に來られる予定の **Dr. Hondalus** らと個人的に会話ができ、本学の様子や教員の話題、あるいは次回來られるときの企画などについて話で盛り上がった。私の一日は、だいたい午前中は学生の様子を見学し、親しくなれた教員の方と会話をし、午後 2 時くらいから事務の **Lakecia (Mrs. Pettway)** とスケジュールの確認や細かな修正、情報交換を行って、学生たちが上がってくる午後 4 時を向かえ、その後の企画へと移行するという日々であった。アメリカ食にともなう体重増加を回避するため、運動 (ランニング) は朝一に行っていた。おかげで体重はむしろ減った。ランニングする環境としては、アップダウンもそこそこあり、広大なキャンパスの風景は変化に富み、とても快適であった。ただし、自動販売機なるものは皆無であり、湿度は高く、気

温も最高で **92°F** 以上 ($32 - 3^{\circ}\text{C}$ 以上) を超え続け、熱中症対策は必須と感じた。天気予報を見ていたらジョージア州の西側など最高気温 **116°F** (46.7°C) となっていて、目を疑ったこともある。汗はまったく蒸発するそぶりを見せない。30 代を超えた体で、**5km** 以上を水なしで走ると本当に危ないので注意が必要である。

一方、病院内での個人的な見学について、これまで私は馬の骨シンチグラフィを実際に行っている現場に出会ったことがなかったので、とにかく見たかった。そのため、毎朝のように放射線科をおとずれていた。しつこい奴だと思われたに違いない。そもそも週に 1 回あるかないかである。結果として、**Clinical Rotation** 最終日にやっとそのチャンスが訪れた。さすがは米国、対応していたのは動物看護師二人と飼い主のみで、調剤、鎮静・保定、投与、撮像まですべてを看護師がこなしてしまった。馬の扱いもなれたものである。撮像が終わると画像診断医を携帯で呼び、獣医師は診断をするだけで次の診察に戻っていった。とても羨ましい。

学生たちは分散しており、私個人の研修を組み入れることはできなかったこともあって、一人で昼食をとることが多く、学部近郊で昼食を取れる場所がある程度まわることができた。なんだかんだで、学食に相当する **Snelling Dinning** が歩いて 10 分もしないところにあり、ここが値段、量、味、料理の種類について一番長けていたと私は思う。価格は来訪者の場合 **\$10** である。バイキング形式で、野菜を大量に摂取するならここが一番である。ホテルの 1 階に 3 種類ほど飲食店があるが、意外と値段は高く、メニューをみてもどんな味かわからないため選択に困る。サラダの項目にチーズとフルーツとあったので、それを頼んだら、それこそチーズとフルー

ツのみだった。サラダに対する感性も異なるので注意が必要だ。

最初の段階についてはいろいろと酷評も述べたが、学生たちは自ら問題を引き起こすようなことがなく大変助かった。強いて上げれば、ホテルの小さなジムにあるルームランナーで、何を思ったか二人乗りをしたらしく、転んで両足に擦り傷を負った学生がいたくらいである。たまたま私の体調の問題で、事前に抗生物質の飲み薬と塗り薬をもっていたので、とりあえず与えて様子を見ていたが、たいした問題にならずにすんだ。当の本人は自然の湖で泳ぐし、Dr. Gogal 宅のプールで泳ぐはで、たいそう元気であった。英語が堪能な学生はおらず、最初はみなおどおどしていたが、一週間を過ぎたあたりで自ら語りかけ、様々な交渉をこなす場面がみられた。おそらく一番成長できなかったのは私であろう。

いくつか問題点も挙げてきたが、次世代からの研修において、より深い経験をしてもらうために、本反省を参考にしてもらえれば幸いである。今回の研修期間中に、私のデジカメ撮影枚数は 1000 枚を超えた。ホテルのアメニティなど、生活感にあふれたものも多く、次年度はジョージア大学に行きたいという学生に対して、それなりの情報を提供できるかもしれない。申し出てくれたら、いくらでもお見せしたい。私の思い出話に苦痛を抱かないのであれば。

最後に、Dr. Hensel (Dermatology) より本学との連携プログラムの担当を引き継がれた副学部長の Dr. Carmichael (Pathology)、私どものわがままにとことんまで向き合ってくれた Mrs. Lakecia Pettway と Frank 夫妻に深く感謝の意を表して、本文を締めたいと思う。

Dear our new friends,

We appreciate your kind hospitality during our stay in University of Georgia. Thank you very much for the wonderful days and much pleasure.

We can feel our sensitivity to the clinics and American cultures have been grown with supports by you.

I hope we continue to keep a good relationship and we will visit UGA again.

With best regards,

Takehiko Kakizak

Eat, sing and laugh a lot !!!



☆Clinical Rotations☆











北里大学 獣医学部 獣医学科 米国三大学夏期研修 2010

インディアナ州立 パデュー大学 獣医学部

Purdue University, School of Veterinary Medicine

West Lafayette, Indiana, <http://www.vet.purdue.edu>

出国: 8/7 (土) 成田 16:55 発 UA 882

帰国: 8/22 (日) 成田 15:00 着 UA 881

テネシー州立 テネシー大学 獣医学部

The University of Tennessee, College of Veterinary Medicine

Knoxville, Tennessee, <http://www.vet.utk.edu>

出国: 8/21 (土) 成田 11:40 発 JL 010

帰国: 9/5 (日) 成田 14:35 着 JL 009

ジョージア州立 ジョージア大学 獣医学部

The University of Georgia, College of Veterinary Medicine

Athens, Georgia, <http://www.vet.uga.edu>

出国: 8/14 (土) 成田 15:55 発 DL 280

帰国: 8/29 (日) 成田 16:45 着 DL 281

Schedule 1 Purdue University

<http://www.vet.purdue.edu>



研修先の担当の先生 : Dr. J. Catharine Scott-Moncrieff
Purdue University School of Veterinary Medicine,
West Lafayette, IN 47907-1240, USA



研修期間の宿泊先 : Purdue's Union Club Hotel

101 N Grant St West Lafayette IN 47906, USA

Tel : +1-765-494-8900 Fax : +1-765-494-8924

<http://www.union.purdue.edu/HTML/UnionClubHotel/>

出国 : 8/7 (土) 成田 16:55 発 UA 882 帰国 : 8/22 (日) 成田 15:00 着 UA 881

参加者名簿 (6名)

学生番号	氏名	Name	所属研究室
06004	飯尾 寛子	HIROKO IIO	大動物外科学
06009	石田 沙倉	SAKURA ISHIDA	大動物外科学
06035	加藤 紗友美	SAYUMI KATO	人獣共通感染症学
06093	坪野 龍介	RYUSUKE NAGINO	小動物第2外科学研究室
06095	西浦 照二	AKITSUGU NISHIURA	獣医病理学
06107	藤原 秀美	HIDEMI FUJIWARA	大動物内科学

同行教員 : 吉川 泰永 YASUNAGA YOSHIKAWA

Flight information

Date	Flight	Flight No
8/7 (土)	成田 16:55 → シカゴ 14:21	UA 882
	シカゴ 17:40 → インディアナポリス 19:36	UA 5703
8/21 (土)	インディアナポリス 8:44 → シカゴ 8:50	UA 7633
	シカゴ 12:23 → 成田 15:00 <8/22 (日) 着>	UA 881

出国時の集合日時と場所 : 8/7 (土) 14:30

成田空港第1ターミナル/南ウイング4F ユナイテッド航空チェックインカウンターB付近

http://www.narita-airport.jp/jp/guide/t_info/c_list_t1_south.html

(Tel : 0120-120-747/0476-31-8000 <http://www.nwa.co.jp/>)

Schedule 2 The University of Tennessee

<http://www.vet.utk.edu>



研修先の担当の先生：Dr. James J. Brace,
University of Tennessee College of Veterinary Medicine, PO Box 1071,
Knoxville, TN 37901-1071, USA

研修期間の宿泊先：Andy Holt Apartment Residence Hall
2117 Andy Holt Avenue, Knoxville, TN 37996-3603, USA
Tel : +1-865-974-2426

http://uthousing.utk.edu/reshall_apartment.shtml

出国:8/21(土)成田 11:40 発 JL010 帰国:9/5(日)成田 14:35 着 JL009

参加者名簿(7名)

学生番号	氏名	Name	所属研究室
06040	川田 大史	HIROFUMI KAWATA	獣医公衆衛生学
06054	後藤 俊介	SYUNSUKE GOTO	獣医解剖学
06066	勝屋 雄亮	YUSUKE SYOUYA	小動物第1内科学
06068	菅原 香織	KAORI SUGAWARA	獣医生化学
06096	西村 百合香	YURIKA NISHIMURA	獣医生化学
06103	平石 恒太	KOTA HIRAIISHI	獣医公衆衛生学
06104	平出 恵理	ERI HIRAIDE	小動物第一内科

同行教員： 柏本 孝茂 TAKASHIGE KASHIMOTO

Flight information

Date	Flight	Flight No
8/21 (土)	成田 11:40 → シカゴ 9:35	JL 010
	シカゴ 14:20 → ノックスビル 16:50	JL 5490
9/4 (土)	ノックスビル 06:05 → シカゴ 06:40	JL 5491
	シカゴ 11:25 → 成田 14:35 <9/5 (日) 着>	JL 090

出国時の集合日時と場所：8/21 (土) 9:30
成田空港第2旅客ターミナルビル/3F JAL チェックインカウンターJとKの間
http://www.narita-airport.jp/jp/guide/t_info/c_list_t2.html
(Tel : 0120-747-002/0570-025-002 <http://www.jal.co.jp/inter/>)

受託手荷物 JAL : 2個まで。重量 : 23kg (50ポンド) /個を超えないこと。それぞれの手荷物の3辺(縦・横・高さ)の和が158cm (62インチ) を超えないこと。

Schedule 3 The University of Georgia

<http://www.vet.uga.edu>



研修先の担当の先生 : Dr. Paige Carmichael (Associate Dean for Academic Affairs)
The University of Georgia College of Veterinary Medicine, Athens, GA 30602, USA

研修期間の宿泊先 : The University of Georgia Center for Continuing Education (Georgia Center)
1197 South Lumpkin Street, Athens, GA 30602-3603
Tel : +1-706-542-2654 Fax: +1-706-542-2635

最終日 8/27 (金) -28(土) : Holiday Inn Express Atlanta College Park
4601 BEST ROAD
COLLEGE PARK, GA 30337 USA

Hotel Front Desk: 1-404-761-6500 | Hotel Fax: 1-404-763-3267
<http://www.ichotelsgroup.com/h/d/ex/1/en/hotel/atlbr?requestid=186915>

出国 : 8/14 (土) 成田 15:55 発 DL 280 帰国 : 8/29 (日) 成田 16:45 着 DL 281

参加者名簿 (8名)

学生番号	氏名	Name	所属研究室
06008	石田 理能	AYANO ISHIDA	獣医解剖学
06011	市川 園子	SONOKO ICHIKAWA	獣医薬理学
06014	井手 夏希	NATSUKI IDE	獣医薬理学
06030	小田 真悠子	MAYUKO ODA	獣医薬理学
06034	片山 こむぎ	KOMUGI KATAYAMA	小動物第二外科学
06051	小松 志帆	SHIHO KOMATSU	獣医解剖学
06074	清田 麻美	ASAMI SEIDA	小動物第二外科学
06110	古野 なおみ	NAOMI FURUNO	獣医病理学

同行教員 : 柿崎 竹彦 TAKEHIKO KAKIZAKI

Flight information

Date	Flight	Flight No
8/14 (土)	成田 15:55 → アトランタ 15:45	DL 280
8/30 (土)	アトランタ 13:35 → 成田 16:45 <8/29 (日) 着>	DL 281

出国時の集合日時と場所 : 8/14 (土) 12:30
成田空港第1ターミナル/北ウイング 4F デルタ航空チェックインカウンターC 付近
http://www.narita-airport.jp/jp/guide/t_info/c_list_t1_north.html
(デルタ航空 Tel : 0120-333-742/03-3593-6666 <http://www.delta.com/>)

注意事項

1) 成田空港まで

成田空港ホームページ <http://www.narita-airport.or.jp/airport/>

JR、京成電鉄およびリムジンバスが成田空港に乗り入れています。

何れも本数が限られていますので、余裕をもって乗車しましょう。

目安の所要時間

JR：総武線と成田線の快速で東京駅から 80 分

成田エクスプレス（座席指定が必要）も各地（東京、横浜等）からあります。

京成電鉄：京成上野駅からスカイライナー（座席指定が必要）で約 60 分。

特急約 75 分、料金 1000 円は最も経済的。その他の快速や急行などでは、乗り換えがあり、時間がかかりかかります。

第 2 ターミナル利用 → 空港第 2 ビル 駅下車
第 1 ターミナル利用 → 成田空港駅（終点）下車

リムジンバス：各地（東京、大宮等）からありますが、道路事情で所要時間が大きく左右されますので利用は控えた方がよいでしょう。

2) 飛行機へのチェックイン

成田空港の各航空会社のカウンターで行います。

旅行代理店から渡された搭乗券（boarding pass）とパスポートを航空会社のカウンターに提示して、チェックインします。このとき、大きなスーツケースを預けません。これはアメリカ入国まで戻ってきません。貴重品や成田空港内、機内で必要なものは別に 1 個の手荷物にして持っていきましょう。

これから海外旅行を繰り返す可能性のある人は、マイレージサービスなどの手続きをするのも良いでしょう。

3) 荷物チェックリスト

手荷物

パスポート（紛失・盗難に備えてコピーと写真 2 枚も準備しておくとう安心です）

航空券

現金／トラベラーズチェック

海外旅行傷害保険証および関連資料（米国での医療費は大変高額です）

ノートパソコン、デジカメなど（あるいはカメラとフィルム）

筆記用具

スリッパ（機内と宿舎内で便利）

クレジットカード（パスワードがあれば覚えておく）

その他（安眠枕、耳栓、アイマスク、ガム、ウェットティッシュ、コンタクトなど）

- 一泊分の衣服（スーツケースと一緒に到着しなかった場合に重宝）
スーツケースなど
常備薬（解熱薬、虫さされ、防虫スプレー、胃腸薬等）
洗面用具（ボディソープ、シャンプー・リンス、ひげ剃り、ブラシ、洗顔石鹸、
歯磨きセット、タオル、ハンカチ、ティッシュペーパー、爪切り）
洗濯用具（洗剤、洗濯バサミ、洗濯ロープなど）
デイパックなど（ちょっと出かける際に便利）
衣類（圧縮袋を使うと便利）
ビニール袋（いろいろ便利）
ガムテープ（スーツケース修理など、いざというときに重宝）
目覚まし時計（遅刻しないように）
*眼鏡を使用している人は、予備の眼鏡を持って行くのが望ましい

注意！！

- アメリカへ行く際、スーツケースに鍵をかけると、中身のチェックのために鍵を壊されます。無用なトラブルを避けるには、鍵をかけないか、あるいは TSA ロックと呼ばれる鍵の付いたスーツケースやバンドを使用した方がよいでしょう。
- テロ関連で機内持ち込みが制限されているもの（飲料水や化粧品、コンタクトレンズ洗浄液など）は、手荷物ではなくスーツケースに入れましょう。詳しくはホームページ等で確認ください。http://www.narita-airport.jp/jp/whats_new/070209.html
- 無料で預けられる荷物のサイズを航空会社ホームページで確認しましょう。
- 盗難や破損を防ぐため、カメラ・ビデオ・ノートパソコンは預けてしまうスーツケースに入れないで、機内に手荷物で持ち込みましょう。
- 渡航前に歯の治療を済ませておきましょう。米国での歯科治療費は保険でカバーできません。

4) 報告書

学外実習のレポート以外に、研修の報告書を作成してもらいます。原稿用紙 5 枚程度の体験記をまとめ、コンピューターで作成した文章のデータをフロッピーや CD で提出してもらいます。実習中に日々の研修活動やレクリエーションについて、こまめに記録をしておきましょう。お世話になった現地の先生方へも報告書を送るので、英語でまとめの文章を必ず書いてください。(報告書提出締切 9 月 19 (金)、同行教員まで)

5) 海外旅行保険

アメリカでは病気や怪我の治療には、保険がないため大変高額な医療費を要求されます。そこで、皆さんには予め海外旅行用の損害保険に加入してもらいました。保険証書といっしょに、推奨の医療機関や日本語の通じる医者などのリストが渡されたはずですので、この資料を各自が忘れずに携帯してください。

6) 国内連絡先

北里大学獣医学部

青森県十和田市東 23 番町 35-1 獣医臨床繁殖学研究室

0176-23-4371 (内線 454)

担当者：大浪 洋二 教授、 e-mail : ohnami@vmas.kitasato-u.ac.jp

Kitasato University,

School of Veterinary Medicine,

Higashi 23-35-1, Towada, Aomori 034-8628, JAPAN

Tel : +81-176-23-4371 Fax : +81-176-23-8703

Prof. Youji Ohnami, e-mail : ohnami@vmas.kitasato-u.ac.jp

7) その他

パスポートと出国・入国手続き

- 出国カードは早めを書いておきましょう。出国審査官の前では混雑のため書けません。
- 機内で渡されるアメリカ入国審査用の用紙にはすぐに記入しましょう。
その際にはパスポートの置忘れに注意！貴重品はいつも同じ場所にしまいましょう。
- アメリカ入国の際、審査官が乗って来た航空機の便名、訪問理由、訪問先、滞在期間などを聞きます。予め英語で答えられるようにしておきましょう。
- アメリカ入国審査官が出国時に必要なカードをパスポートにホッチキスで止めてくれます。これがないと帰国できなくなるので、紛失注意。
- テロ対策で指紋を取られることがあります。その際、少しでも犯罪者のものと似ていると、取り調べが行われます。何を調べられても良いように、荷物や持ち物はきちんと整理しておきましょう。
- アメリカから植物や果物は持ち込めません。また、牛肉製品（ジャーキーなど）は成田空港で没収される可能性が高いので注意してください。

関連情報 <http://www.narita-airport.jp/jp/travel/kinsi/index.html>

お金など

- クレジットカードは自分の信用証明にも役立ちます。JCB と American Express より VISA と MasterCard の方が対応する店舗が多く、使いやすいかもしれません。ただし、いずれにしても、最近の使用の際に 4 桁のパスワードを求められる場合が多いので、各自確認しておきましょう。
- 最初に入る国の現金 100 ドル程度を小銭 1-5 ドル札と 20 ドル札に分けて持っておけば何かと小用の買い物に便利です（土日は銀行が休みだったり、朝早く、また夜遅くに飛行機が着いて両替できないことがあります）。100 ドル札（特に未使用札）の使用は嫌がられることもあります。
- 免税店は最後に搭乗する空港でだけ利用できます。チェックイン後、搭乗までが買い物時間。
- チップについては、レストランでは 15%、タクシーでは 10%、ホテルではピローチッ

プを毎朝1ドルぐらい、重いバッグを持ってもらっても1ドルで十分です。

- 帰国後、ドル札は日本円に換金できますが、コインは換金できません。帰国直前までに（空港等で）コインを最優先で使い切るようにすればムダがありません。
- 大学内でも不用意に財布を置かないように！カバンと一緒に置き忘れると盗難に遭う可能性は高いので、注意しましょう。

その他

- アメリカはサマータイム中のため、実際の時差より1時間早いことに注意しましょう。
- 室内は禁煙が原則です。ホテルの部屋でも禁煙の所も多いので、喫煙可能な場所を確かめましょう。
- 飛行機のリコンファーム（予約再確認）は不要です。
- 電気製品は電圧の違いで使えないことがあります。
- 水着を持って行っておくと、キャンパスにあるプールに入れるかも。
- 電話：海外から日本へ通話するには、オペレーターを通すよりもクレジットカードがあれば安く簡単です。かけ方は概ね次のとおり：受話器を取り、カードを通して、0081（日本の国番号）を押し、その後にかきたい相手先の電話番号から最初の0をとったものを押します。また、いざという時のために、出国前に自分の携帯電話をアメリカでも使用できる物に交換できるサービスを利用するのも良いでしょう。もちろん料金は割高です。



平成22年度
北里大学 獣医学部 獣医学科